



平成27年度 神戸大学データ資料集

データと資料が語る
神戸大学の今の姿

Contents



概要

1. 概要・ランキング … 1

教育

2. 学生数 … 6
3. 学部一般選抜志願状況 … 8
4. 入学状況 -学部- … 11
5. 入学状況 -研究科- … 13
6. 学位授与状況 -授与率- … 15
7. 進路・就職状況 … 17
8. 資格試験合格状況 … 23
9. 学生生活状況 … 25
10. 教育プログラムの採択状況 … 28

研究

11. 研究論文 … 29
12. 科学研究費 … 33
13. 日本学術振興会特別研究員 … 36
14. 研究プログラムの採択状況 … 37
15. 文化勲章受章者等一覧 … 39

産学官連携

16. 産学官連携状況 … 40
17. 国内の大学等との連携協定 … 43
18. 連携大学院実施状況 … 44
19. 教育関係共同利用拠点 … 45

外部資金

20. 外部資金 … 46

国際

21. 留学 … 49
22. 海外大学との交流状況 … 52
23. 研究者等交流状況 … 54

附属病院

24. 附属病院 … 55

附属学校

25. 附属学校 … 58

社会貢献

26. 公開講座等 … 59

教職員

27. 教員 … 60
28. 職員 … 63

財務

29. 財務 … 64

学内施設

30. 学内施設等 … 75

表紙写真：先端膜工学センター

表紙裏写真：出光佐三記念六甲台講堂

1. 概要・ランキング

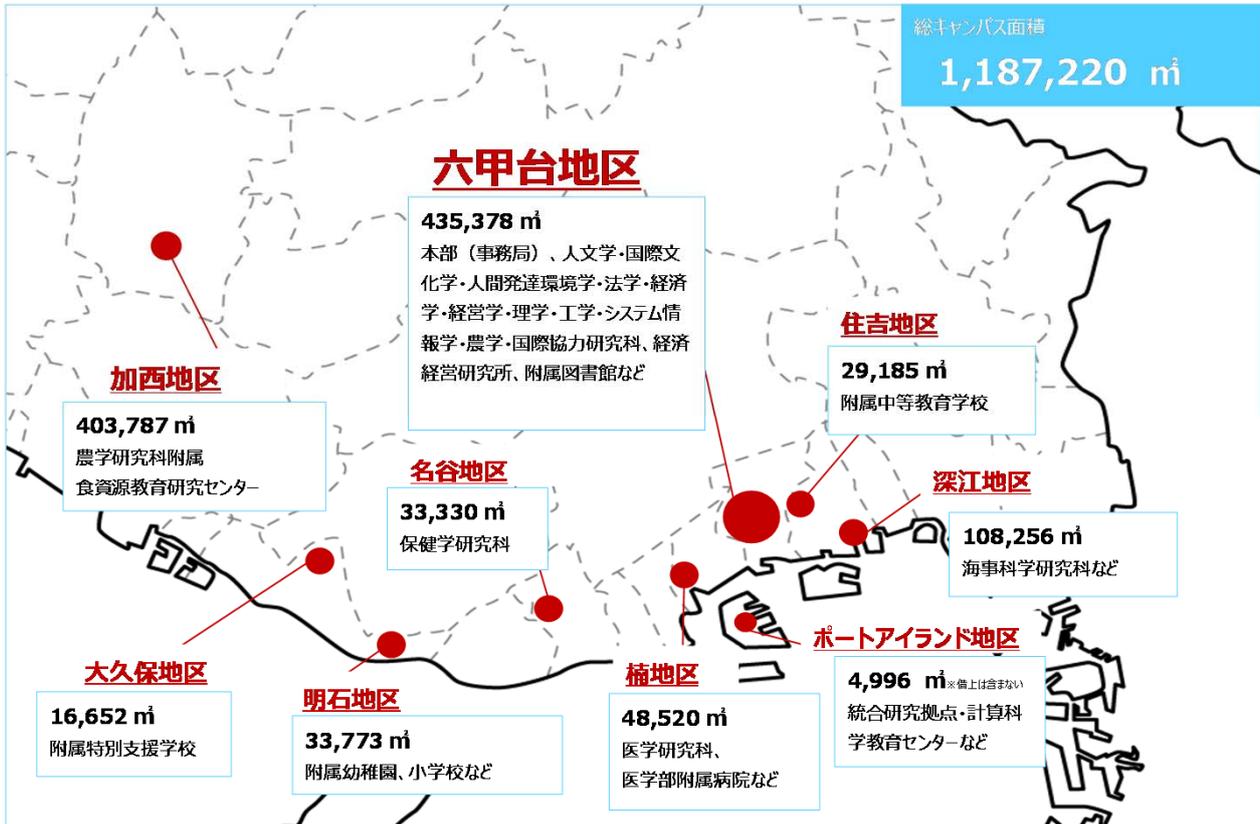
1-1 神戸大学の概要

平成27年5月1日現在

区 分		入学定員	入学者数	総定員	在籍者数 (注1)		
学生等数	学部	2,697	2,773	10,705	11,696	(4,025)	
	大学院	修士・博士前期課程	1,233	1,285	2,462	2,763	(937)
		博士・博士後期課程	377	327	1,209	1,596	(546)
		専門職学位課程	149	151	378	336	(72)
	合計	4,456	4,536	14,754	16,391	(5,580)	
	外国人留学生数	学部生 (内数)	95	788	269	1,152	(655)
		大学院生 (内数)					
附属学校	学級数	54		在籍者数 (注2)			
				1,611 [99]			
区 分		教員数 (注3)	附属学校教諭 (注4)	その他職員数	計		
教職員数	合計	1,592	121	1,896	3,609		
	(女性教職員数)	(260)	(56)	(1,196)	(1,512)		
	女性比率	16.3%	46.3%	63.1%	41.9%		
予算規模		平成27年度 約 706 億円 (うち運営費交付金 約208億円)					

注1：()内は女子を内数で表す。教職員数については、休職者を除く現員数。
 注2：在籍者数の[]は、帰国子女数を内数で示す。注3：役員及び特別顧問を含む。注4：再雇用教員を含む。

1-2 主要キャンパス



学外オフィス等 [国内] 神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ(大阪)、神戸大学東京オフィス
 [海外] 神戸大学中国事務所(北京)、神戸大学ブリュッセルオフィス

1-3 神戸大学の位置 — 規模 — (国立大学間)

学部数

順位	大学名	学部数
1	北海道大学	12
2	神戸大学	11
2	大阪大学	11
2	岡山大学	11
2	広島大学	11
2	九州大学	11
7	東北大学	10
7	東京大学	10
7	京都大学	10
10	筑波大学	9
10	千葉大学	9
10	新潟大学	9
10	名古屋大学	9
10	山口大学	9
10	長崎大学	9
10	鹿児島大学	9

(2015)

学部・大学院入学定員

順位	大学名	入学定員
1	東京大学	7,992
2	京都大学	6,574
3	大阪大学	6,286
4	九州大学	5,218
5	東北大学	5,103
6	北海道大学	4,840
7	筑波大学	4,490
8	名古屋大学	4,432
9	神戸大学	4,306
10	広島大学	3,901
11	千葉大学	3,559

(2015)

教員 (常勤)

順位	大学名	教員数
1	東京大学	2,868
2	京都大学	1,985
3	大阪大学	1,984
4	東北大学	1,781
5	九州大学	1,599
6	筑波大学	1,506
7	北海道大学	1,483
8	名古屋大学	1,282
9	広島大学	1,208
10	神戸大学	1,181
11	岡山大学	979

※教授・准教授・講師のみの値。(2014)

学部入学定員

順位	大学名	入学定員
1	大阪大学	3,255
2	東京大学	3,063
3	京都大学	2,866
4	九州大学	2,555
5	神戸大学	2,547
6	北海道大学	2,485
7	東北大学	2,396
8	広島大学	2,358
9	千葉大学	2,322
10	新潟大学	2,247
11	岡山大学	2,198
12	名古屋大学	2,107
13	筑波大学	2,094

(2015)

大学院入学定員

順位	大学名	入学定員	入学定員 (M)	入学定員 (P)	入学定員 (D)
1	東京大学	4,929	2,843	395	1,691
2	京都大学	3,708	2,255	324	1,129
3	大阪大学	3,031	2,009	80	942
4	東北大学	2,707	1,775	120	812
5	九州大学	2,663	1,738	140	785
6	筑波大学	2,396	1,651	66	679
7	北海道大学	2,355	1,575	100	680
8	名古屋大学	2,325	1,525	70	730
9	東京工業大学	2,151	1,544	40	567
10	神戸大学	1,759	1,233	149	377
11	広島大学	1,543	1,017	36	490
12	千葉大学	1,237	936	40	261
13	岡山大学	1,131	810	50	271

(2015)

事務職員 (常勤)

順位	大学名	職員数
1	東京大学	1,518
2	京都大学	1,409
3	大阪大学	1,231
4	東北大学	1,099
5	九州大学	1,049
6	東京工業大学	933
7	北海道大学	893
8	岡山大学	731
9	筑波大学	723
10	名古屋大学	691
11	神戸大学	601

(2014)

運営費交付金

順位	大学名	金額 (百万円)
1	東京大学	80,338
2	京都大学	53,090
3	東北大学	45,588
4	大阪大学	44,308
5	九州大学	41,150
6	筑波大学	40,377
7	北海道大学	36,976
8	名古屋大学	31,310
9	広島大学	24,737
10	東京工業大学	21,232
11	神戸大学	20,765

※未滿は切り捨て。

(2015)

出典 1. 学部・大学院数、入学定員については、「全国大学一覽 (平成27年度)」により確認した。
 2. 教職員数については、朝日新聞出版「大学ランキング2016年版」により確認した。
 3. 運営費交付金については、「平成27年度 国立大学法人運営費交付金 予定額」により確認した。

1-3 神戸大学の位置 — 教育 —

(国立大学間)

概要

教員一人当たりの学生数(大規模13大学間)

順位	大学名	人
1	東北大学	6.5
2	筑波大学	7.2
3	東京大学	8.0
4	大阪大学	9.6
5	名古屋大学	9.8
6	北海道大学	9.9
7	広島大学	11.1
8	京都大学	11.7
9	九州大学	12.1
10	神戸大学	12.5
11	岡山大学	13.5
12	千葉大学	14.3
13	新潟大学	14.8

※少ない順 (2014)

校舎面積

順位	大学名	m
1	東京大学	817,253
2	北海道大学	714,823
3	京都大学	712,563
4	神戸大学	547,342
5	広島大学	540,876
6	大阪大学	531,618
7	名古屋大学	520,882
8	新潟大学	520,080
9	岡山大学	499,577
10	筑波大学	470,737
11	東北大学	465,407
12	信州大学	430,494
13	東京工業大学	382,269

(2014)

学生一人当たりの校舎面積(大規模13大学間)

順位	大学名	m
1	北海道大学	62.8
2	東京大学	58.4
3	京都大学	53.0
4	名古屋大学	52.5
5	広島大学	51.7
6	新潟大学	51.1
7	岡山大学	50.3
8	筑波大学	48.0
9	神戸大学	46.2
10	東北大学	42.1
11	大阪大学	34.2
12	九州大学	30.6
13	千葉大学	26.5

(2014)

女性教員数

順位	大学名	人
1	東京大学	275
2	筑波大学	226
3	大阪大学	224
4	京都大学	152
5	九州大学	149
6	名古屋大学	147
7	広島大学	142
8	神戸大学	138
9	千葉大学	136
10	東北大学	135
11	北海道大学	114
12	岡山大学	111
13	新潟大学	101
13	お茶の水女子大学	101

※常勤の教授・准教授・講師の合計 (2014)

外国人教員数

順位	大学名	人
1	東京大学	132
2	大阪大学	85
3	東北大学	78
4	九州大学	71
5	筑波大学	70
6	京都大学	51
7	神戸大学	47
8	東京外国語大学	40
9	広島大学	39
10	岡山大学	34
11	名古屋大学	33
12	北海道大学	32
12	山口大学	32

※常勤の教授・准教授・講師の合計 (2014)

図書館蔵書数

順位	大学名	蔵書数
1	東京大学	9,350,046
2	京都大学	6,794,857
3	九州大学	4,210,750
4	東北大学	4,019,510
5	大阪大学	3,936,169
6	北海道大学	3,834,123
7	神戸大学	3,746,715
8	広島大学	3,439,799
9	名古屋大学	3,231,191
10	一橋大学	2,649,887
11	筑波大学	2,596,533
12	岡山大学	2,122,865
13	金沢大学	1,864,667

(2014)

入学率(大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	京都大学	99.49%
2	東京大学	98.83%
3	名古屋大学	97.98%
4	大阪大学	97.01%
5	東北大学	96.78%
6	九州大学	95.63%
7	岡山大学	95.57%
8	神戸大学	95.39%
9	筑波大学	94.56%
10	北海道大学	94.51%
11	広島大学	94.08%
12	新潟大学	93.50%
13	千葉大学	91.98%

(2014)

標準修業年限卒業率(大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	大阪大学	75.0%
2	京都大学	75.1%
3	神戸大学	77.0%
4	東京大学	78.3%
5	筑波大学	81.0%
6	北海道大学	82.8%
7	九州大学	83.7%
8	千葉大学	86.3%
9	新潟大学	86.4%
10	広島大学	86.5%
11	東北大学	86.5%
12	名古屋大学	86.8%
13	岡山大学	91.4%

※低い順 (2013)

人事が見る大学イメージランキング

順位	大学名	全体順位
1	京都大学	1
2	筑波大学	2
3	東京大学	3
4	東京外国語大学	4
5	大阪大学	6
6	東京工業大学	7
7	神戸大学	8
7	北海道大学	8
9	東京農工大学	11
10	長岡技術科学大学	13
11	京都工芸繊維大学	14
12	信州大学	16

(2015)

『志願したい大学』ランキング(関西)

順位	大学名	志願率 (%)
1	関西大学	11.9%
2	近畿大学	11.1%
3	神戸大学	9.6%
4	大阪市立大学	9.3%
5	関西学院大学	8.9%
6	大阪大学	8.8%
7	同志社大学	8.7%
8	立命館大学	6.7%
9	龍谷大学	6.4%
10	大阪府立大学	5.6%
11	京都大学	4.3%
12	関西外国語大学	3.7%
13	京都産業大学	3.7%

※公私立大学を含む (2015)

※ 学部入学定員の上位13大学を大規模13大学と定義する。(以下同じ)
出典

1. 教員一人当たりの学生数、校舎面積、学生一人当たりの校舎面積、女性教員数、外国人教員数、図書館蔵書数、入学率、標準修業年限卒業率については朝日新聞出版「大学ランキング2016年版」により確認した。
2. 「人事が見る大学イメージランキング」については日経HR「価値ある大学2016年版 就職力ランキング」により確認した。
3. 『志願したい大学』ランキングについては、株式会社リクルートマーケティングパートナーズの進学ブランド力調査により確認した。
※2016年3月卒業の高校生対象(関西エリアの回答実数は2994名)

1-3 神戸大学の位置 — 研究 — (国立大学間)

概要

科学研究費補助金

順位	大学名	配分総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	21,880,934	7,629
2	京都大学	14,321,256	7,214
3	大阪大学	11,458,458	5,775
4	東北大学	10,479,287	5,883
5	九州大学	7,428,538	4,645
6	名古屋大学	7,361,588	5,742
7	北海道大学	6,045,156	4,076
8	東京工業大学	4,759,690	6,538
9	筑波大学	3,757,182	2,494
10	神戸大学	2,972,738	2,517
11	広島大学	2,936,960	2,431
12	千葉大学	2,437,093	2,908
13	岡山大学	2,267,044	2,315

(2014)

共同研究 (民間企業)

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	京都大学	4,464,971
2	東京大学	3,912,627
3	東北大学	3,379,519
4	大阪大学	2,734,488
5	九州大学	1,662,394
6	名古屋大学	1,487,274
7	東京工業大学	1,215,805
8	北海道大学	838,432
9	神戸大学	555,547
10	名古屋工業大学	544,624
11	東京農工大学	541,400
12	千葉大学	488,675
13	山形大学	464,690

(2013)

共同研究 (中小企業)

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	東京大学	869,705
2	九州大学	457,059
3	名古屋大学	275,662
4	京都大学	234,361
5	大阪大学	222,209
6	東京農工大学	199,719
7	神戸大学	195,034
8	東北大学	146,015
9	東京工業大学	131,973
10	北海道大学	122,960
11	信州大学	111,138
12	筑波大学	101,624
13	千葉大学	97,800

(2013)

外部資金総額

順位	大学名	総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	44,549,599	15,533
2	京都大学	28,806,495	14,512
3	大阪大学	19,631,792	9,895
4	東北大学	17,050,113	9,573
5	名古屋大学	13,281,353	10,359
6	九州大学	11,691,769	7,311
7	東京工業大学	8,226,740	11,300
8	北海道大学	7,633,847	5,147
9	筑波大学	5,739,136	3,810
10	神戸大学	5,263,245	4,456
11	広島大学	4,105,105	3,398
12	東京医科歯科大学	3,735,099	9,504
13	熊本大学	3,432,589	4,960

※奨学寄附金、受託研究費、共同研究費の計。千円未満切り捨て。(2013)

出典

1. 科学研究費補助金、外部資金については、朝日新聞出版「大学ランキング2016年版」により確認した。

2. 共同研究(民間企業)、共同研究(中小企業)、受託研究(民間企業)については文部科学省「平成25年度大学等における産学連携等実施状況」により確認した。

3. 学術論文(量)については、Thomson Reuters社のデータベース「InCites™」にて確認した。(2015.6.9時点)
なお、数値は2010年から2014年までの累計を記している。

4. 学術論文(質)については、Thomson Reuters社のデータベース「InCites™」にて確認した。(2015.6.9時点)
なお、定義は下記の通りである。

(被引用インパクト=被引用数÷論文数)
「(世界全体の) 相対被引用インパクト」

→各大学の「Impact Relative to World」の数値を記載している。

A 大学の世界における平均被引用数を、世界全体の平均被引用数で割ったもの。

受託研究 (民間企業)

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	京都大学	657,865
2	東京大学	488,080
3	山形大学	300,348
4	神戸大学	264,874
5	九州大学	261,877
6	名古屋大学	215,117
7	大阪大学	203,111
8	東京工業大学	188,489
9	北海道大学	101,201
10	筑波大学	100,442
11	三重大学	88,789
12	徳島大学	78,526
13	秋田大学	63,157

(2013)

学術論文(量) (大規模13大学間)

順位	大学名	総論文数
1	東京大学	40,584
2	京都大学	29,726
3	大阪大学	23,034
4	東北大学	22,960
5	九州大学	16,053
6	名古屋大学	15,822
7	北海道大学	15,548
8	筑波大学	10,128
9	広島大学	8,545
10	神戸大学	7,460
11	岡山大学	7,370
12	千葉大学	6,780
13	新潟大学	4,467

(2010-2014)

学術論文(質) (大規模13大学間)

順位	大学名	相対被引用 インパクト	総被引用数
1	東京大学	2.302	355,133
2	大阪大学	2.093	183,213
3	名古屋大学	2.032	122,217
4	京都大学	1.990	224,838
5	岡山大学	1.985	55,607
6	広島大学	1.954	63,469
7	筑波大学	1.903	73,274
8	東北大学	1.827	159,439
9	神戸大学	1.751	49,646
10	九州大学	1.615	98,564
11	北海道大学	1.612	95,276
12	千葉大学	1.569	40,442
13	新潟大学	1.508	25,600

※小数点第四位以下切り捨て (2010-2014)

世界大学ランキング

①QS社・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	京都大学	38
2	東京大学	39
3	東京工業大学	56
4	大阪大学	58
5	東北大学	74
6	名古屋大学	120
7	北海道大学	139
8	九州大学	142
9	早稲田大学	212
10	筑波大学	219
10	慶應義塾大学	219
12	広島大学	348
13	神戸大学	361

(2015/2016)

②QS社・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	12
2	大阪大学	13
3	京都大学	14
4	東京工業大学	15
5	東北大学	20
6	名古屋大学	21
7	北海道大学	25
8	九州大学	28
9	筑波大学	33
10	慶應義塾大学	37
11	早稲田大学	39
12	神戸大学	41
13	広島大学	53

(2015)

③THE誌・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	43
2	京都大学	88
3	東北大学	201-250
3	東京工業大学	201-250
5	大阪大学	251-300
6	名古屋大学	301-350
7	筑波大学	401-500
7	北海道大学	401-500
7	首都大学東京	401-500
7	九州大学	401-500
7	東京医科歯科大学	401-500
12	広島大学	501-600
12	東京農工大学	501-600
12	大阪市立大学	501-600
12	金沢大学	501-600
12	慶應義塾大学	501-600
17	神戸大学 他24大学	601-800

(2015-2016)

④THE誌・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	1
2	京都大学	9
3	東京工業大学	15
4	大阪大学	18
5	東北大学	19
6	名古屋大学	32
7	首都大学東京	33
8	東京医科歯科大学	40
9	筑波大学	48
10	九州大学	58
11	早稲田大学	59
12	北海道大学	63
13	慶應義塾大学	73
14	順天堂大学	75
15	広島大学	78
16	神戸大学	81
17	岡山大学	88

(2015)

⑤上海交通大学・世界大学学術ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	21
2	京都大学	26
3	名古屋大学	77
4	大阪大学	85
5	東北大学	101-150
6	北海道大学	151-200
6	東京工業大学	151-200
8	九州大学	201-300
8	筑波大学	201-300
10	神戸大学	301-400
10	千葉大学	301-400
10	慶應義塾大学	301-400
13	広島大学	401-500
13	金沢大学	401-500
13	奈良先端科学技術大学院大学	401-500
13	岡山大学	401-500
13	徳島大学	401-500
13	東京医科歯科大学	401-500

(2015)

国際共著論文 (大規模13大学間)

順位	大学名	国際共著論文数 (本)	比率 (%)
1	東京大学	13,440	33.12%
2	京都大学	9,008	30.30%
3	東北大学	7,371	32.10%
4	大阪大学	6,411	27.83%
5	名古屋大学	4,766	30.12%
6	北海道大学	4,267	27.44%
7	九州大学	4,208	26.21%
8	筑波大学	3,154	31.14%
9	広島大学	2,442	28.58%
10	岡山大学	2,320	31.48%
11	神戸大学	1,920	25.74%
12	千葉大学	1,757	25.91%
13	新潟大学	1,239	27.74%

(2010-2014)

外国人留学生数 (国立大学間)

順位	大学名	人数 (人)
1	東京大学	2,798
2	大阪大学	2,012
3	九州大学	1,972
4	筑波大学	1,889
5	京都大学	1,725
6	名古屋大学	1,668
7	東北大学	1,532
8	北海道大学	1,456
9	東京工業大学	1,224
10	神戸大学	1,096
11	広島大学	1,059
12	横浜国立大学	843
13	千葉大学	819

※在留資格「留学」の学生

(2014)

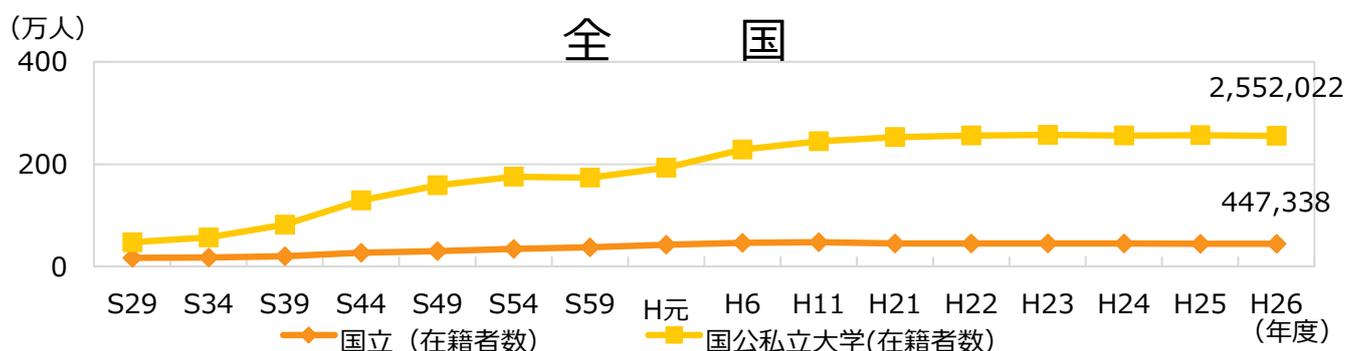
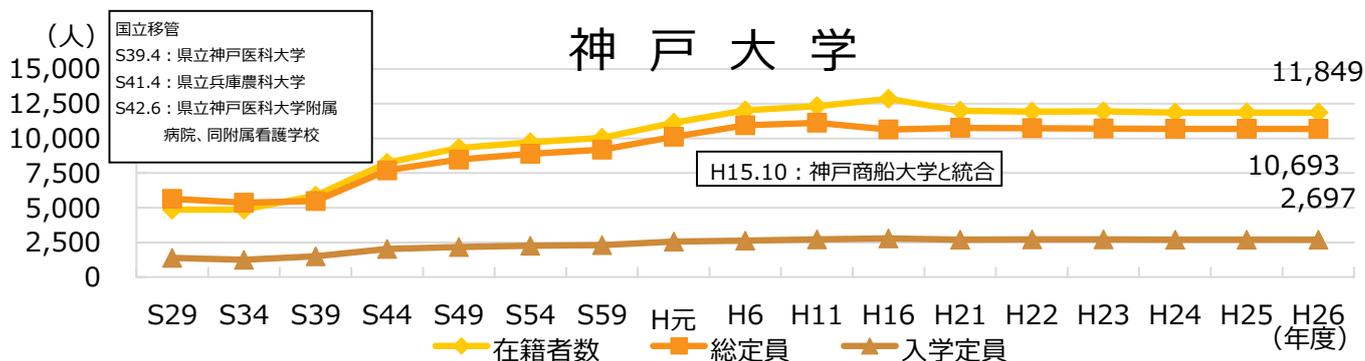
出典

- 世界大学ランキングについては各発表機関のHPにて確認した。
なお、「-」についてはその順位グループに属していることを示しており（例：201-300は201位から300位のグループ）、「+」についてはランク外であることを示している（例：401+は400位まで発表のランキングにてランクインしなかった大学）。
- 外国人留学生数については、朝日新聞出版「大学ランキング2016年版」により確認した。
- 国際共著論文についてはThomson Reuters社のデータベース「InCites™」にて確認した。なお、共著論文数の数値は2010年から2014年までの累計を記している。

2. 学生数

2-1 学生数の推移 — 学士課程 —

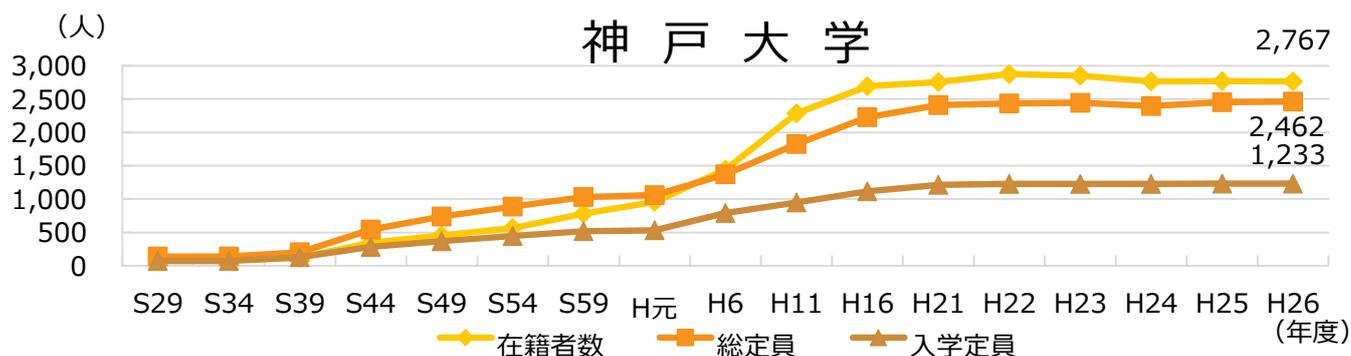
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

2-2 学生数の推移 — 修士・博士前期課程 —

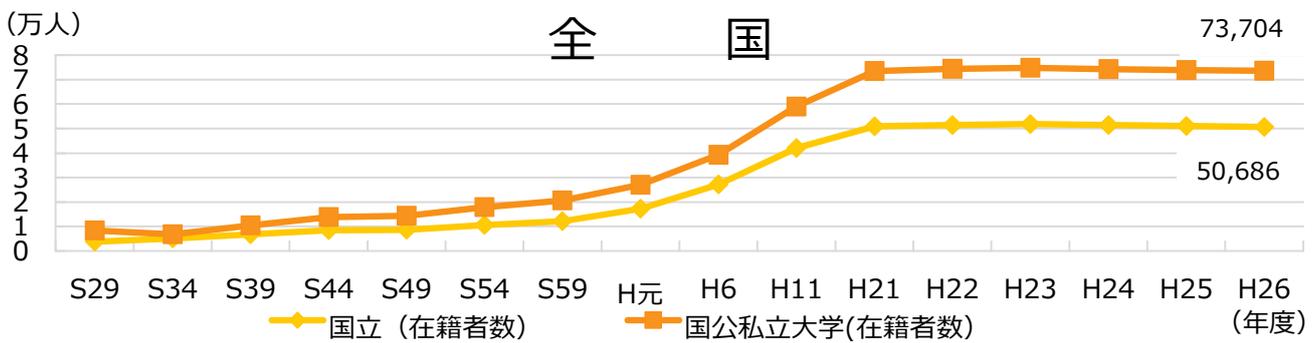
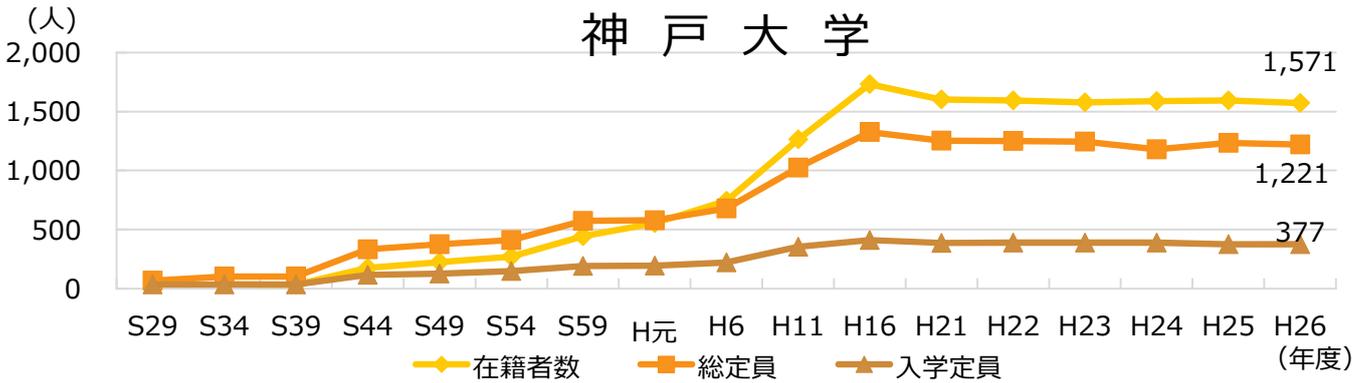
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

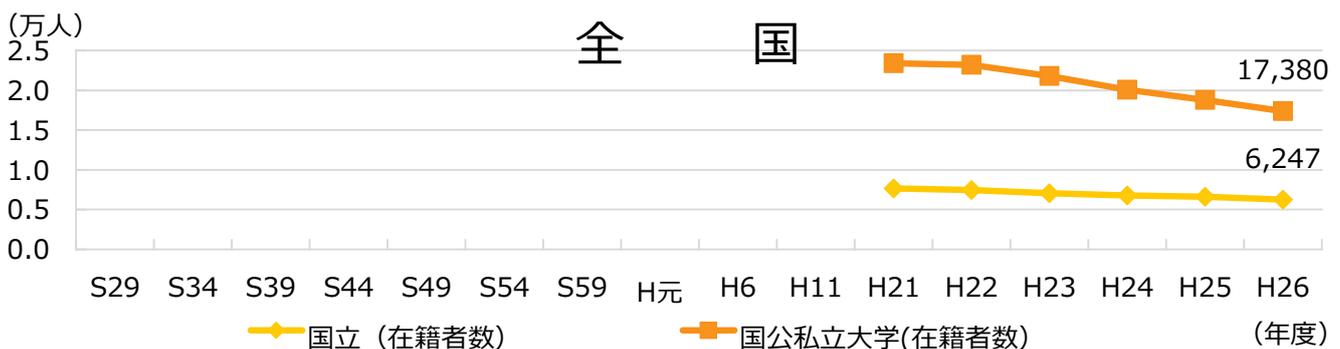
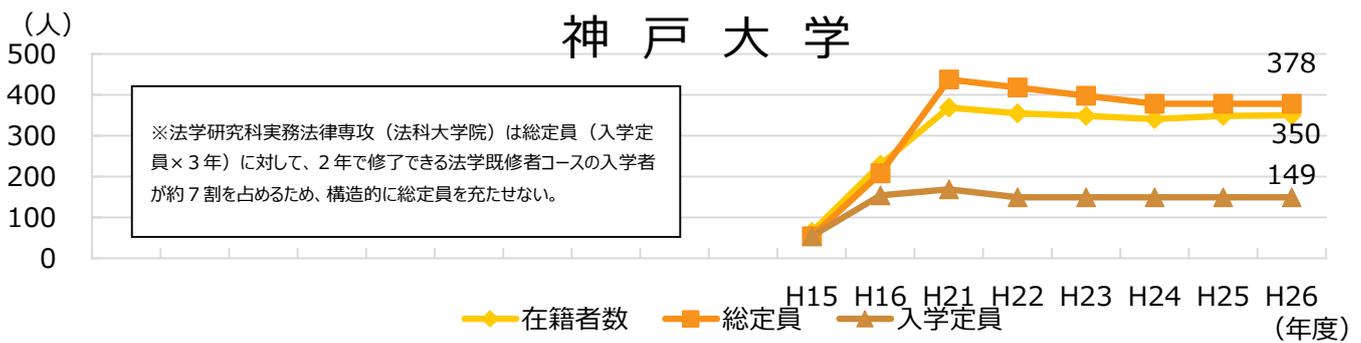
2-3 学生数の推移 — 博士・博士後期課程 —

各年度5月1日現在



2-4 学生数の推移 — 専門職学位課程 —

各年度5月1日現在

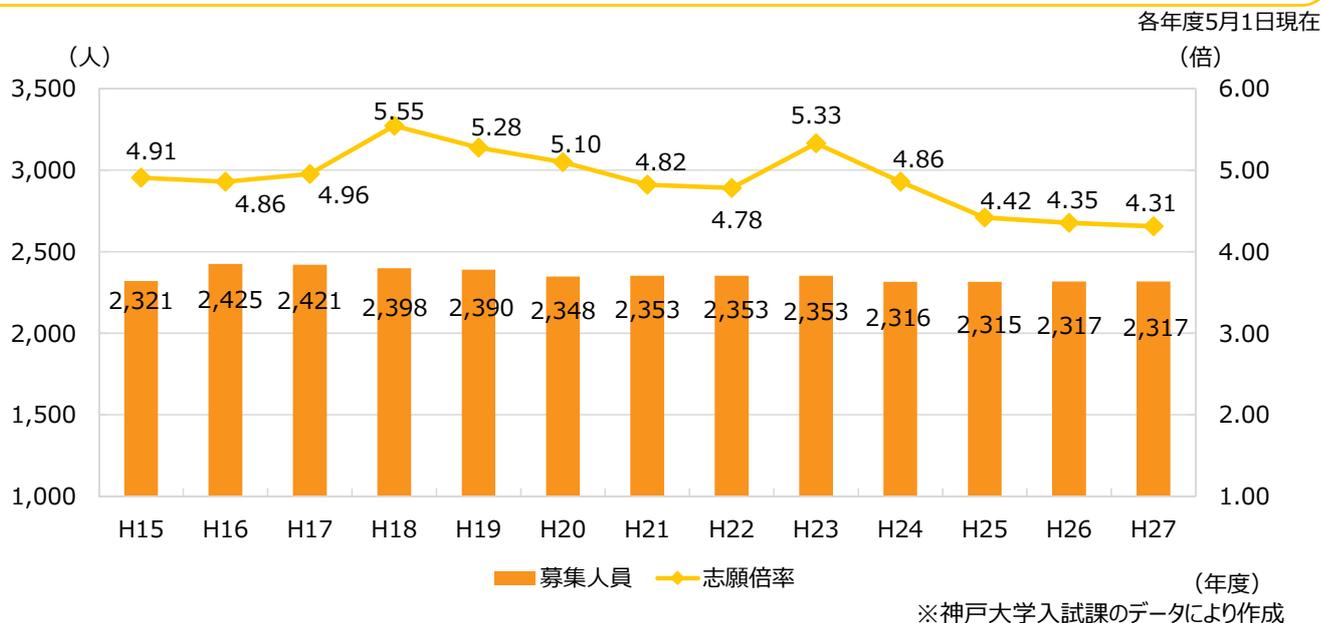


※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

3. 学部一般選抜志願状況

3-1 学部一般選抜志願状況（推移）

- 国立大学法人化（平成16年度）以降、神戸大学の学部一般選抜（一般入試）の志願倍率は、**4.3～5.6倍**前後で推移している。
- 平成27年度入試においては、2,317名の募集人員に対し9,986名の受験生が志願し、志願倍率は**4.31倍**であり、平成15年度以降最も低い。なお、全国的にも大学（学部）志願者は減少している。（3-3参照）

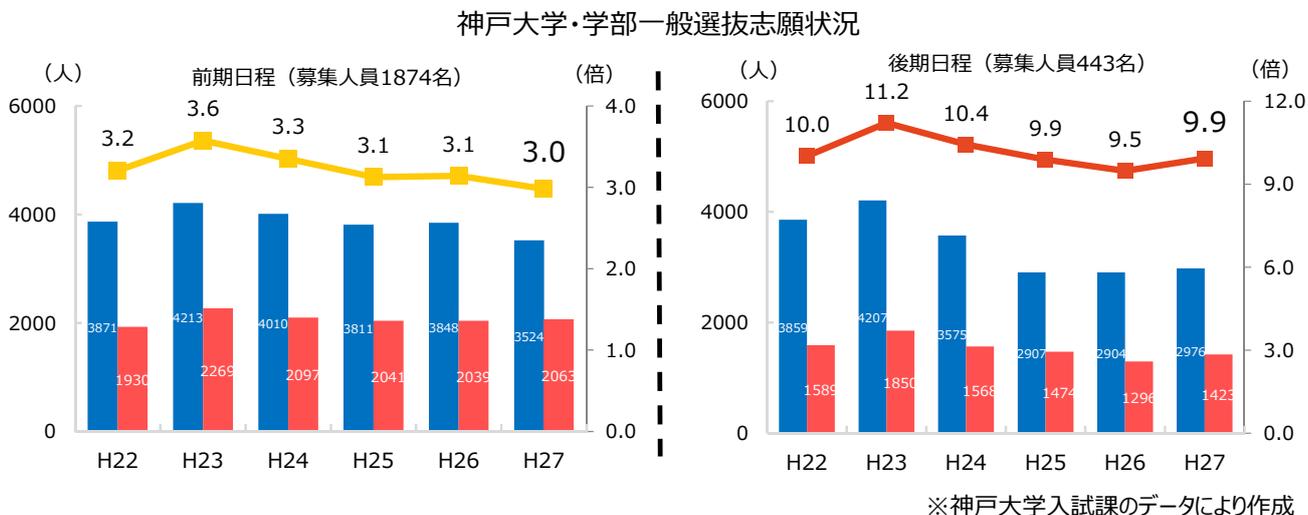


3-2 学部一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

- 前期・後期および男女別の志願者数推移は以下のとおりである。前期日程は**3倍**程度、後期日程は**10倍**前後の志願倍率を推移しており、安定して入学者を確保している。
- 志願者の男女比については、年度によってやや差があるものの、概して2対1の割合で推移している。

■ = 男子志願者数 ■ = 女子志願者数 ■ = 前期志願倍率 ■ = 後期志願倍率

各年度5月1日現在

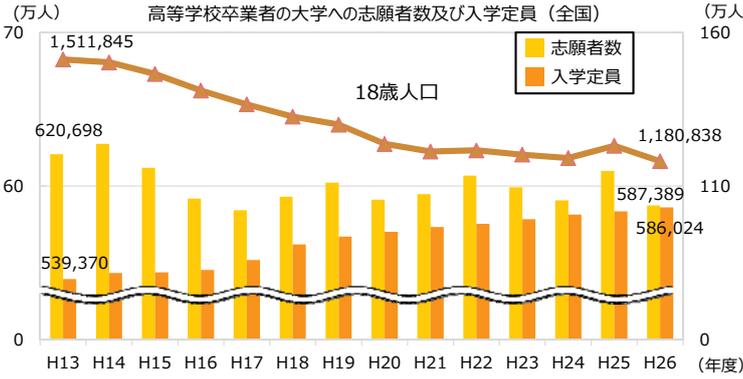


(注) 日程ごとの募集人員についてはH27の数値である。各年度の募集人員は以下のとおり。

H22 (前) 1809名 (後) 544名	H25 (前) 1872名 (後) 443名
H23 (前) 1813名 (後) 540名	H26 (前) 1874名 (後) 443名
H24 (前) 1823名 (後) 493名	

3-3 【参考】全国の大学への志願者数及び入学定員

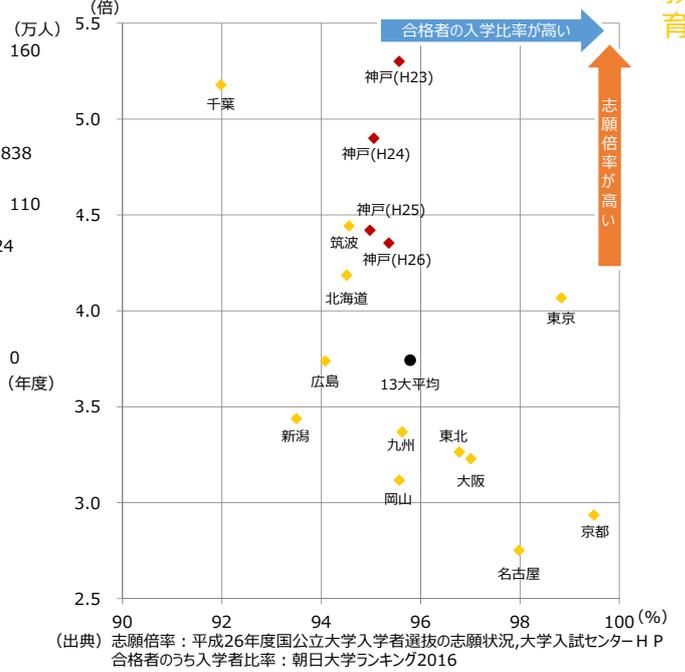
◆全国の大学志願者数および入学定員（推移）



	H13	H26	増減 (%)
大学入学定員	539,370	586,024	8.6%
入学定員（国立）	97,337	96,465	-0.9%
入学定員（公立）	22,289	28,823	29.3%
入学定員（私立）	419,744	460,736	9.8%

※18歳人口：3年前の中学校卒業者及び高等学校前期課程修了者より推定
 (出典) 志願者数：学校基本調査 入学定員：全国大学一覧

◆大規模13大学の状況（平成26年度入試）



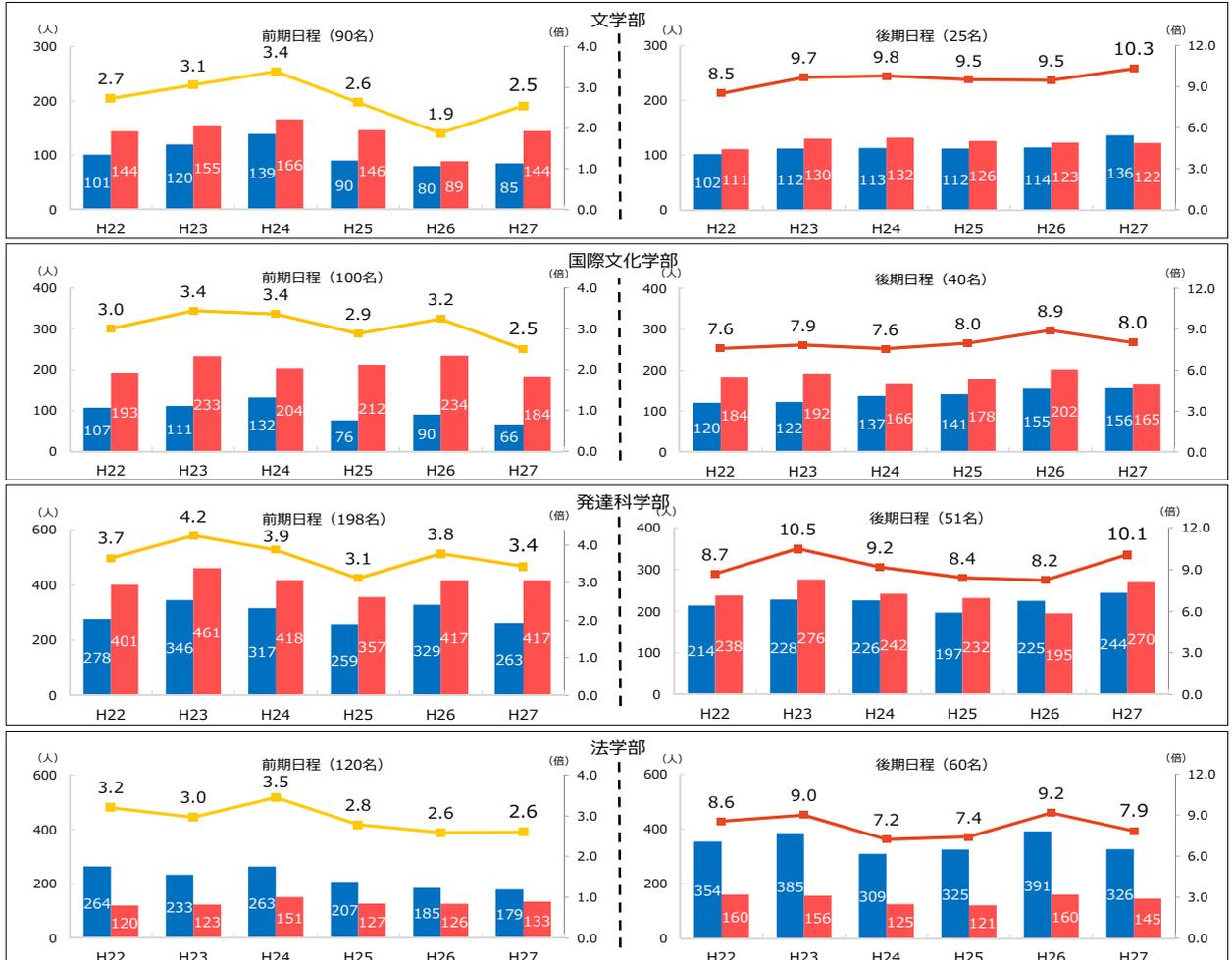
3-4 学部ごとの一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

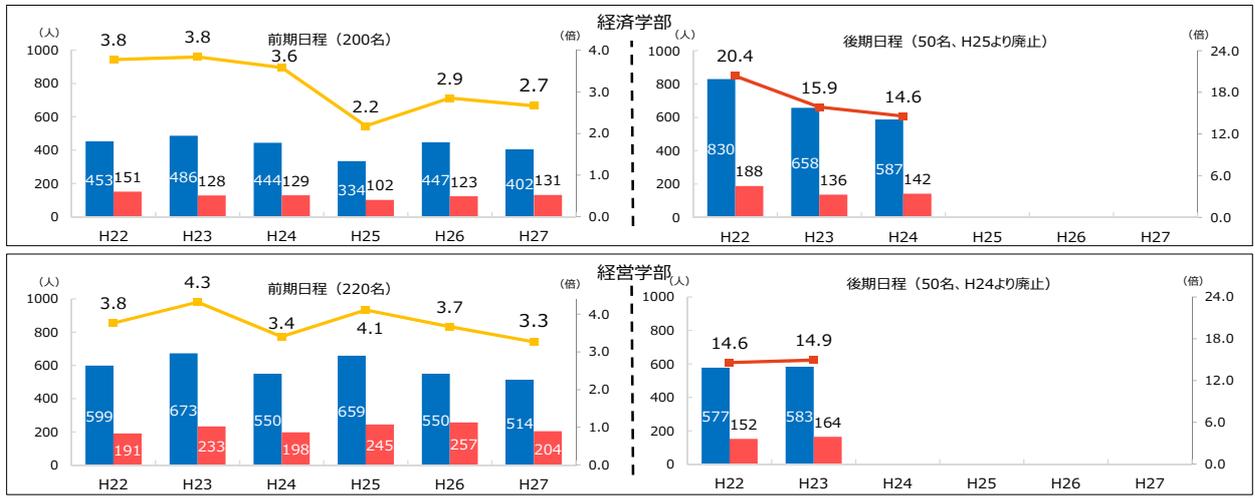
- 学部ごとの一般選抜状況は以下のとおりである。文学部、国際文化学部及び発達科学部では女子受験生からの人気が高い。
- これら文科系学部は、語学教育やE U圏大学への留学を伴うプログラムなど、グローバル人材の育成に重点を置いた教育に力を入れている。

■ = 男子志願者数 ■ = 女子志願者数 ■ = 前期志願倍率 ■ = 後期志願倍率

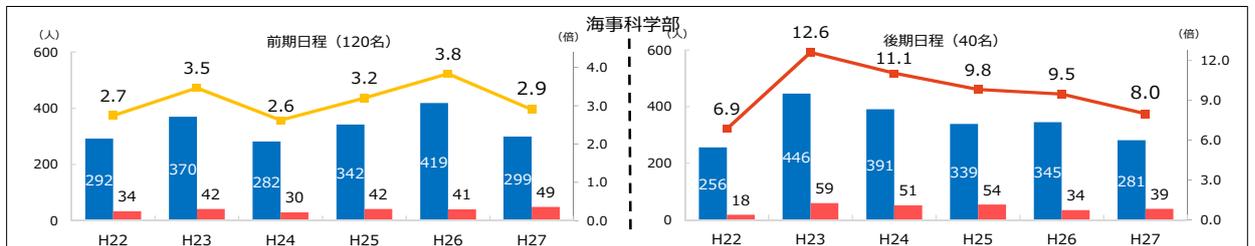
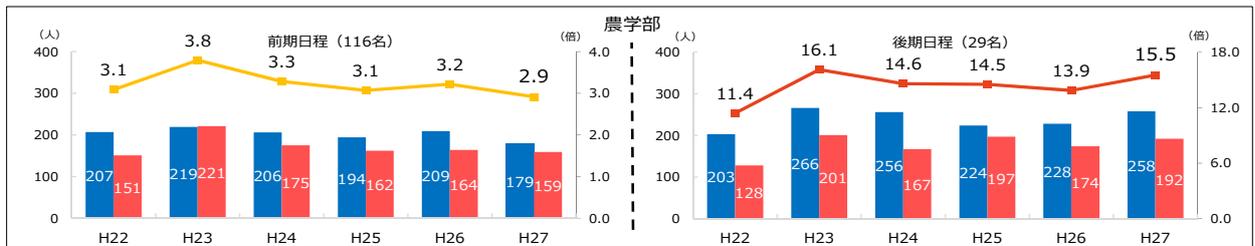
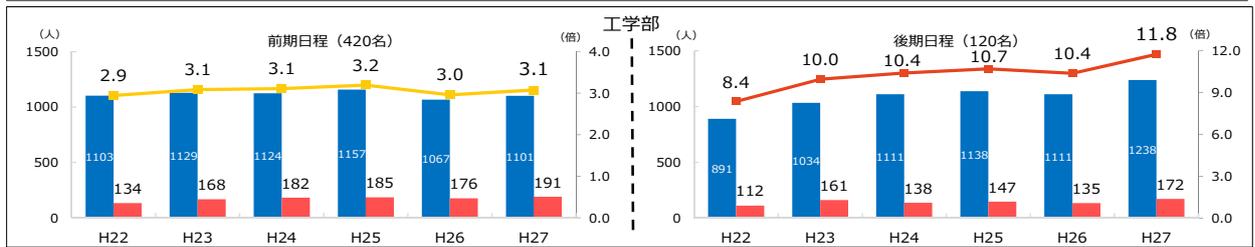
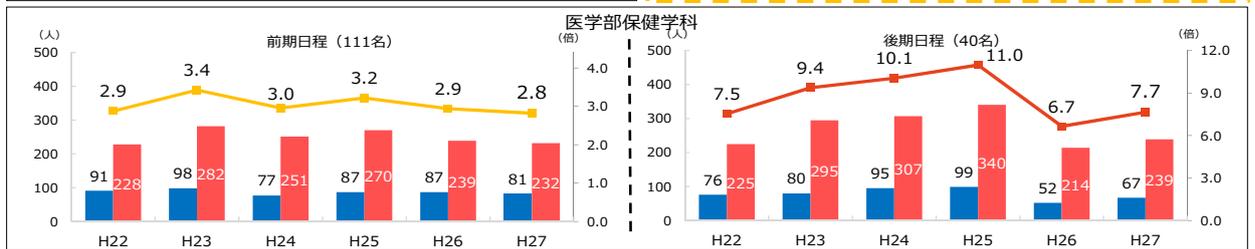
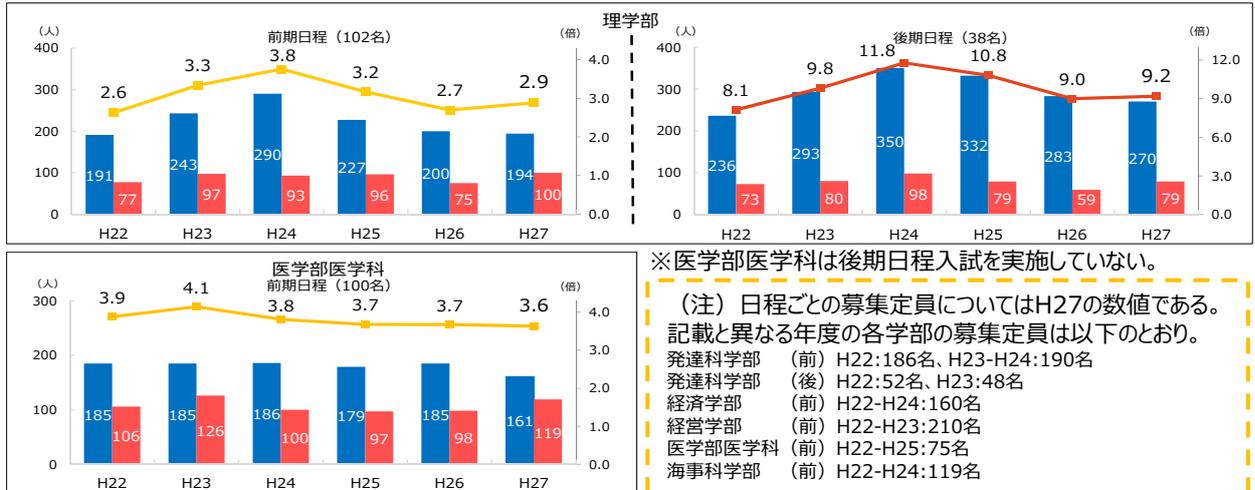
◆文科系学部（文学部、国際文化学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部）

各年度5月1日現在





◆理料系学部 (理学部、医学部医学科、医学部保健学科、工学部、農学部、海事科学部)

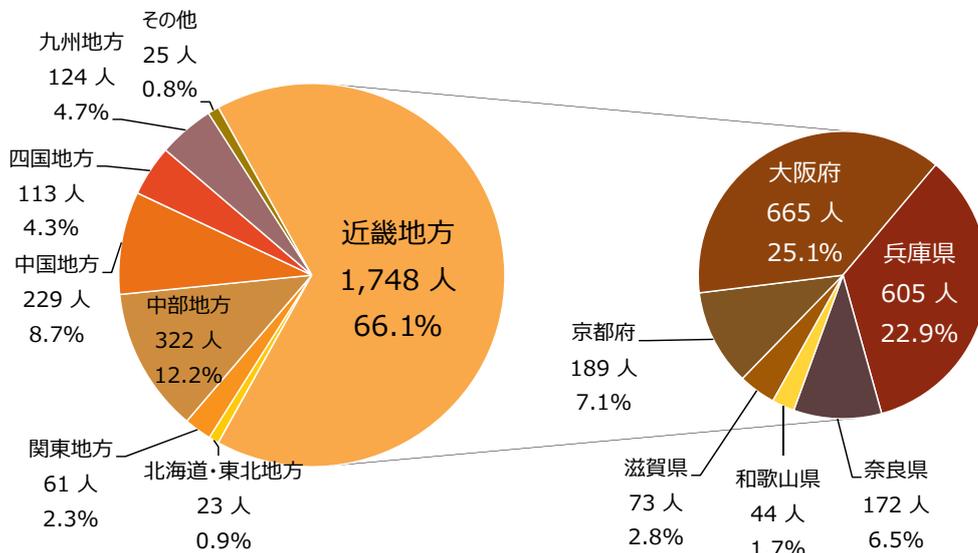


4. 入学状況 — 学部 —

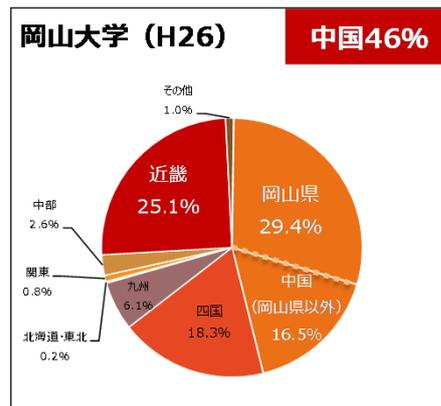
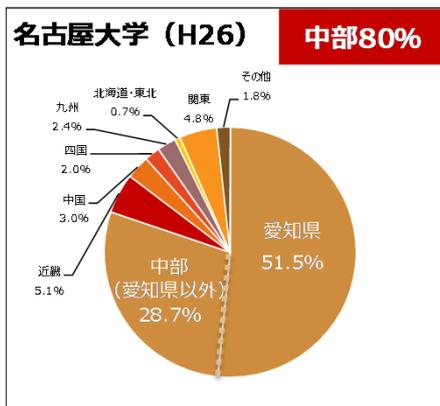
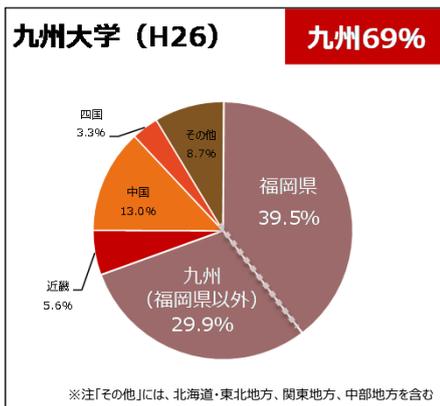
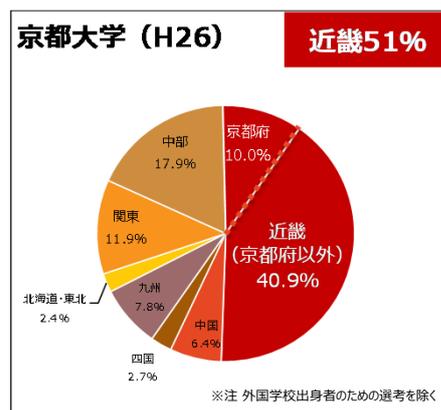
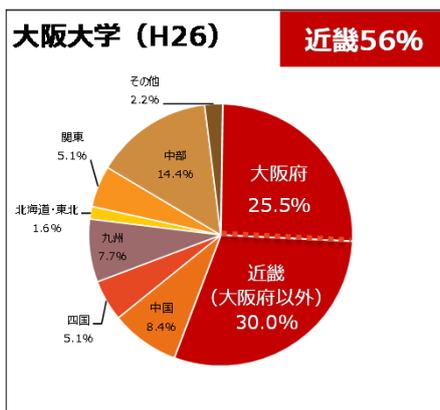
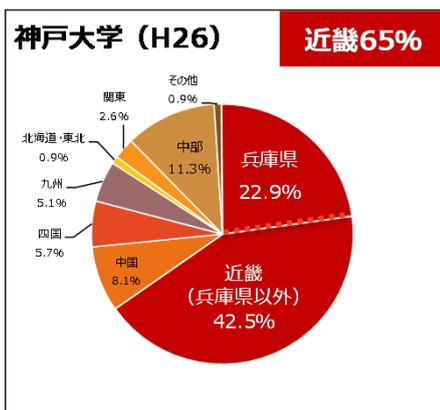
4-1 出身地域別入学者状況

○ 神戸大学では所在県または近隣地域の出身者がおよそ6割を占めている。他地域の大規模大学においてもおおむね同様の傾向が見られる。

◆神戸大学◆ (H27)



- 【北海道・東北地方】北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 【関東地方】群馬県、茨城県、千葉県、栃木県、埼玉県、東京都、神奈川県
- 【中部地方】新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、岐阜県、愛知県、静岡県、三重県
- 【近畿地方】滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 【中国地方】鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 【四国地方】徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 【九州地方】福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
- 【その他】外国の学校、検定等



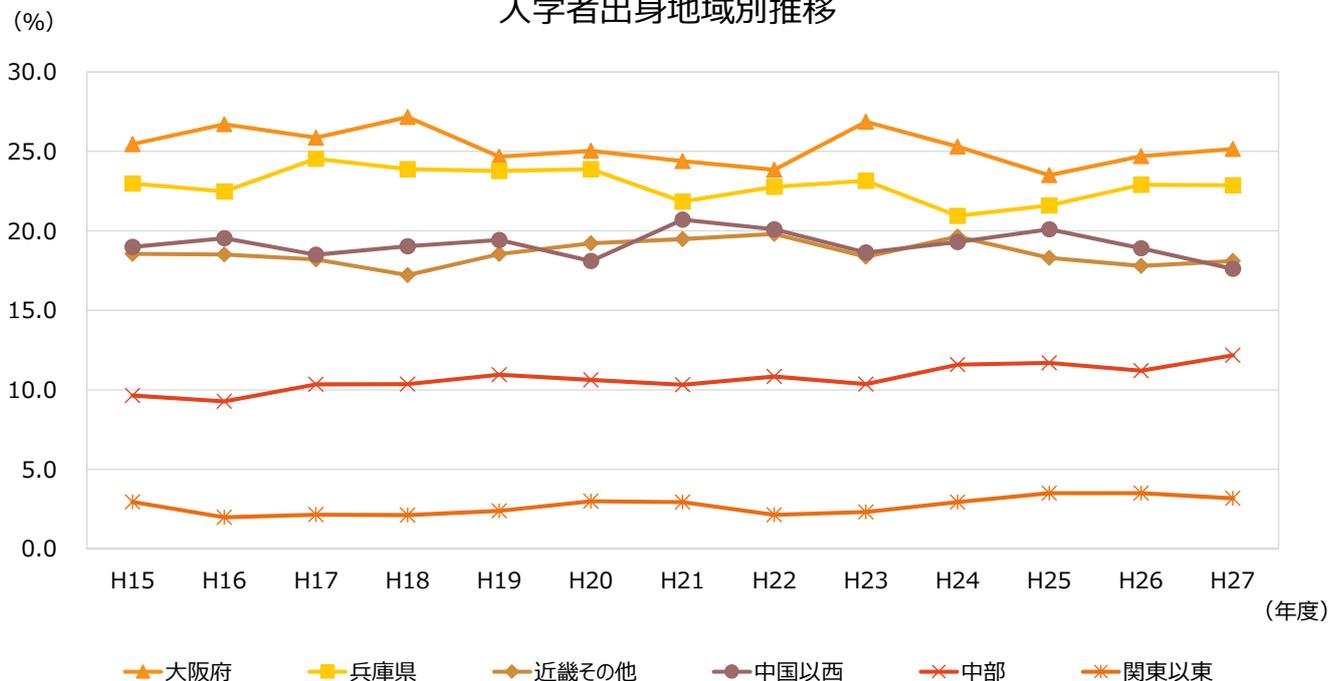
※出典 各大学HP公表資料から作成

4-2 出身地域別入学者状況の経年推移

○ 入学者の大半が近畿地方以西の出身であるが、中国地方以西の割合が、若干ながら減少傾向にある。

◆神戸大学◆

入学者出身地域別推移

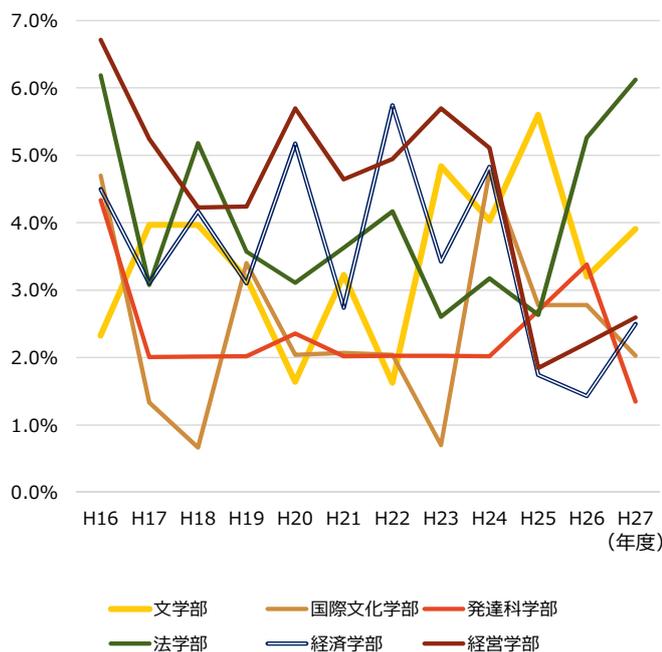


4-3 入学辞退率の推移

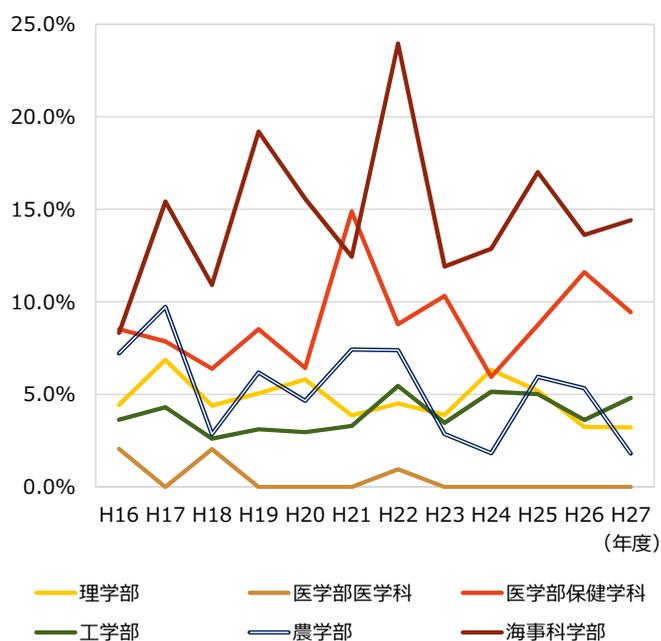
○ 神戸大学全体では、医学部医学科を除き、理科系学部の方が概ね入学辞退率は高い。特に、海事科学部では平成17年度以降、毎年10%を超えている。

◆神戸大学◆

文科系学部



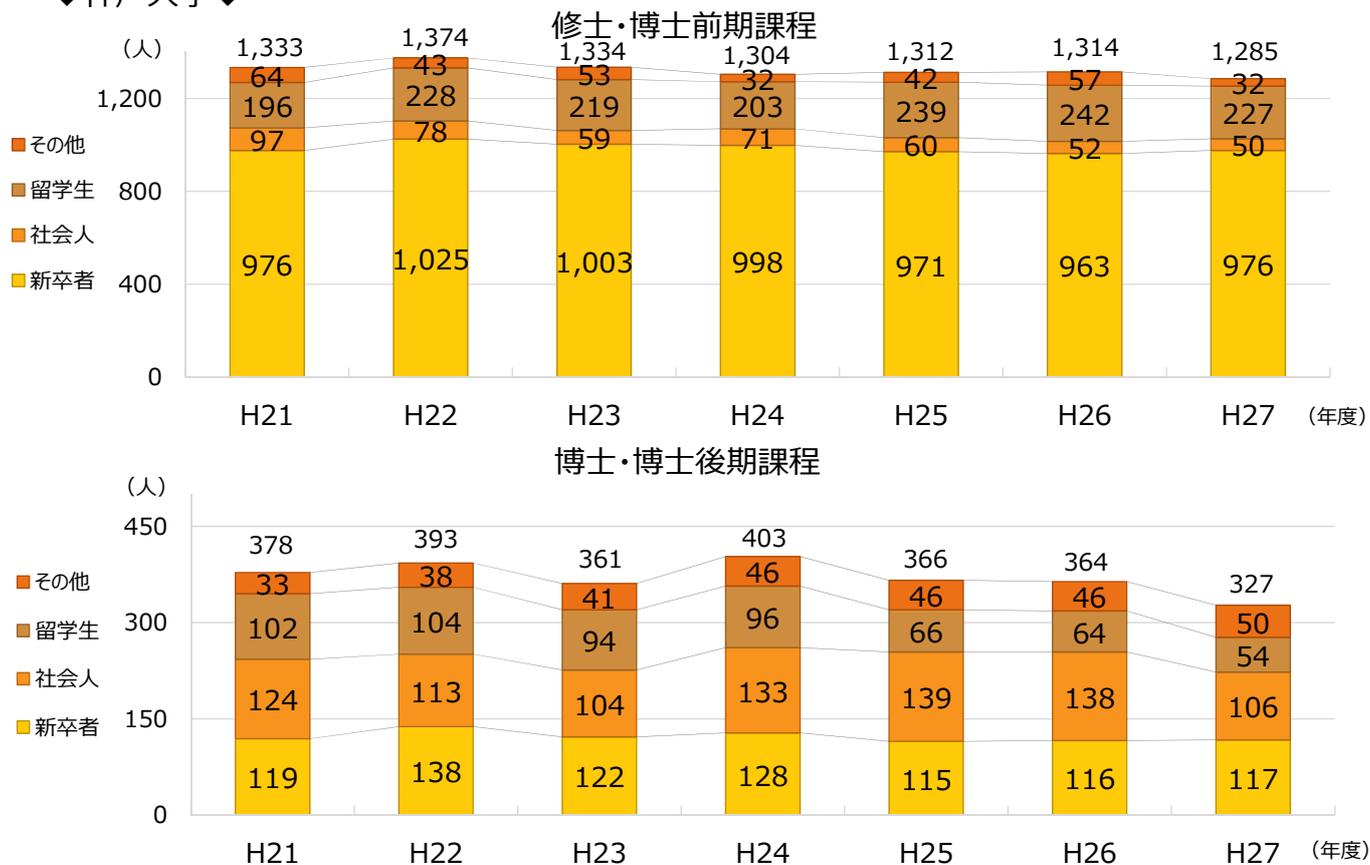
理科系学部



5. 入学状況 — 研究科 —

5-1 大学院入学状況

◆神戸大学◆



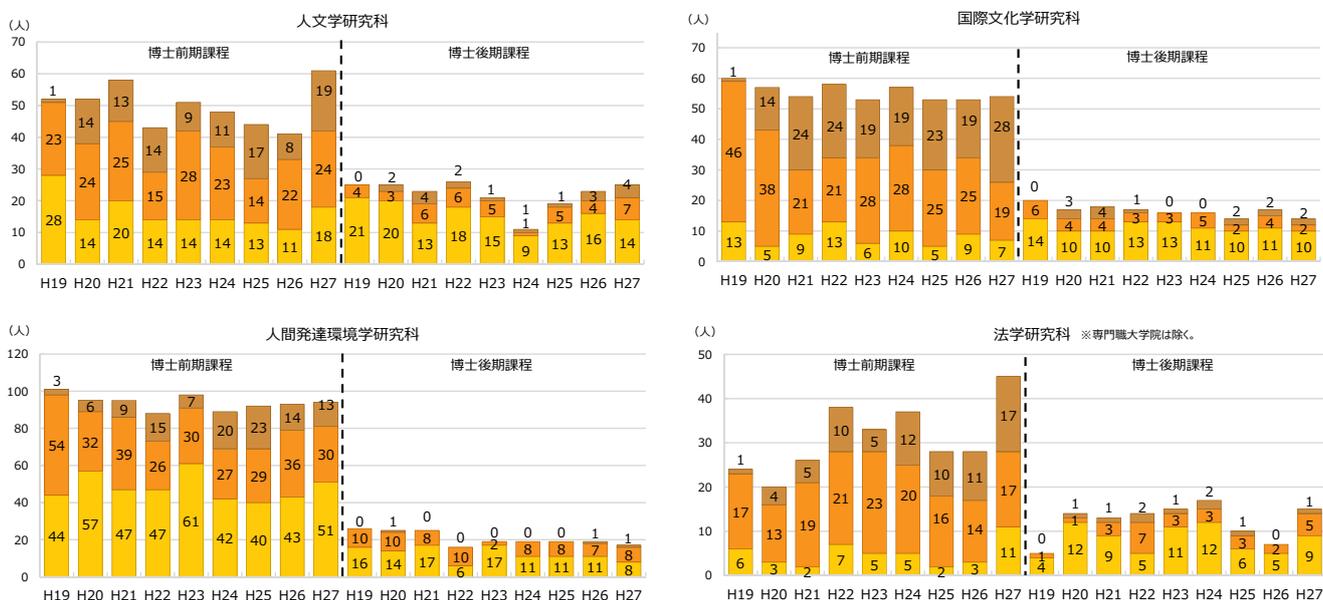
※平成19～26年度は春入学者及び秋入学者、平成27年度は春入学者のみを計上している。
 ※「その他」は、入学のために退職した者等。

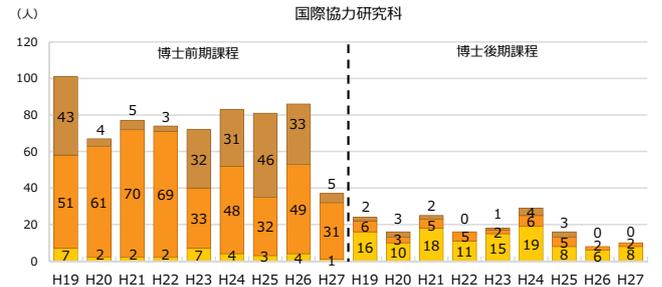
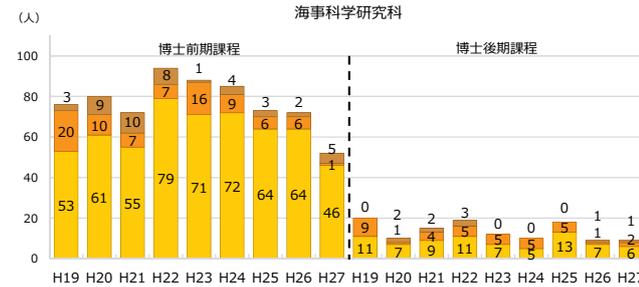
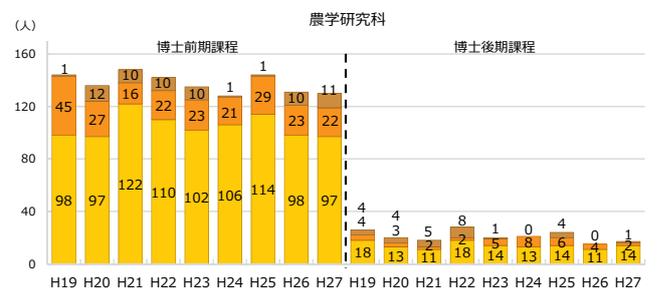
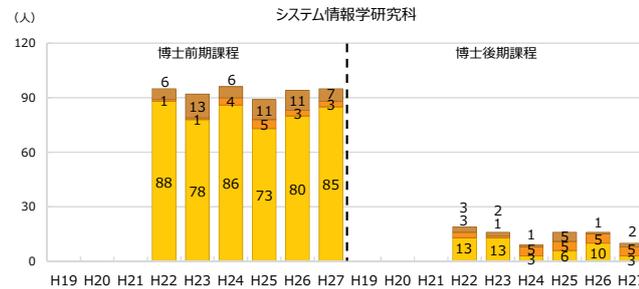
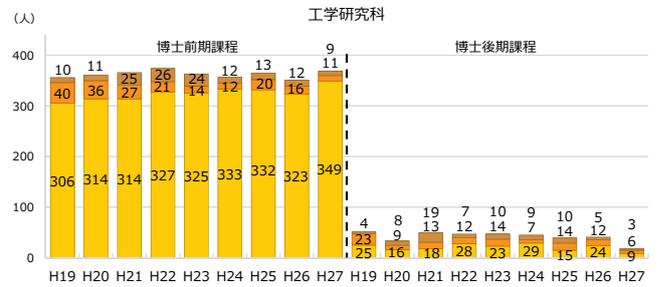
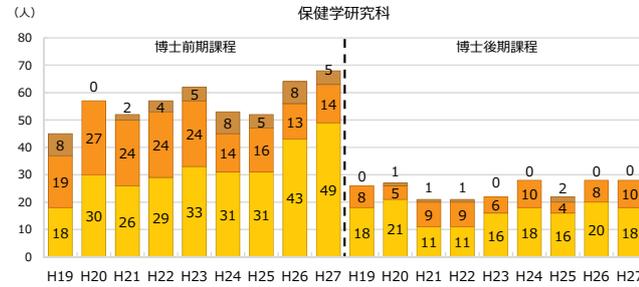
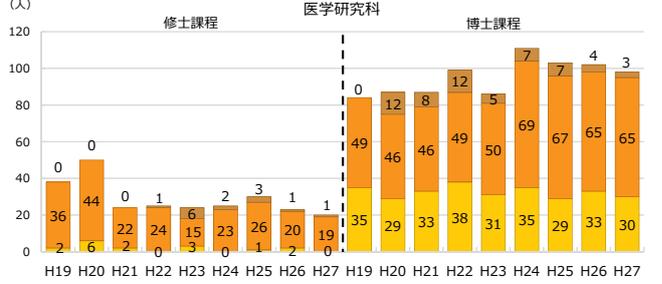
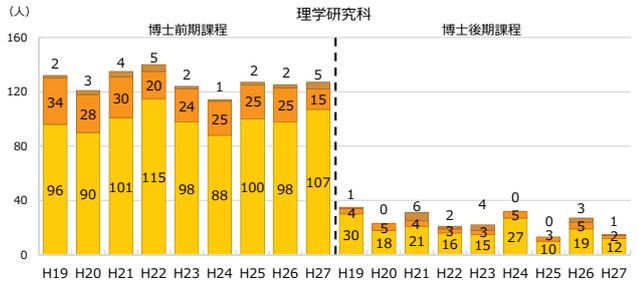
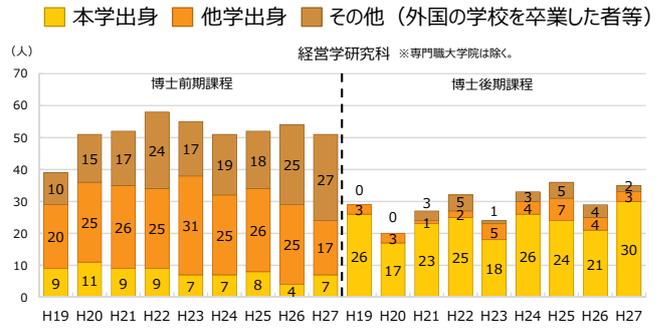
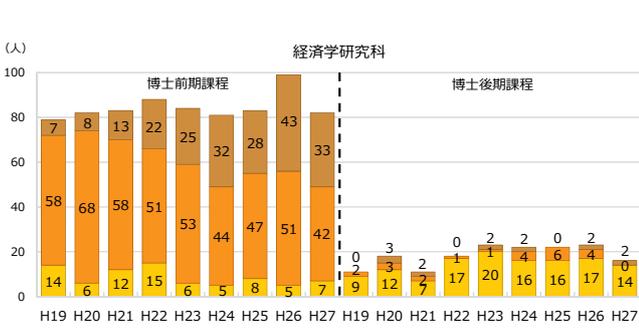
5-2 大学院入学状況 — 研究科別・出身大学別 —

- 自然科学系の研究科においては、博士前期課程に本学出身の学生がそのまま進学するケースが多いが、人文・社会系及び医学系の研究科においては多くの他学出身者が入学している傾向が見られる。
- 博士後期課程は、医学研究科を除き学内出身者が多い。

◆神戸大学◆

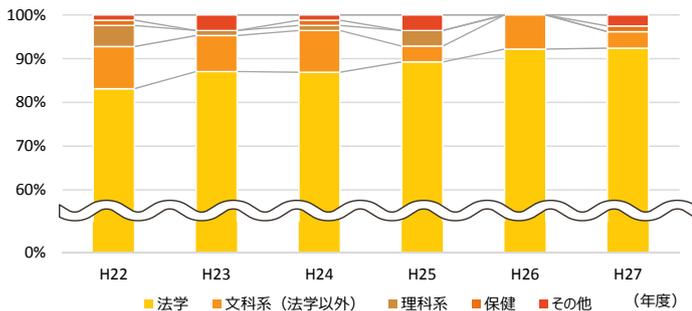
■ 本学出身 ■ 他学出身 ■ その他（外国の学校を卒業した者等）



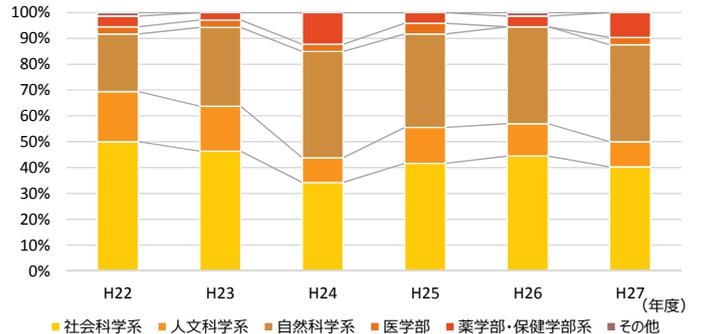


※平成19～26年度は春入学者及び秋入学者、平成27年度は春入学者のみを計上している。

法学研究科（専門職学位）入学者出身学部別割合



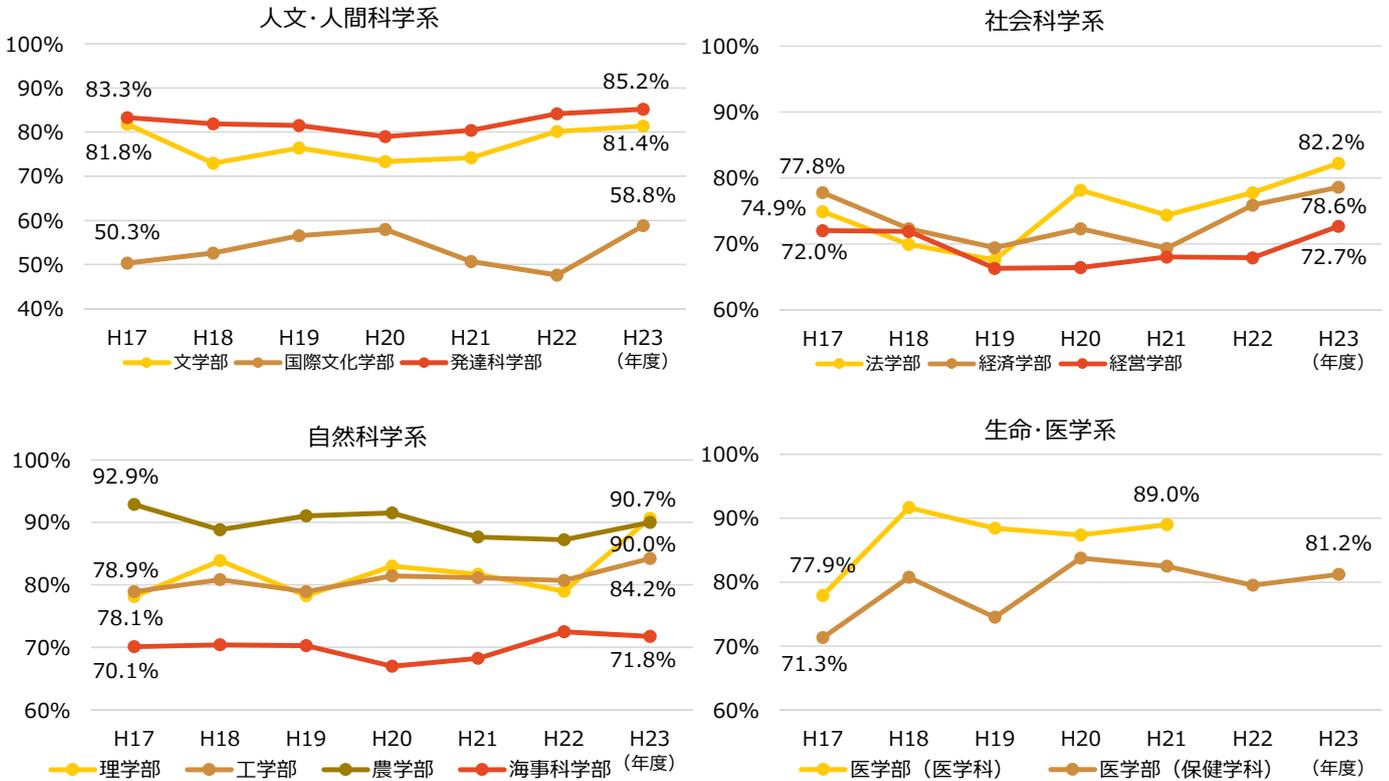
経営学研究科（専門職学位）入学出身学部別割合



6. 学位授与状況 — 授与率 —

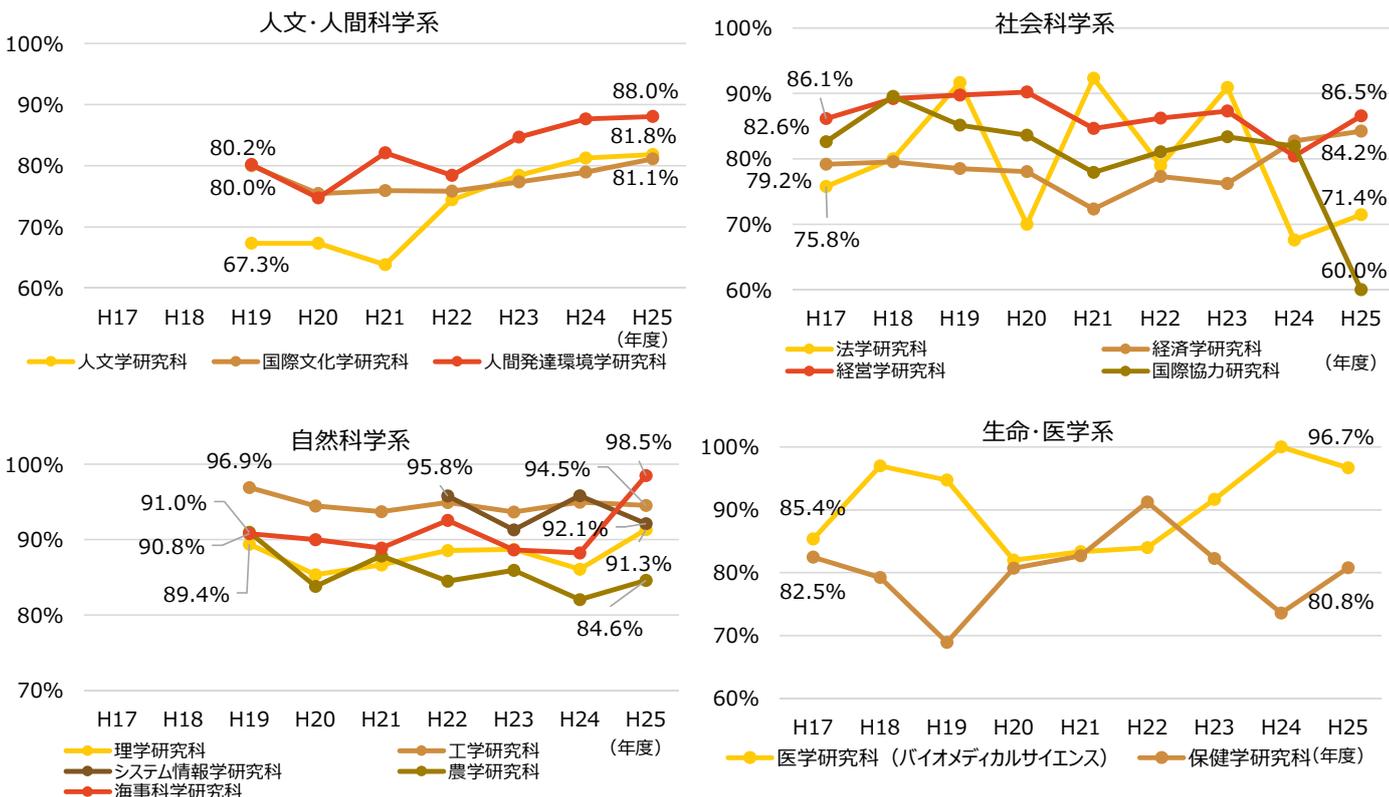
○ 学士課程において、国際文化学部の標準修業年限内学位取得者の割合は、他学部比べて低く、平成17年度以降50%前後を推移しているが、これは長期の留学や海外研修に赴く学生が多いことによる。

◆ 学士課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



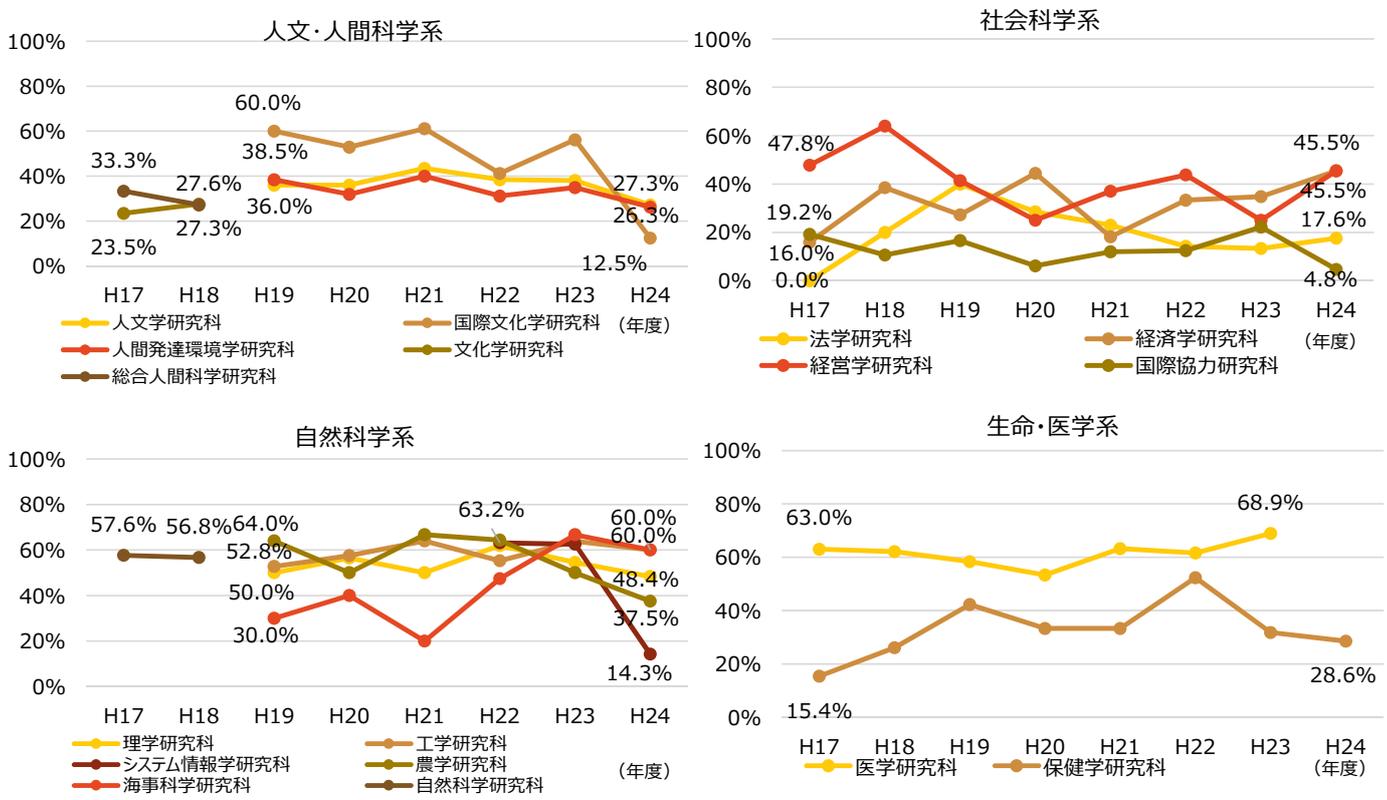
※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

◆ 修士・博士前期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

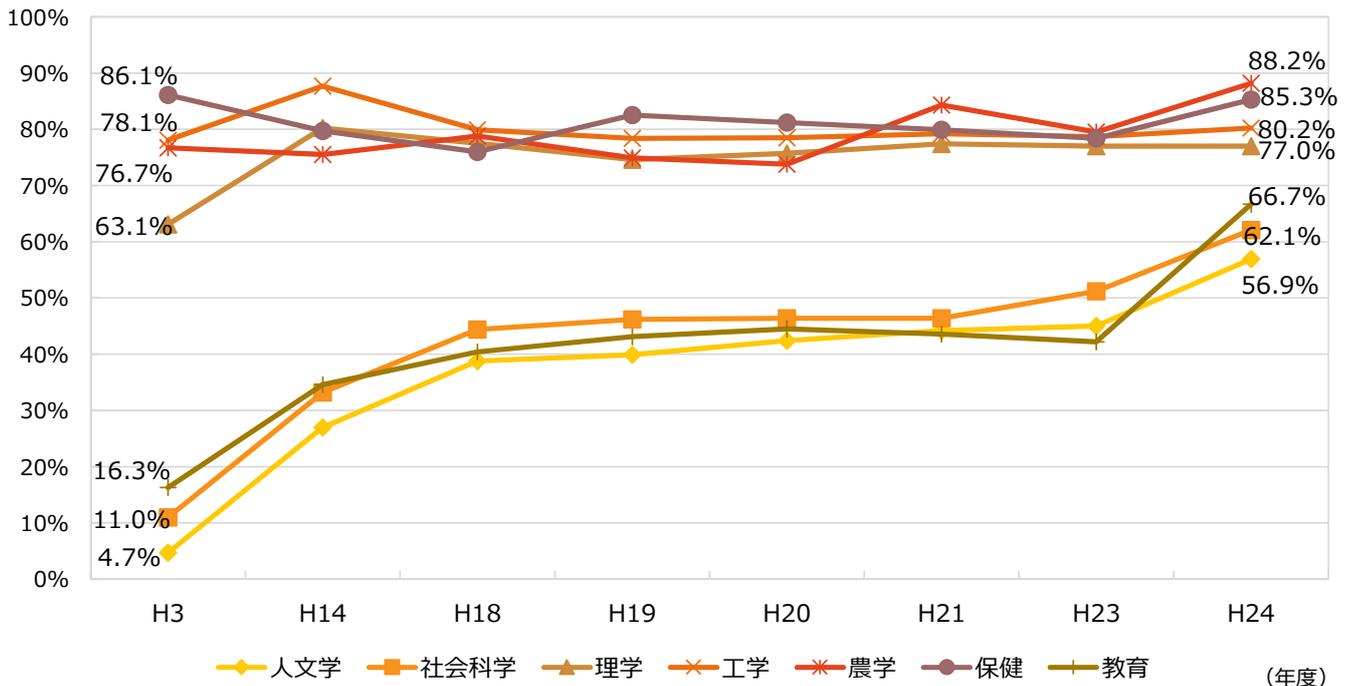
◆博士・博士後期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

◆全国（当該年度の課程博士授与率）

学位授与率の推移（分野別）



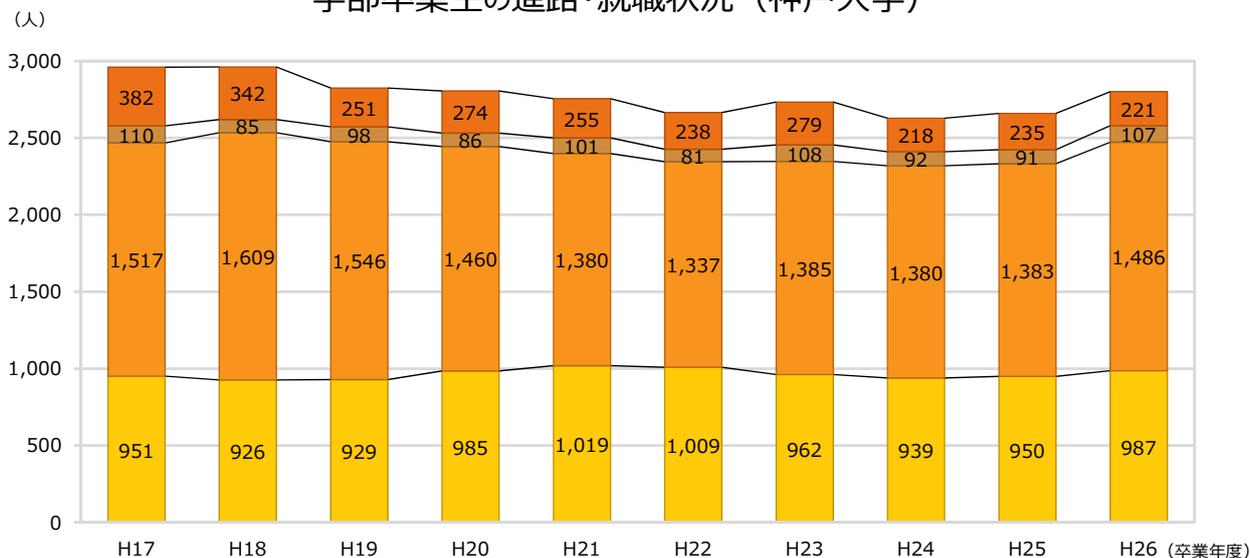
出典：文部科学省調査「各大学院における「大学院教育振興施策要綱」に関する取組の調査結果について」

7. 進路・就職状況

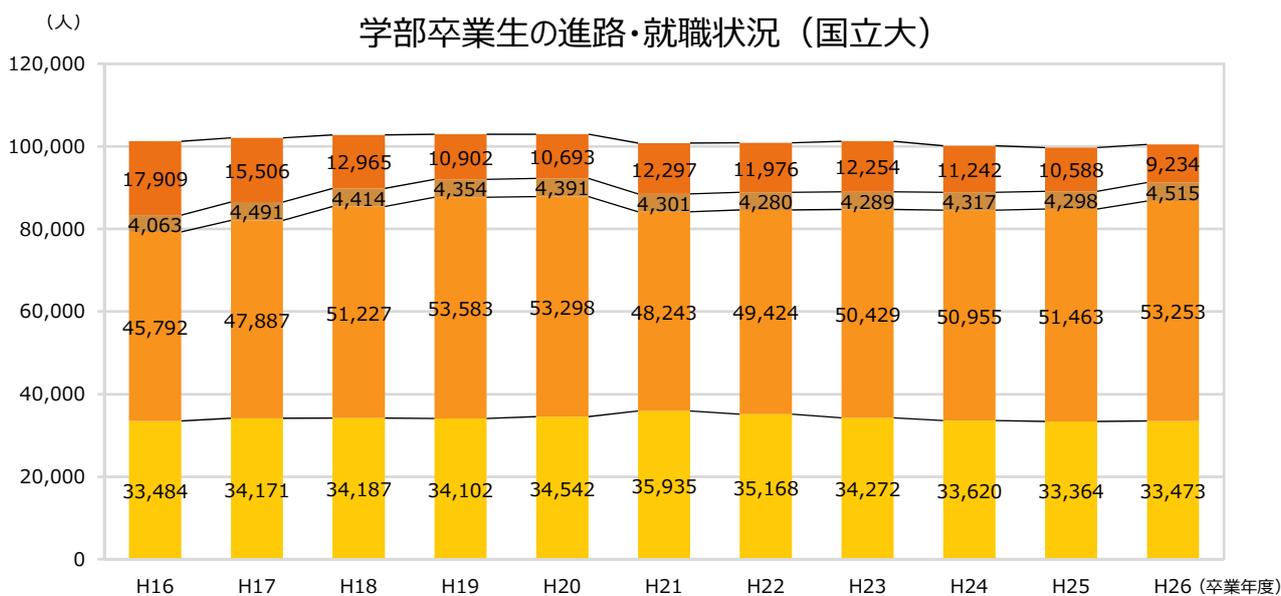
7-1 学部卒業生の進路・就職状況

進学者 就職者 臨床研修医 その他

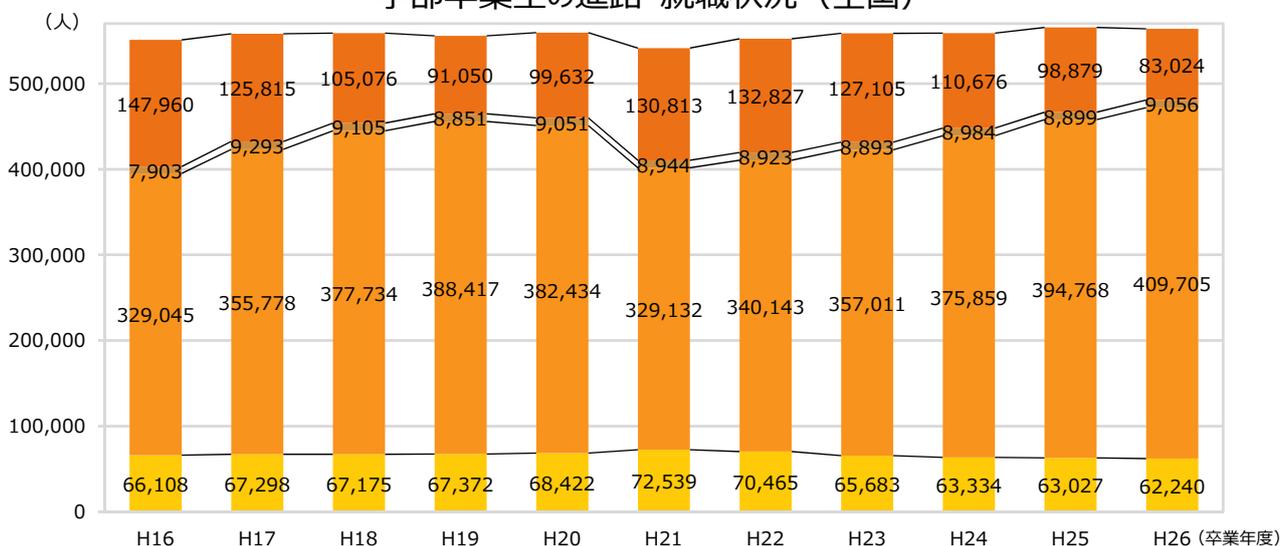
学部卒業生の進路・就職状況（神戸大学）



学部卒業生の進路・就職状況（国立大）



学部卒業生の進路・就職状況（全国）



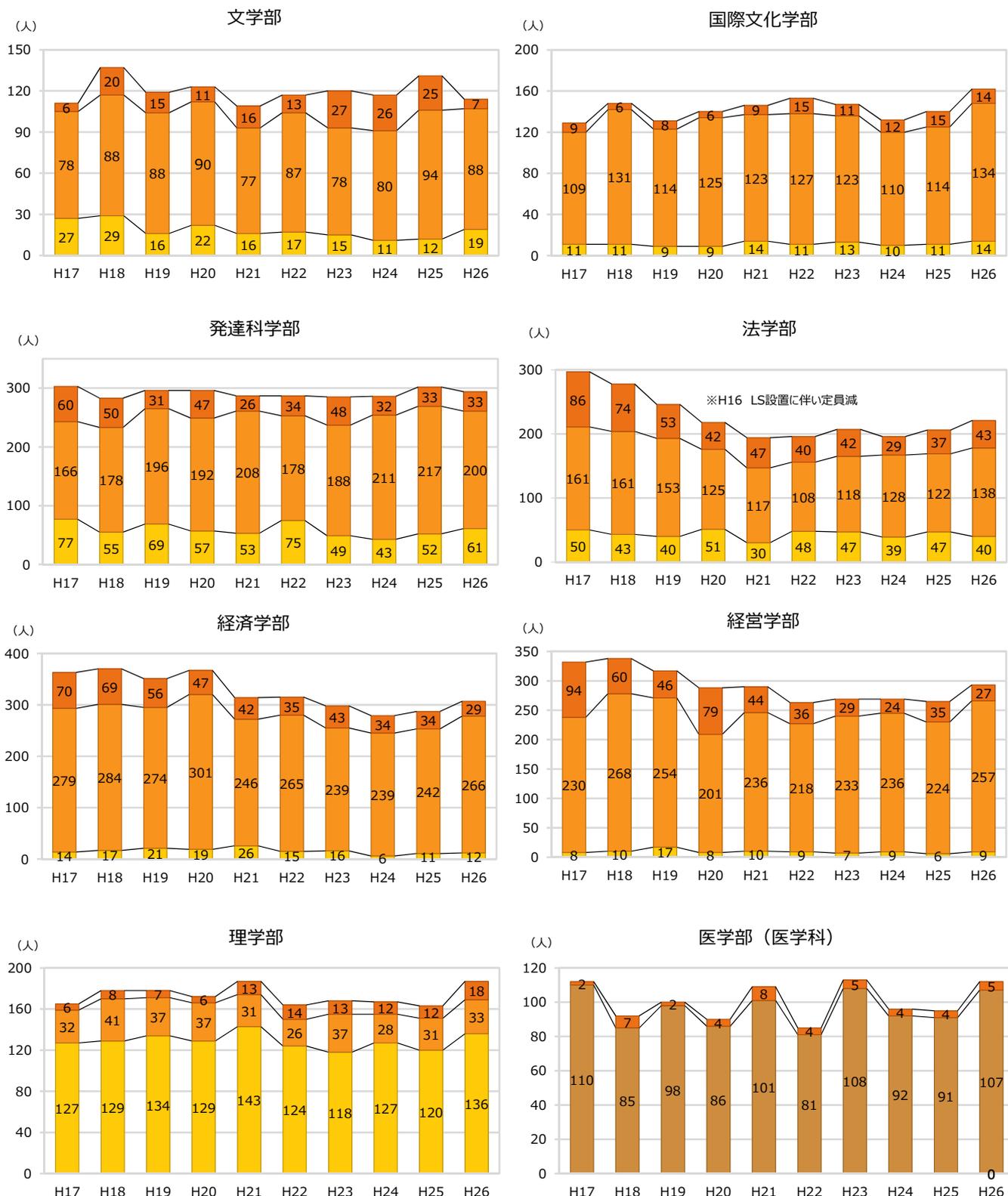
出典：文部科学省 学校基本調査（H26の値はH27.8時点の速報値）

7-2 学部卒業生の進路・就職状況 — 学部別 —

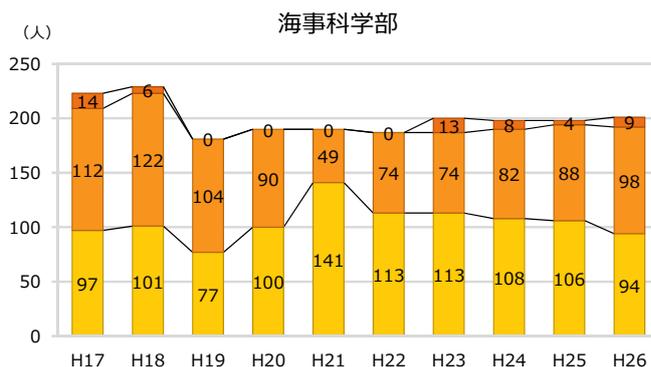
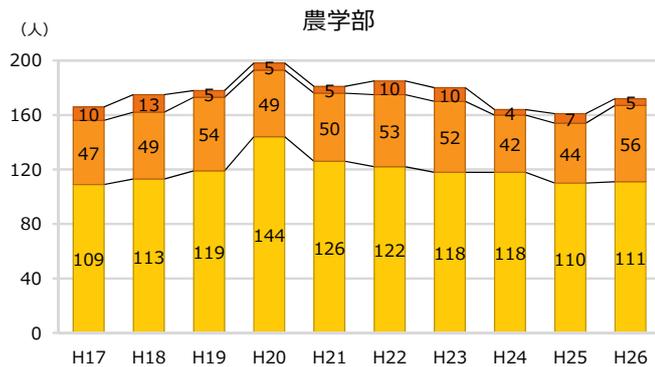
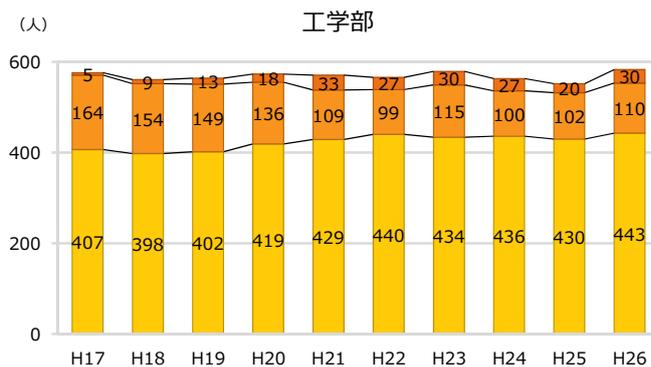
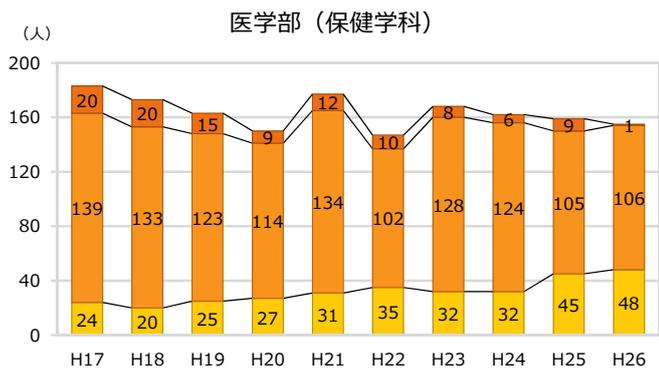
○ 学部では、文科系においては就職する学生の割合が高く、理科系においては医学部を除き、進学する学生が多い。

◆神戸大学◆ (学部 卒業年度)

■ 進学者 ■ 就職者 ■ 臨床研修医 ■ その他



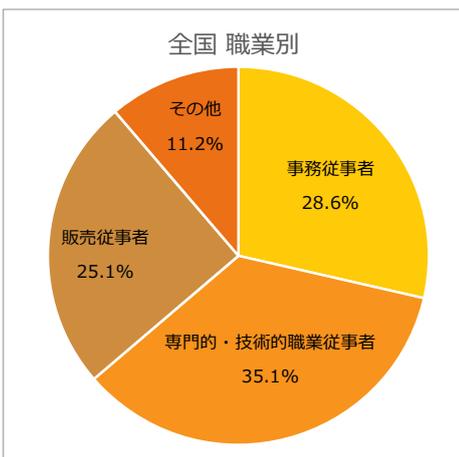
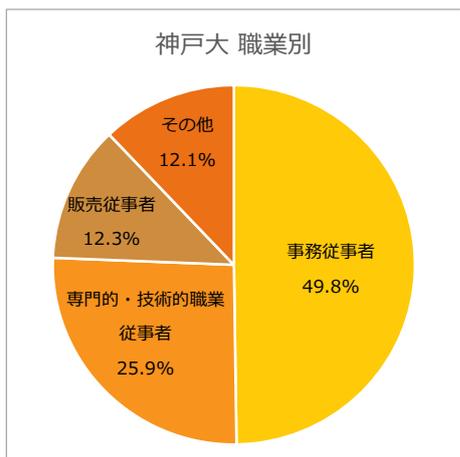
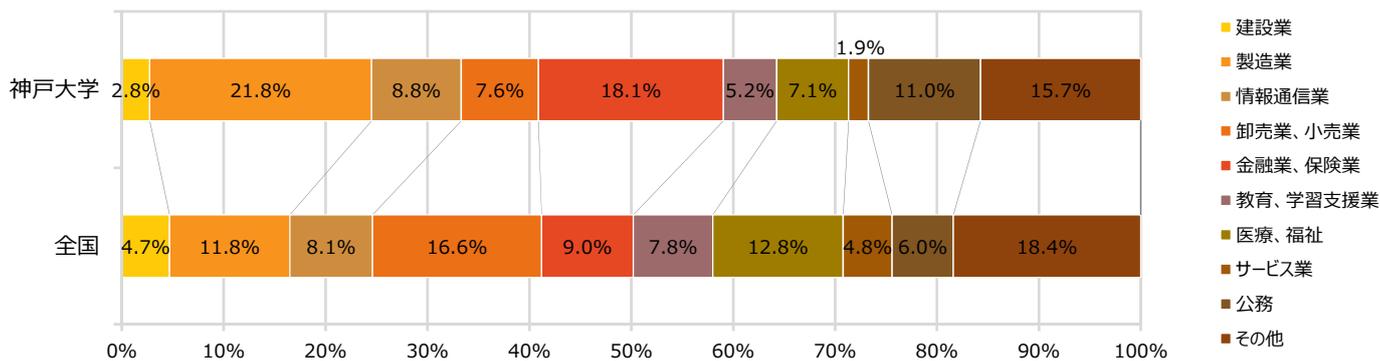
進学者 就職者 臨床研修医 その他



7-3 学部卒業生の産業別・職業別就職状況

○ 産業別就職状況を見ると、全国に比べて本学の学生は、製造業、金融業、保険業、公務といった業界に就職している割合が高いという特徴がわかる。

産業別就職状況



出典
文部科学省学校基本調査

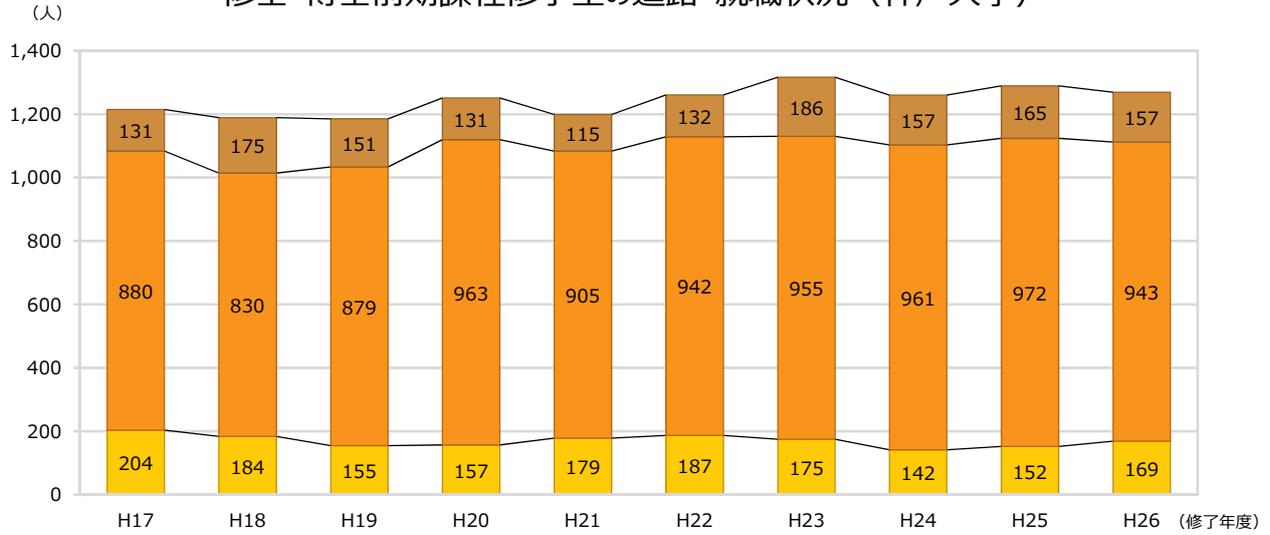
H27年度調査（平成26年度卒業生対象）のH27.8時点速報値に基づく。

注）四捨五入により小数第一位までの数値をだしているため、合計が100%にならないものもある。

7-4 研究科修了生の進路・就職状況

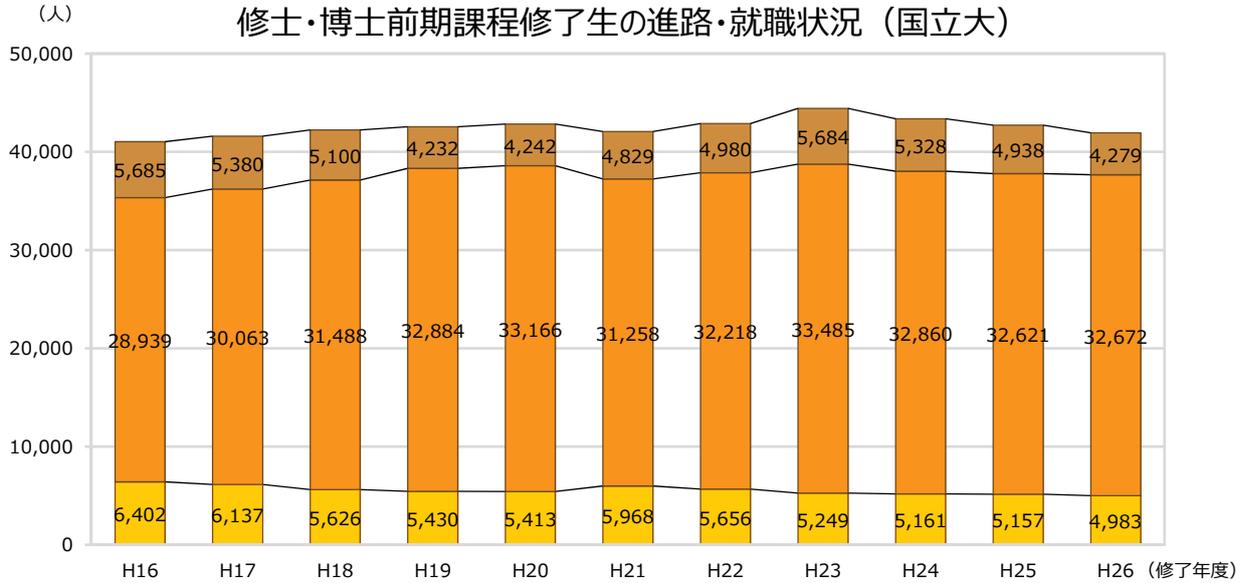
■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

修士・博士前期課程修了生の進路・就職状況（神戸大学）

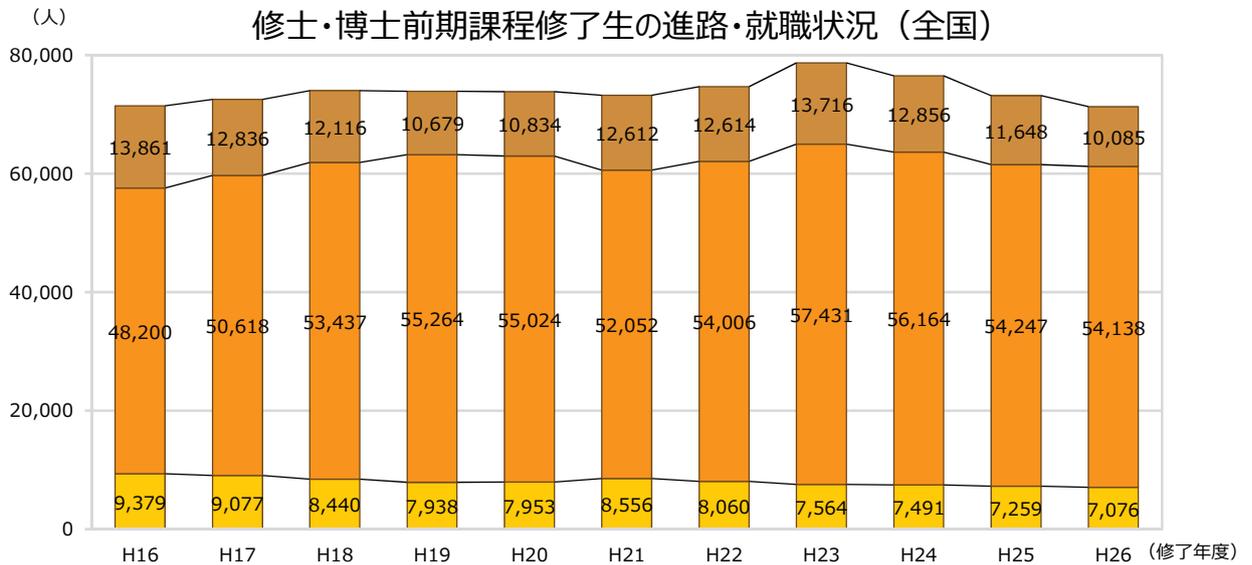


※文学研究科、総合人間科学研究科、自然科学研究科（いずれもH19年度入試より募集停止）、医学系研究科（H20年度より募集停止）の修了生についても計上している。

修士・博士前期課程修了生の進路・就職状況（国立大）



修士・博士前期課程修了生の進路・就職状況（全国）



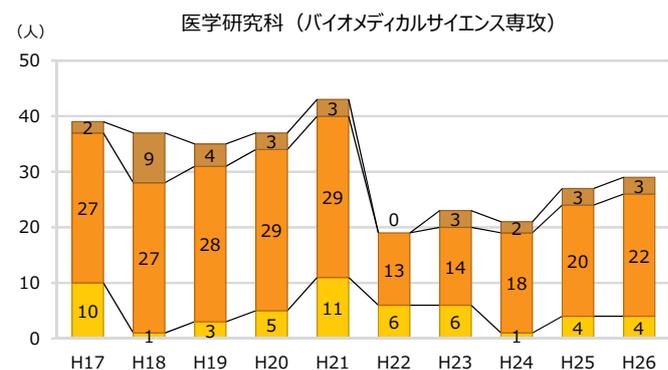
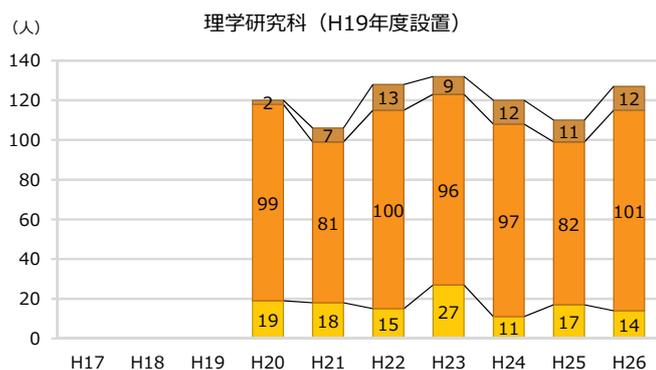
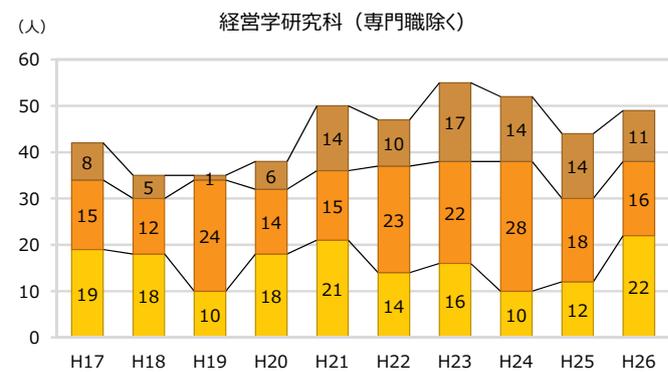
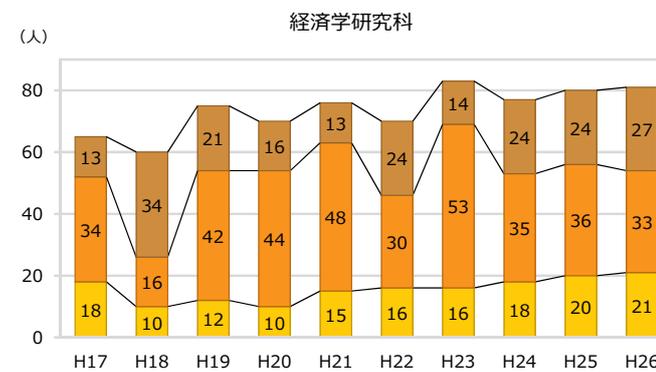
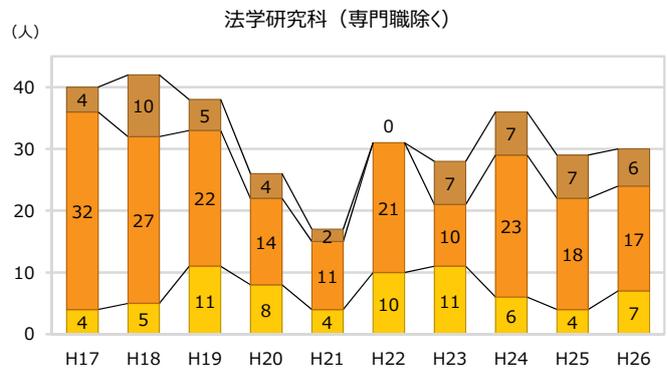
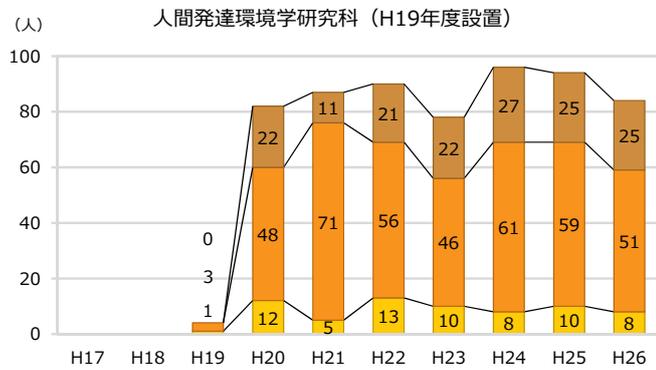
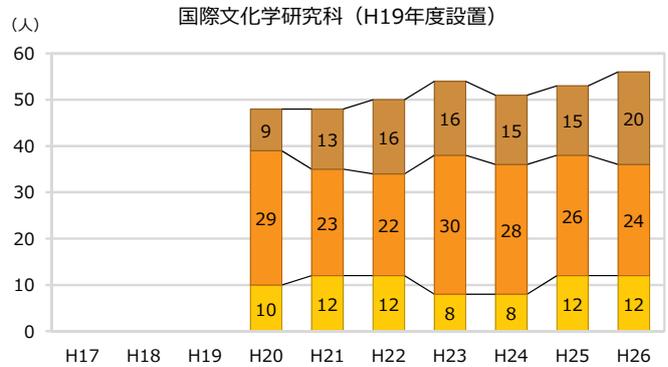
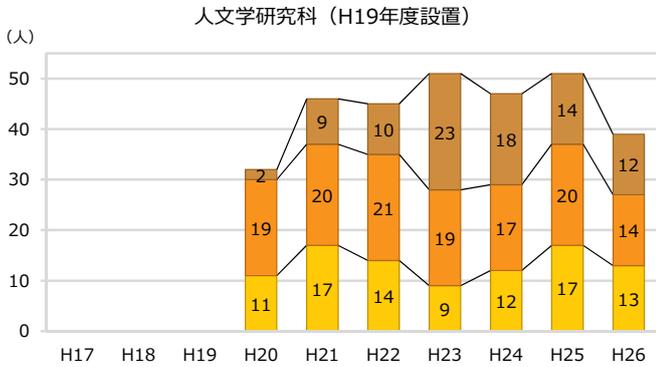
出典：文部科学省 学校基本調査（H26の値はH27.8時点の速報値）

7-5 研究科修了生の進路・就職状況 — 研究科別 —

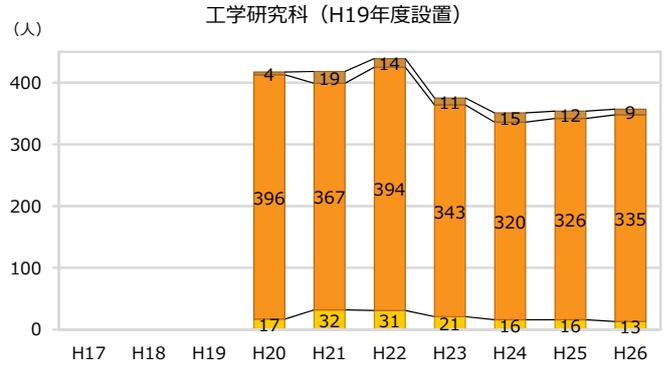
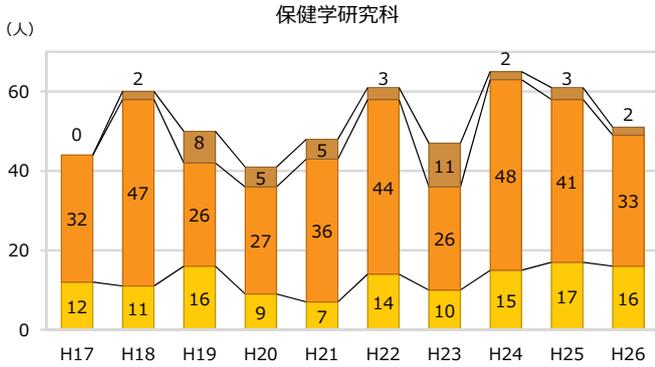
○ 修士・博士前期課程では、文科系において進学する学生の割合が比較的高く、学部と逆の傾向がみられる。

◆神戸大学◆ (修士・博士前期課程 修了年度)

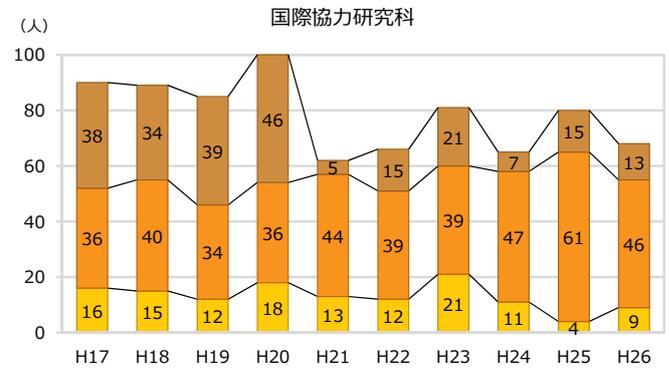
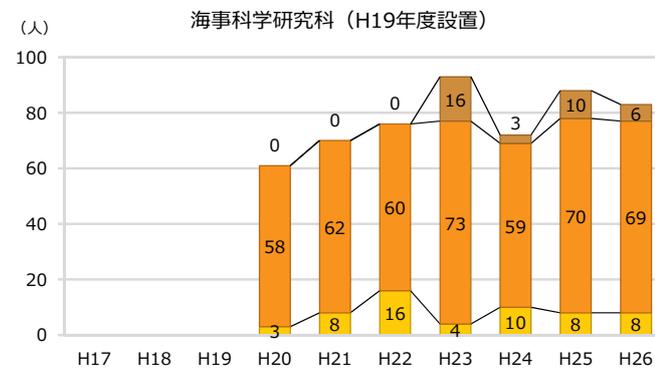
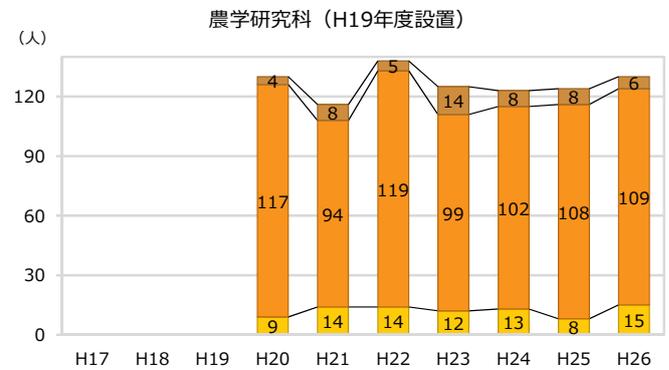
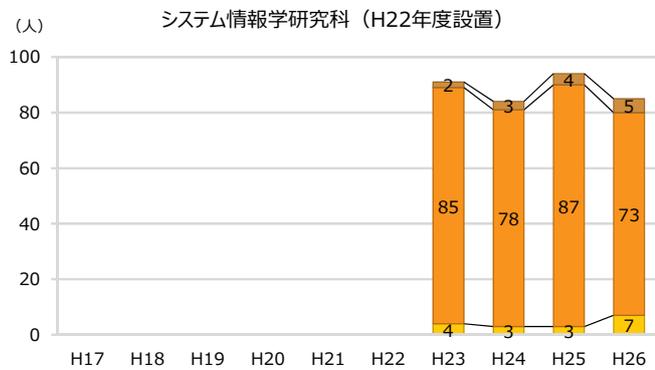
■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他



■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他



※保健学研究科の修了生には、医学系研究科保健学専攻(平成20年度入試より募集停止)の修了生を含む。



※「その他」には、公務員試験受験者、司法試験・公認会計士等の資格試験等受験者、専門学校入学者、海外語学研修生、研究生、帰国予定留学生等を含む。

8. 資格試験合格状況

8-1 司法試験合格状況

【合格者推移（上位20大学）】

順位	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	大学名	合格者												
1	東京大	216	東京大	201	東京大	210	中央大	202	慶應義塾大	201	早稲田大	172	中央大	170
2	中央大	162	中央大	189	中央大	176	東京大	194	東京大	197	中央大	164	慶應義塾大	158
3	慶應義塾大	147	慶應義塾大	179	京都大	172	慶應義塾大	186	早稲田大	184	東京大	158	東京大	149
4	京都大	145	京都大	135	慶應義塾大	164	早稲田大	155	中央大	177	慶應義塾大	150	早稲田大	145
5	早稲田大	124	早稲田大	130	早稲田大	138	京都大	152	京都大	129	京都大	130	京都大	128
6	明治大	96	明治大	85	明治大	90	明治大	82	一橋大	67	一橋大	64	一橋大	79
7	一橋大	83	大阪大	70	一橋大	82	一橋大	77	明治大	65	明治大	63	神戸大	72
8	神戸大	73	一橋大	69	神戸大	69	大阪大	74	大阪大	51	大阪大	55	明治大	53
9	北海道大	63	北海道大	62	同志社大	65	神戸大	60	北海道大	50	神戸大	44	大阪大	48
10	立命館大	60	東北大	58	東北大	54	北海道大	54	神戸大	46	東北大	42	北海道大	42
11	大阪大	52	同志社大	55	大阪大	49	九州大	53	上智大	46	北海道大	41	九州大	40
12	九州大	46	神戸大	49	北海道大	48	同志社大	44	同志社大	42	九州大	37	名古屋大	37
13	同志社大	45	名古屋大	49	名古屋大	43	名古屋大	44	名古屋大	40	立命館大	33	東北大	35
14	上智大	40	立命館大	47	九州大	42	立命館大	43	立命館大	40	上智大	31	同志社大	33
15	名古屋大	40	九州大	46	立命館大	40	首都大東京	40	九州大	39	名古屋大	30	法政大	29
16	関西学院大	37	関西学院大	37	上智大	39	上智大	38	首都大東京	39	千葉大	26	上智大	29
17	関西大	35	上智大	33	首都大東京	38	東北大	38	東北大	39	同志社大	26	立命館大	27
18	首都大東京	34	関西大	32	関西大	35	関西学院大	27	大阪市立大	35	首都大東京	22	首都大東京	26
19	東北大	30	大阪市立大	31	法政大	31	関西大	22	関西学院大	34	日本大	22	大阪市立大	22
20	立教大	25	千葉大	30	大阪市立大	30	日本大	22	法政大	30	法政大	21	関西大	22

【合格率推移（上位20大学）】

順位	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	大学名	割合												
1	一橋大	62.9%	慶應義塾大	50.4%	一橋大	57.7%	一橋大	57.0%	慶應義塾大	56.8%	京都大	53.1%	一橋大	55.6%
2	東京大	55.5%	一橋大	50.0%	京都大	54.6%	京都大	54.3%	東京大	55.2%	東京大	52.0%	京都大	53.3%
3	京都大	50.3%	東京大	48.9%	東京大	50.5%	慶應義塾大	53.6%	一橋大	54.5%	一橋大	47.1%	東京大	48.9%
4	神戸大	49.0%	京都大	48.7%	慶應義塾大	48.0%	東京大	51.2%	京都大	52.4%	慶應義塾大	44.6%	神戸大	48.3%
5	慶應義塾大	48.8%	千葉大	43.5%	神戸大	46.6%	神戸大	45.8%	愛知大	42.9%	大阪大	40.1%	慶應義塾大	45.5%
6	中央大	46.4%	北海道大	43.1%	中央大	39.2%	大阪大	41.8%	首都大東京	40.6%	早稲田大	35.2%	愛知大	36.4%
7	北海道大	43.4%	中央大	43.1%	早稲田大	38.2%	中央大	41.3%	中央大	40.0%	中央大	34.5%	中央大	35.8%
8	首都大東京	40.4%	大阪大	38.9%	東北大	31.9%	首都大東京	39.6%	早稲田大	38.4%	千葉大	31.0%	早稲田大	30.8%
9	大阪大	39.1%	東北大	36.5%	首都大東京	31.8%	愛知大	37.8%	千葉大	36.9%	神戸大	30.8%	大阪大	29.1%
10	名古屋大	37.5%	名古屋大	35.3%	名古屋大	31.7%	北海道大	34.0%	神戸大	36.8%	東北大	26.4%	北海道大	28.6%
11	早稲田大	33.5%	神戸大	34.0%	北海道大	31.6%	早稲田大	32.8%	大阪大	36.4%	愛知大	25.9%	九州大	26.1%
12	明治大	33.3%	早稲田大	32.7%	大阪大	31.5%	名古屋大	32.6%	名古屋大	33.3%	創価大	25.7%	東北大	25.7%
13	上智大	32.6%	九州大	31.8%	大阪市立大	30.0%	千葉大	31.8%	北海道大	33.3%	北海道大	25.5%	名古屋大	25.0%
14	九州大	31.0%	大阪市立大	31.5%	明治大	28.7%	九州大	26.2%	大阪市立大	33.0%	首都大東京	22.9%	首都大東京	23.0%
15	立命館大	30.5%	明治大	29.7%	同志社大	27.0%	近畿大	24.3%	上智大	26.4%	九州大	22.8%	神奈川大	22.9%
16	立教大	29.2%	同志社大	27.5%	九州大	26.3%	東北大	22.0%	創価大	25.0%	名古屋大	22.6%	大阪市立大	18.6%
17	東北大	27.8%	関西学院大	26.3%	上智大	25.0%	広島大	20.9%	岡山大	24.3%	上智大	19.6%	岡山大	18.5%
18	関西学院大	26.4%	上智大	26.1%	法政大	24.0%	上智大	20.8%	九州大	24.1%	横浜国立大	19.4%	熊本大	18.4%
19	同志社大	26.1%	立命館大	25.6%	関西大	23.5%	明治大	20.4%	東北大	22.5%	岡山大	18.1%	創価大	17.9%
20	関西大	25.3%	関西大	25.4%	立命館大	23.4%	中京大	19.5%	同志社大	22.1%	大阪市立大	17.4%	同志社大	17.5%

出典：法務省ホームページ「司法試験の結果について」

※ このランキングは法科大学院卒業生のみを対象とし、予備試験合格者については含めていない。

8-2 各種資格試験・採用試験合格状況

教育

国家公務員総合職			弁理士			公認会計士			一級建築士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	東京大	438	1 (1)	京都大	27	1	慶應義塾大	120	1	日本大	202
2 (2)	京都大	160	2 (2)	東京大	26	2	早稲田大	94	2	東京理科大	132
3	早稲田大	140	3	早稲田大	25	3	中央大	87	3	早稲田大	90
4	慶應義塾大	92	4 (3)	大阪大	19	4	明治大	69	4	近畿大	76
5 (3)	東北大	78	5 (4)	東京工業大	17	5	同志社大	43	5	芝浦工業大	75
6 (4)	北海道大	67	6 (5)	東北大	16	6	関西大	29	6	明治大	67
	大阪大	67	7 (6)	九州大	14		立命館大	29	7	工学院大	64
8 (6)	九州大	56	7	東京理科大	14	8	関西学院大	28	8	大阪工業大	51
	一橋大	56	9	慶應義塾大	13	9 (1)	神戸大	27		法政大	51
10	東京理科大	53	10 (7)	名古屋大	10	9	法政大	27	10 (1)	京都大	50
11	中央大	48	10	日本大	10	14 (4)	神戸大	42		京都工芸繊維大	50
12 (8)	神戸大	40	16 (10)	神戸大	6						

技術士			医師国家試験			看護師			保健師		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格率	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	京都大	153	1	自治医科大	99.1%	1	順天堂大[医療看護]	200	1	順天堂大[医療看護]	184
2 (2)	北海道大	145	2 (1)	筑波大	99.0%	2	聖隷クリストファー大	150	2	埼玉県立大	155
3 (3)	東京大	135	3	福島県立医科大	98.9%	3	日本赤十字広島看護大	149	3	聖隷クリストファー大	140
4	日本大	131		順天堂大	98.9%	4	九州看護福祉大	147	4	日本赤十字看護大	136
5 (4)	九州大	106	5	防衛医科大学校	98.6%	5	日本赤十字看護大	137		日本赤十字広島看護大	136
6 (5)	東北大	90	6 (2)	浜松医科大	98.1%	6	熊本保健科学大	135	6	熊本保健科学大	123
7 (6)	東京工業大	86	7 (3)	東京医科歯科大	97.8%	7	日本赤十字豊田看護大	133	7	日本赤十字豊田看護大	119
8	早稲田大	83	8	大阪市立大	97.7%	8	大阪府立大	131	8	大阪府立大	118
9 (7)	大阪大	79	9	横浜市立大	97.5%	9	広島文化学園大	130	9	久留米大	115
10	東京理科大	78	10	藤田保健衛生大	97.1%	10	国際医療福祉大[保健医療]	126		日本赤十字九州国際看護大	115
11 (8)	名古屋大	63	11 (4)	山梨大	96.8%	62 (1)	岐阜大	91	30 (1)	千葉大	95
12 (9)	神戸大	57	16 (5)	佐賀大	95.7%	71 (2)	千葉大	86	34 (2)	名古屋大	92
13 (10)	広島大	56	19 (6)	千葉大	95.3%	83 (3)	岡山大、鹿児島大、群馬大、弘前大、山口大	82	36 (3)	三重大	91
14 (11)	金沢大	52	21 (7)	山形大	95.2%				49 (4)	岡山大、金沢大、鹿児島大	87
	新潟大	52	22 (8)	三重大	95.0%						
17 (13)	信州大	50	37 (16)	神戸大	91.4%	112 (12)	神戸大	78	94 (20)	神戸大	75

臨床検査技師			作業療法士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1	熊本保健科学大	121	1	国際医療福祉大 [保健医療]	90
2	藤田保健衛生大	99	2	帝京平成大 [健康メディカル]	75
3	杏林大	97	3	北海道文教大	59
4	北里大[医療衛生]	95	4	神戸学院大	53
5	岐阜医療科学大	88	5	川崎医療福祉大	52
6	麻布大	83	6	東北文化学園大	49
7	神戸常盤大	81	7	国際医療福祉大 [小田原保健医療]	48
8	大東文化大	79		目白大	48
	帝京大	79	9	健康科学大	47
10	文京学院大	73	10	新潟医療福祉大	46
13 (1)	熊本大	44	31 (1)	広島大	29
14 (2)	名古屋大	43	34 (2)	名古屋大	25
15 (3)	大阪大	42	44 (3)	群馬大、信州大、弘前大、鹿児島大	21
	群馬大	42			
	筑波大	42			
19 (7)	神戸大	40	49 (7)	神戸大	20

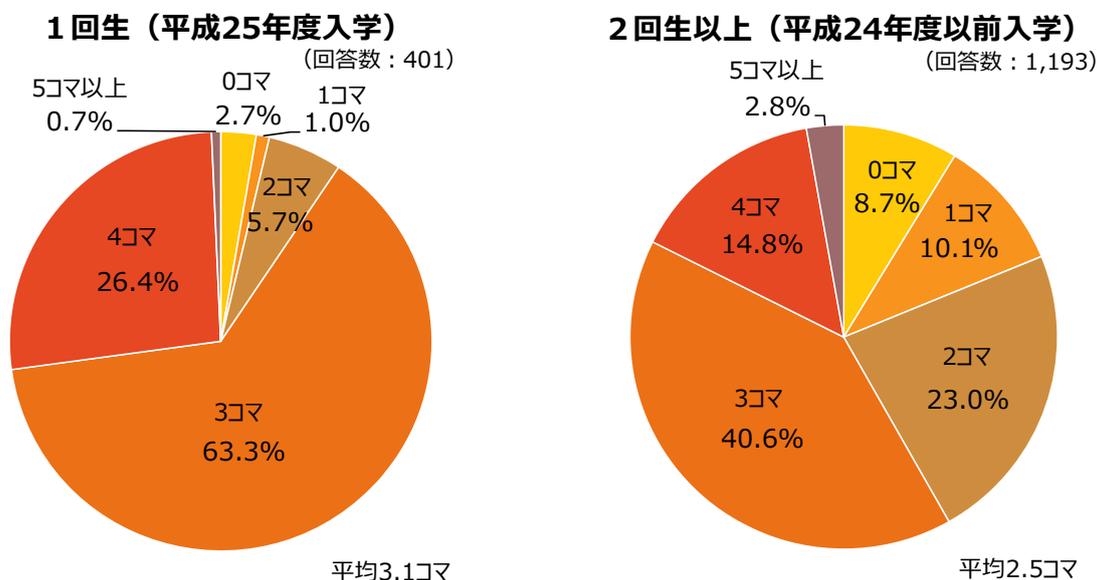
※合格者数は(人)
カッコ内は国立大学内の順位

出典：朝日新聞出版「大学ランキング2016」より作成。
(データは2014年の数値)

9. 学生生活状況

9-1 学部学生の平日1日当たりの授業時間（1コマ90分）

- 「1日当たり3コマ」と回答した学生の割合は、1回生が6割、2回生以上が4割であり、双方において最も高い。
- 1日当たり0コマ～2コマと回答した学生の割合は、1回生では1割に満たないが、2回生以上になると全体の4割を占めるようになり、また回答も分散化していることから、学生による差が明確になっている。

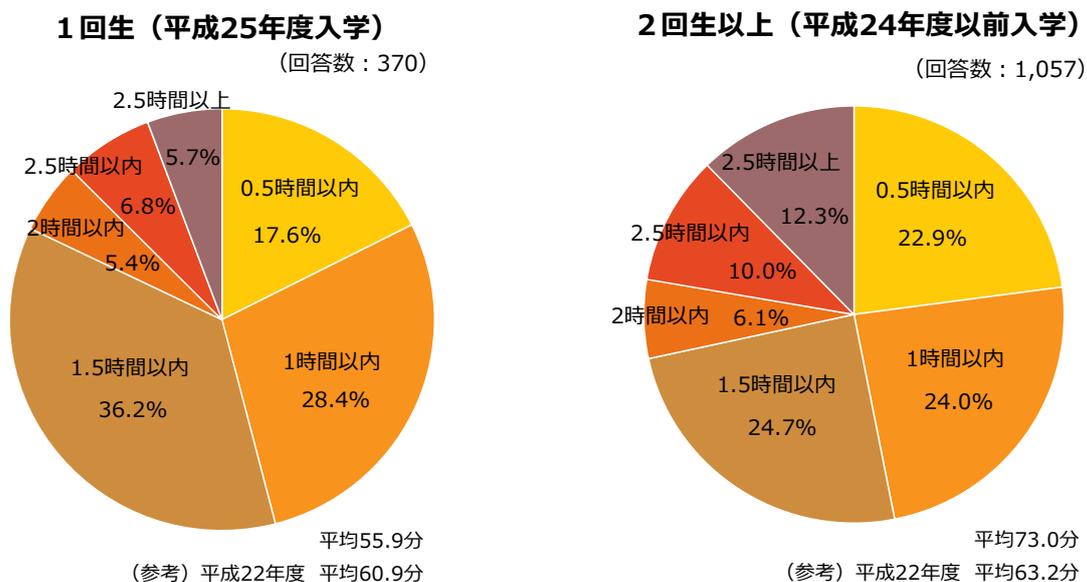


注：四捨五入により小数第一位までの数値を出しているため、合計が100%とならないデータも存在する。

出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

9-2 学部学生の平日1日当たりの自主学習時間

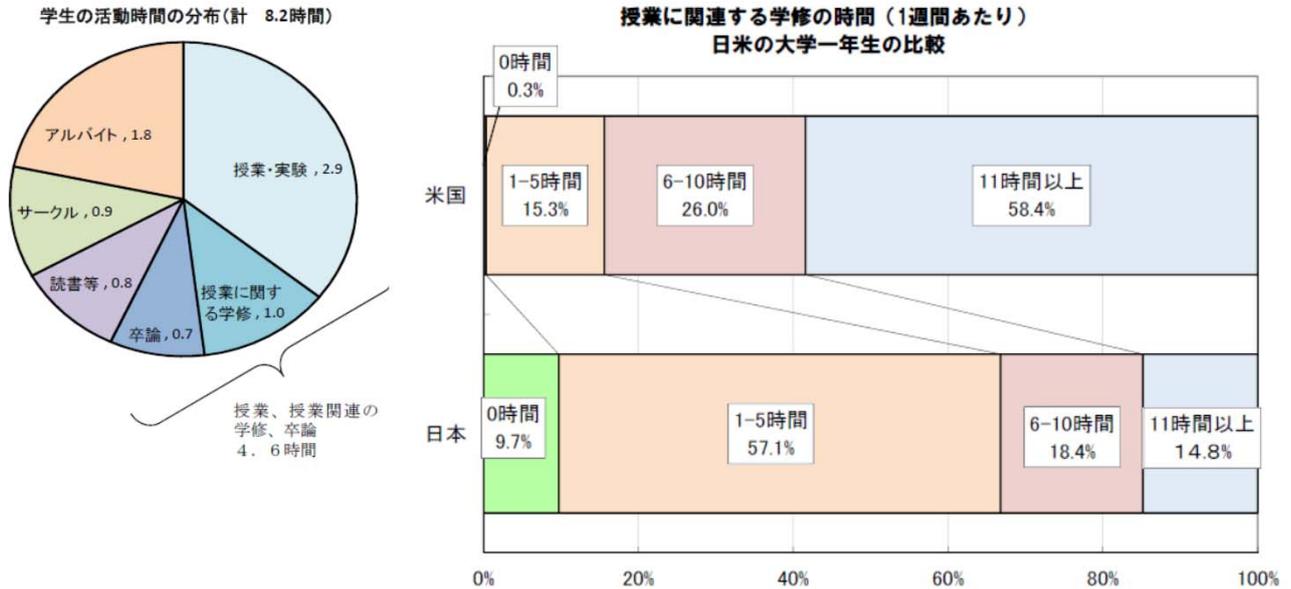
- 1回生と2回生以上の双方において「1時間30分以内」の回答した割合が最も高く、1回生4割弱、2回生以上2割強となっている。
- また、2回生以上の学生の方が、「30分以内」と回答または1時間30分を超えて勉強すると回答した学生の割合が1回生よりもやや高く、分散化していると言える。



出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

9-3 【参考】学生の学修時間の現状

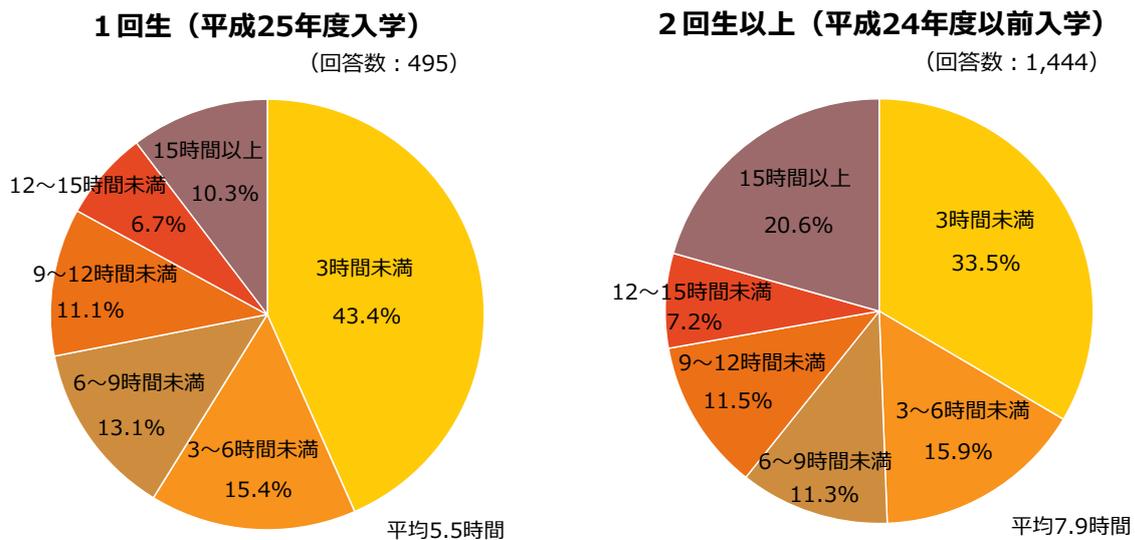
- 文部科学省 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」（平成24年8月28日 資料編関連データ58ページ）によると、一日の学修時間は4.6時間とのデータもある。
- 本学と比較すると、一日あたりの授業時間は参考データより長く、自主学修時間は同程度となっている。



出典：東京大学 大学経営政策研究センター（CRUMP）『全国大学生調査』2007年、サンプル数44,905人
<http://ump.p.u-Tokyo.ac.jp/crump/>
 NSSE (The National Survey of Student Engagement)

9-4 学部学生の1週間当たりの就業時間

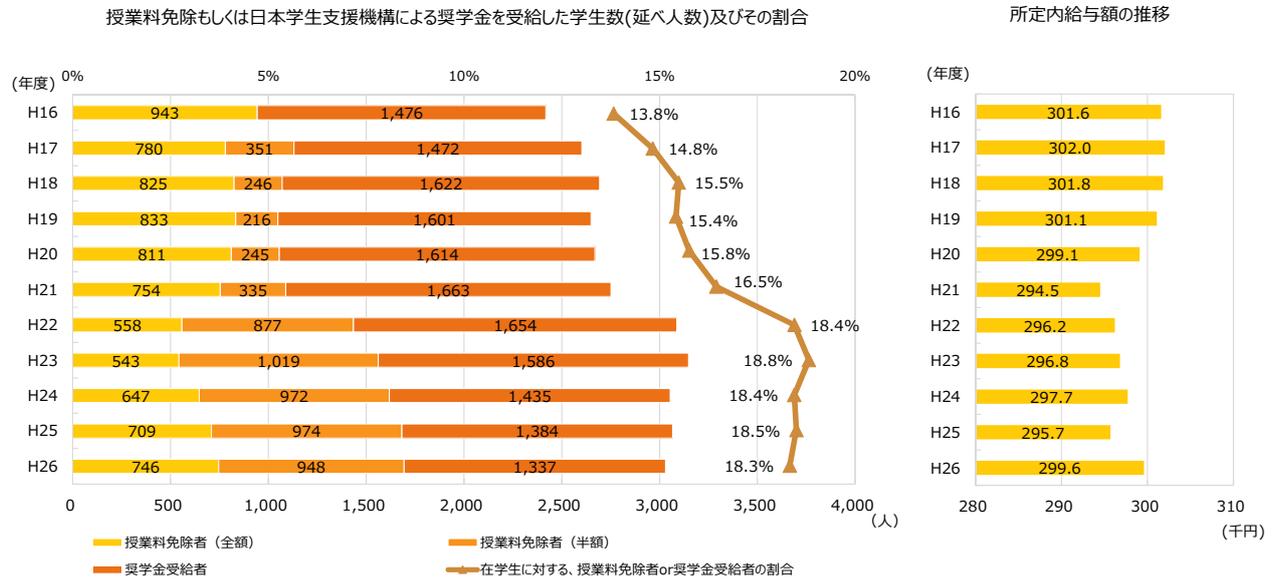
- 2回生以上になると就業の時間が増える傾向にある。特に15時間以上の割合をみると、2倍程度増加しており、自宅での学修時間に影響が出ている可能性も考えられる。



出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

9-5 経済支援について

- 一般労働者の所定内給与額の変動と、神戸大学における授業料の免除や奨学金を受給する学生数の推移が連動しており、2つは相関関係にあることが見てとれる。
- 神戸大学では平成22年度から**授業料の半額免除枠を拡大**し、多くの学生の経済的支援を行っている。



出典(右)：厚生労働省 賃金センサス(賃金構造基本統計調査)より作成

10. 教育プログラムの採択状況

【平成23年度新規採択分】 (単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部署	補助金 交付済総額	採択期間	概要
大学の世界展開力強化事業				
「キャンパス・アジア」中核拠点形成支援 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	国際協力研究科	196,780	H23～ H27	本プログラムは神戸大学大学院国際協力研究科、復旦大学国際関係・公共事務学院、麗澤大学国際大学院がコンソーシアムを形成し、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスクマネジメント専門家の養成に向けた同一かつ質の高い協働教育を展開する取組である。博士課程前期課程の大学院生を対象に12ヵ月間、交換留学およびダブル・ディグリープログラムを実施する受入・派遣モデルを三大学の協働により開発し、インターンシップを含めた講義等履修し、各大学で定めた単位を相互認定することにより、将来の東アジアおよび世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家を養成する。また、神戸大学大学院国際協力研究科の国内外での実績を前提に、WHO神戸センター、人と未来防災センター、アジア防災センター、JICA兵庫等のリスクマネジメントに関わる多彩な研究機関やNPO諸機関、既にネットワークが構築されている国際機関でのインターンシップなどプログラム参加者により充実した教育の機会を提供する。

【平成24年度新規採択分】 (単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部署	補助金 交付済総額	採択期間	概要
大学の世界展開力強化事業				
ASEAN諸国との連携・協働による 次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成	医学研究科	175,607	H24～ H28	神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マドヒン大学、チェンマイ大学、WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)、兵庫県立健康生活科学研究所(Hyogo-IPHES)がコンソーシアムを構成し、既に神戸大学がインドネシア拠点及び大阪大学がタイ拠点を有する優位性を活用し、神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を通して、ASEAN諸国との連携・協働による「次世代医学・保健学グローバルリーダー」を育成する。
国際化拠点整備事業				
スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 (旧グローバル人材育成推進事業)	文学部, 国際文化学部, 発達科学部, 法学部, 経済学部, 経営学部, 人文学研究科, 経済学研究科	267,195	H24～ H28	本事業では、教育目的に掲げる「人間性の教育」、「創造性の教育」、「国際性の教育」、「専門性の教育」を踏まえつつ、人文科学系及び社会科学系の6学部(国際文化学部、文学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部)がそれぞれの教育プログラムを通じて互いの専門性を越えて協力し、深い教養と高度な専門性、グローバルな視野と卓越したコミュニケーション能力を備えた「問題発見型リーダーシップ」を発揮できるグローバル人材を育成することを目的とする。
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成プログラム				
基礎・臨床融合による基礎医学研究の養成	医学部	53,210	H24～ H28	本事業は、本医学部医学科学生が基礎医学研究に対する興味を喚起し、研究に魅力を感じる学生が積極的に研究に参加できるよう「基礎医学研究教育コース」を設置し、本コースを履修する学生が研究に必要な実験手技、科学的思考法として学術的研究発表を行うために必要な技能を身につけるための学生教育支援を行う取組である。この取組により研究に興味を持つ医学科学生は、他の学生と同様に医師になるために必要な教育を受けると同時に、基礎医学系分野に於いて少人数で個別研究指導を受け、新知見を得る喜びを体験し基礎研究に必要の技能を習得する。卒業後は卒業臨床研修を受けながら大学院を修了できる大学院ダブルコースに進み、更に基礎臨床融合教員(学術研究員や特定助教)として、基礎医学系分野で研究を続けるとともに大学附属病院で臨床活動を行う真のクリニシャン・サイエンティストの養成を目指す。
研究拠点形成等補助金「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」				
7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン	医学研究科	81,969	H24～ H28	本プランは、阪神地区の国公立7大学8学部の医学、看護学、薬学系大学院研究科が相互に連携し、高度ながん診療と研究を実践できる人材養成の基盤整備を推進するものである。基盤整備のため教育改革、地域医療、研究者養成の3部門を設置し、教育改革部門では、がん診療に携わる若手医師及び医療人の発掘と育成を目指した専門教育プログラムの開発に取り組み、地域医療部門では、地域の医療機関で活躍するがん医療専門家の養成や人的交流とがん医療情報の共有を図り、多種種が連携した広域医療ネットワーク構築を目指す。研究者養成部門では、ゲノム薬理学的個別化治療や高精度放射線治療法の開発など基礎研究と臨床研究を融合した教育プログラムのもと、国際競争力を有する研究者を養成する。これらを実現するため、臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、緩和医療学の講座を新設し、包括的がんセンターを具体化することで、がん教育拠点としての機能を強化する。

【平成25年度新規採択分】 (単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部署	補助金 交付済総額	採択期間	概要
大学の世界展開力強化事業 ～海外との戦略的高等教育連携支援～ ICI-ECPプロジェクト (※)				
日・EU間学際的先進教育プログラム (EU-JAMM)	日欧連携教育府	6,750	H25～ H29	日本側4大学(神戸大学、九州大学、大阪大学、奈良女子大学)、EU側6大学(ルーヴァン・カトリック大学、エッセクス大学、ヤゲウォ大学、ルンド大学、ティルブルグ大学、グロニンゲン大学)からなるコンソーシアムを形成し、修士レベルのダブルディグリープログラムを推進し、5年間のプロジェクト期間中に、コンソーシアム全体で43人(EUから20人、日本から23人)の学生交流を目指す。 (※) ICI-ECPプロジェクト：日本政府が欧州連合(EU)と実施する教育連携プログラムの一環として、日本の複数の大学と欧州の複数の大学からなるコンソーシアムが、文部科学省とEUの執行機関である欧州委員会による支援の下で実施する学生交流プロジェクト

【平成27年度新規採択分】 (単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部署	補助金 申請額	採択期間	概要
大学教育再生加速プログラム (AP) テーマⅣ 長期学外学修プログラム (ギャップイヤー)				
神戸グローバルチャレンジプログラム	全学(学部対象)	80,081	H27～ H31	本取組は、1・2年生の1つのクォーターをギャップタームとして設定し、この期間に学生が国際的なフィールドで行う自主的な活動を正課のプログラムとして単位認定する取組である。平成28年4月から全学でクォーター制を導入することで設定が可能となるギャップターム(「チャレンジターム」)の期間中に学生が国際的なフィールドにおいて多種多様な学外学修に取り組むためのプログラムを全学的に開発する。 本補助事業の全体の目的は、「課題発見・解決型グローバル人材」として「神戸スタンダード」に定められた本学の全学生が卒業時に身につけるべき3つの能力(①複眼的に思考する能力、②多様性と地球課題を理解する能力、③協働して実践する能力)の必要性をプログラム参加学生自らが体感し、「学びとは何か」を主体的に考え、「学びの動機づけ」を得ることにある。本補助事業において、学生は国際的なフィールドで自主的な活動を行うことから、異文化環境の下で自らの体験に基づき課題発見・解決能力の必要性に気づくことができる。これらの気づきにより、学生は低年次において主体的な学修姿勢を身につけ、その後の海外留学等の国際的なフィールドでの更なる活動にチャレンジすることが期待される。

11. 研究論文

11-1 インパクトの高い論文数による日本の研究機関ランキング

- 本学の2004年1月から2014年12月の約11年間における高被引用論文数は、国内で**18位**となっている。
- ただし、自然科学・生命医学系の学術論文を中心に集計したデータであり、論文数・被引用数だけで大学の研究活動を評価できるものではないことに留意が必要である。

順位	機関名	高被引用論文数	割合
1	東京大学	1,311	1.6%
2	京都大学	739	1.2%
3	大阪大学	590	1.2%
4	国立研究開発法人理化学研究所	557	2.3%
5	東北大学	505	1.1%
6	国立研究開発法人産業技術総合研究所	375	1.3%
7	名古屋大学	339	1.1%
8	東京工業大学	288	1.1%
9	国立研究開発法人物質・材料研究機構	257	1.8%
10	九州大学	254	0.8%
11	筑波大学	232	1.1%
12	北海道大学	207	0.6%
13	広島大学	186	1.1%
14	岡山大学	179	1.2%
15	自然科学研究機構	148	1.2%
15	慶應義塾大学	148	0.9%
17	早稲田大学	144	1.3%
18	神戸大学	138	1.0%
19	高エネルギー加速器研究機構	122	1.9%
20	千葉大学	111	0.8%

出典：トムソン・ロイター社プレスリリース「インパクトの高い論文数分析により日本の研究機関ランキングを発表」より

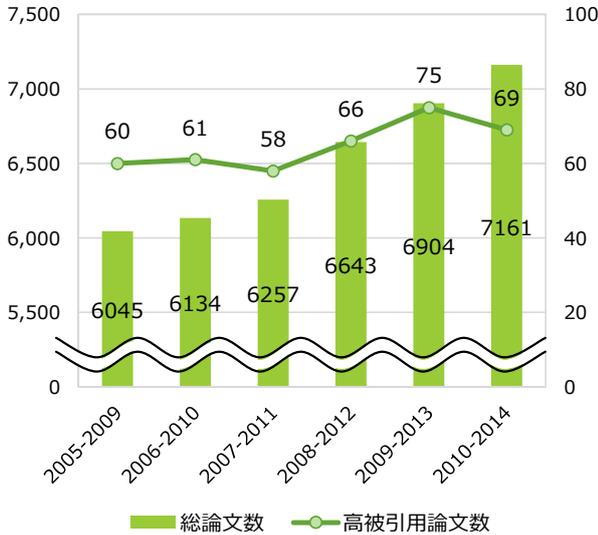
当データは、同社のデータベース「InCites Essential Science Indicators™」に収録されている世界の研究機関情報から、同データベースの22研究分野において被引用数が上位1%の高被引用論文を集計し、ランキング化したものである。

注) 「11.研究論文」に関しては、自然科学・生命医学系の学術論文を中心に集計したデータである。学問分野によって論文の在り方が異なるため、論文数・被引用数だけで大学の研究活動を評価できるものではないことに留意が必要である。

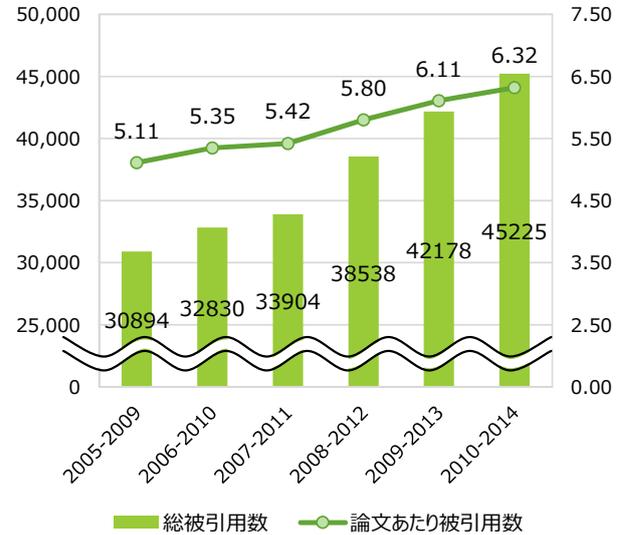
11-2 論文の量と質についての比較 - 推移 -

○ 総論文数・総被引用数・論文あたり被引用数については順調な伸びを見せているが、高被引用論文数については、増加傾向にあるものの伸び悩んでいる。

神戸大学のWoS(※)収録論文の
論文数推移 (5年間隔)



神戸大学のWoS(※)収録論文の
被引用数推移 (5年間隔)



出典：「InCites™ Essential Science Indicators™」より

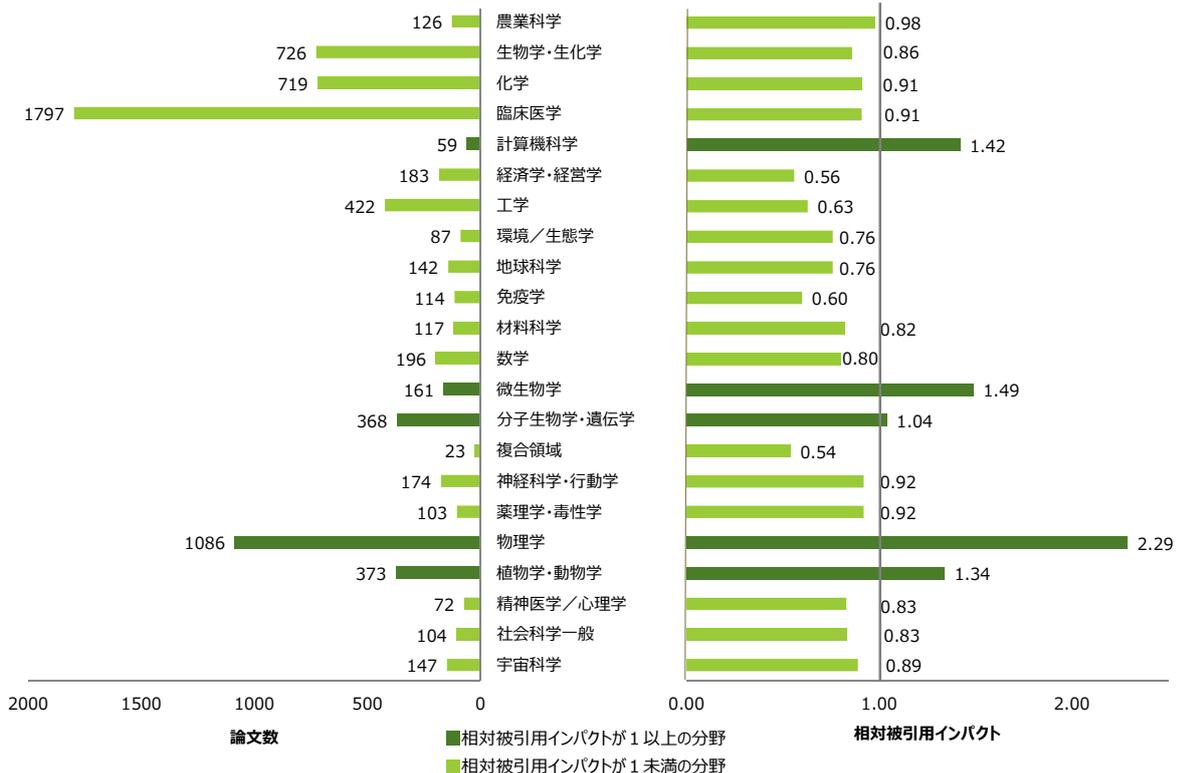
総論文数、高被引用論文数、総被引用数は5年間の累計値となる。なお、データは2015年7月29日現在の数値である。

※「WoS」=「Web of Science™」（トムソン・ロイター社が提供する学術文献データベース）の略。

11-3 論文の量と質についての比較 - ESI22分野別 -

○ InCites™を用いて、本学の研究をESI22分野別に比較した結果である。グラフ内の濃緑色に塗られた分野においては、相対被引用インパクトが世界平均1.0を超えており、質の高い研究が行われていることを示している。

神戸大学の論文のESI22分野別比較

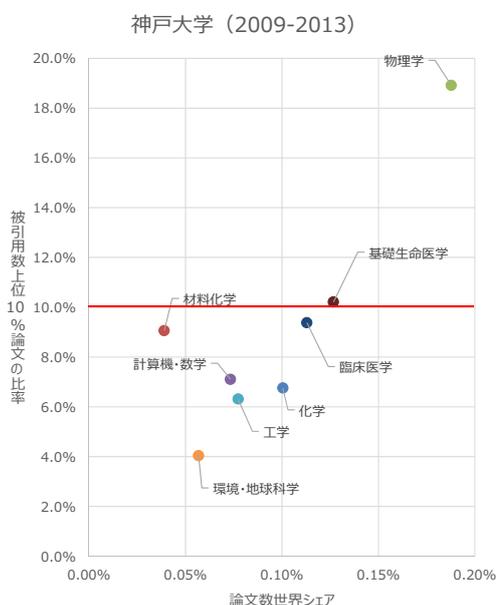


※2010年～2014年の論文において、「InCites™ Essential Science Indicators™」の22分野別でデータを分析。
相対被引用インパクト：各分野における1論文あたりの被引用数を世界平均1.0とした場合の相対的な割合を示す数値。

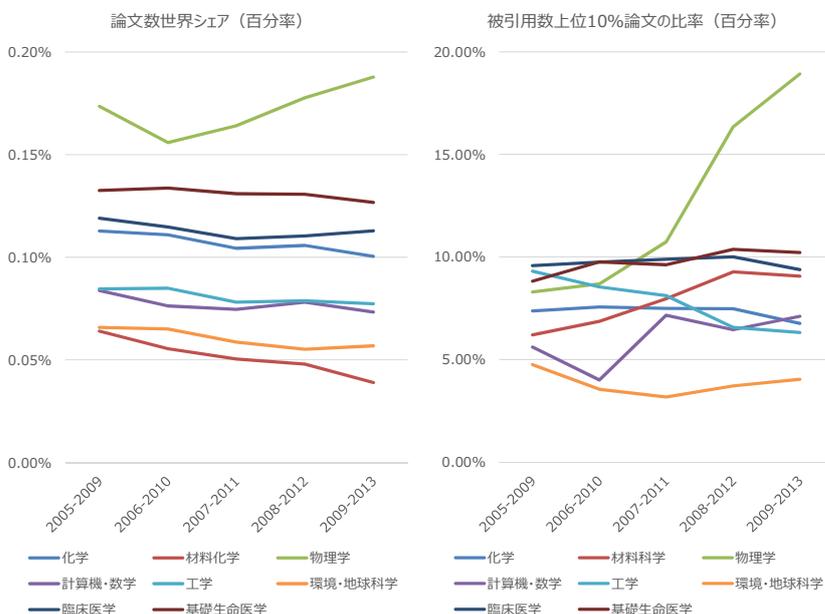
11-4 論文の量と質についての比較 - NS 8 分野別 -

○ 科学技術政策研究所（NISTEP）が定義した研究ポートフォリオ8分野別に、本学の論文を分析した結果である。近年、**物理学分野**で大きな伸びを見せている。

◆マッピング



◆推移 (2005-2013年、5年間隔)



※InCites™により、4つのドキュメントタイプ (Article, Letter, Note, Review) の論文について、科学技術政策研究所「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」において用いられていた「研究ポートフォリオ8分野 (ESI22分野のうち19分野を再分類したもの)」別にデータを分析した。共著論文のカウント方法は整数カウント法である。また、本データは2015年6月19日現在の数値である。

11-5 論文の量と質についての比較 - 国際共著 -

○ 本学の国際共著論文数・国際共著率はともに**増加傾向**にある。分野別で見ると、物理学や生物学など広い分野で積極的に国際連携して研究を行っていることが分かる。

神戸大学の国際共著論文の推移 (5年間隔)



◆神戸大学の国際共著論文の多い分野 (2010-2014年の合計)

分野名 (Web of Science 251 分野)	国際共著論文数	国際共著率 (%)
PHYSICS, PARTICLES & FIELDS (物理学・粒子・界)	252	88.4%
PHYSICS, MULTIDISCIPLINARY (物理学・総合)	213	60.7%
ASTRONOMY & ASTROPHYSICS (天文学・宇宙物理学)	163	69.1%
BIOCHEMISTRY & MOLECULAR BIOLOGY (生化学・分子生物学)	110	20.9%
CELL BIOLOGY (細胞生物学)	73	24.3%
BIOTECHNOLOGY & APPLIED MICROBIOLOGY (バイオテクノロジー・応用微生物学)	62	19.0%
VIROLOGY (ウイルス学)	54	59.3%
PLANT SCIENCES (植物学)	52	24.8%
ECONOMICS (経済学)	49	23.6%
NEUROSCIENCES (神経科学)	48	32.0%
IMMUNOLOGY (免疫学)	45	36.6%
MICROBIOLOGY (微生物学)	45	36.3%
GENETICS & HEREDITY (遺伝学・遺伝)	41	25.2%

出典：「InCites™」より

注) 国内論文数及び国際共著論文数について、左のグラフ内では5年間の平均値、右の表内では5年間の累計値を示している。

11-6 サイエンスマップから見る本学の強みである研究領域

- NISTEP（科学技術・学術政策研究所）が2014年7月に公表した「サイエンスマップ2010 & 2012」によると、神戸大学では幹細胞や素粒子に関する研究をはじめ、幅広い分野において世界をリードする研究が行われていることがわかる。
- またペーパー数を見ると、コアペーパー、サイティングペーパー、サイティングペーパーのうちトップ10%論文の全てにおいて、着実に増加している。

サイエンスマップとは？

論文データベース分析により国際的に注目を集めている研究領域を定量的に把握し、それらが、互いにどのような位置関係にあるのか、どのような発展を見せているのかを示した科学研究の地図。

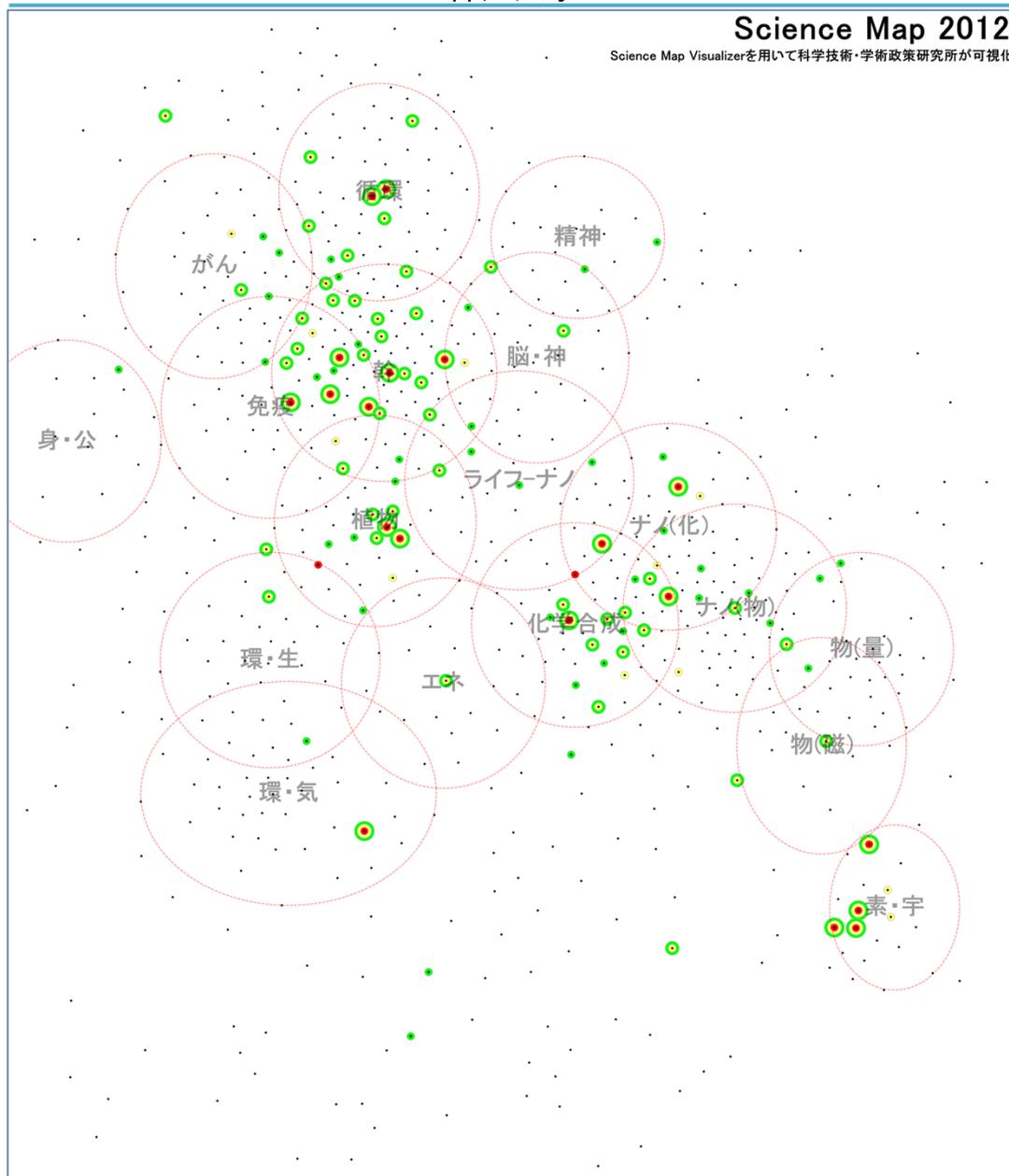
◆研究領域群名

- ①がん（がん研究）
- ②循環（循環器疾患研究）
- ③身・公（身体活動・公衆衛生）
- ④免疫（免疫・感染症研究（遺伝子発現制御を含む））
- ⑤幹（遺伝子発現制御・幹細胞研究）
- ⑥脳・神（脳・神経疾患研究）
- ⑦精神（精神疾患研究）
- ⑧植物（植物・微生物研究（遺伝子発現制御を含む））
- ⑨環・生（環境・生態系研究）
- ⑩環・気（環境・気候変動研究（観測、モデル））
- ⑪ライフ・ナノ（生物メカニズムとナノレベル現象の交差（ライフ・ナノブリッジ））
- ⑫エネ（バイオ・化学的アプローチによるエネルギーの創出）
- ⑬化学合成（化学合成研究）
- ⑭ナノ（化）（ナノサイエンス研究（化学的アプローチ））
- ⑮ナノ（物）（ナノサイエンス研究（物理学的アプローチ））
- ⑯物（量）（物性研究（量子情報処理・光学））
- ⑰物（磁）（物性研究（磁性・超電導））
- ⑱素・宇（素粒子・宇宙論研究）

神戸大学

Science Map 2012

Science Map Visualizerを用いて科学技術・学術政策研究所が可視化



- 研究領域のコアペーパー、サイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)に1件入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパーに入っている場合(2件以上)
- ・ 参照していない場合

◆用語

研究領域

2007～2012年の6年間に発行された論文の中で、各年、ESI22分野の被引用数Top1%論文に対し、「共引用」を用いたグループ化を行うことにより得られた823の領域

コアペーパー
各研究領域を構成している論文

サイティングペーパー
コアペーパーを引用している論文

神戸大学	コアペーパー		サイティングペーパーのうちTop10%論文		サイティングペーパー	
	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数
サイエンスマップ2008	12	21	79	188	100	592
サイエンスマップ2010	26	33	100	207	118	642
サイエンスマップ2012	21	53	76	284	106	821

(出典)文部科学省 科学技術・学術政策研究所、サイエンスマップ2010 & 2012、NISTEP REPORT No.159、2014年7月

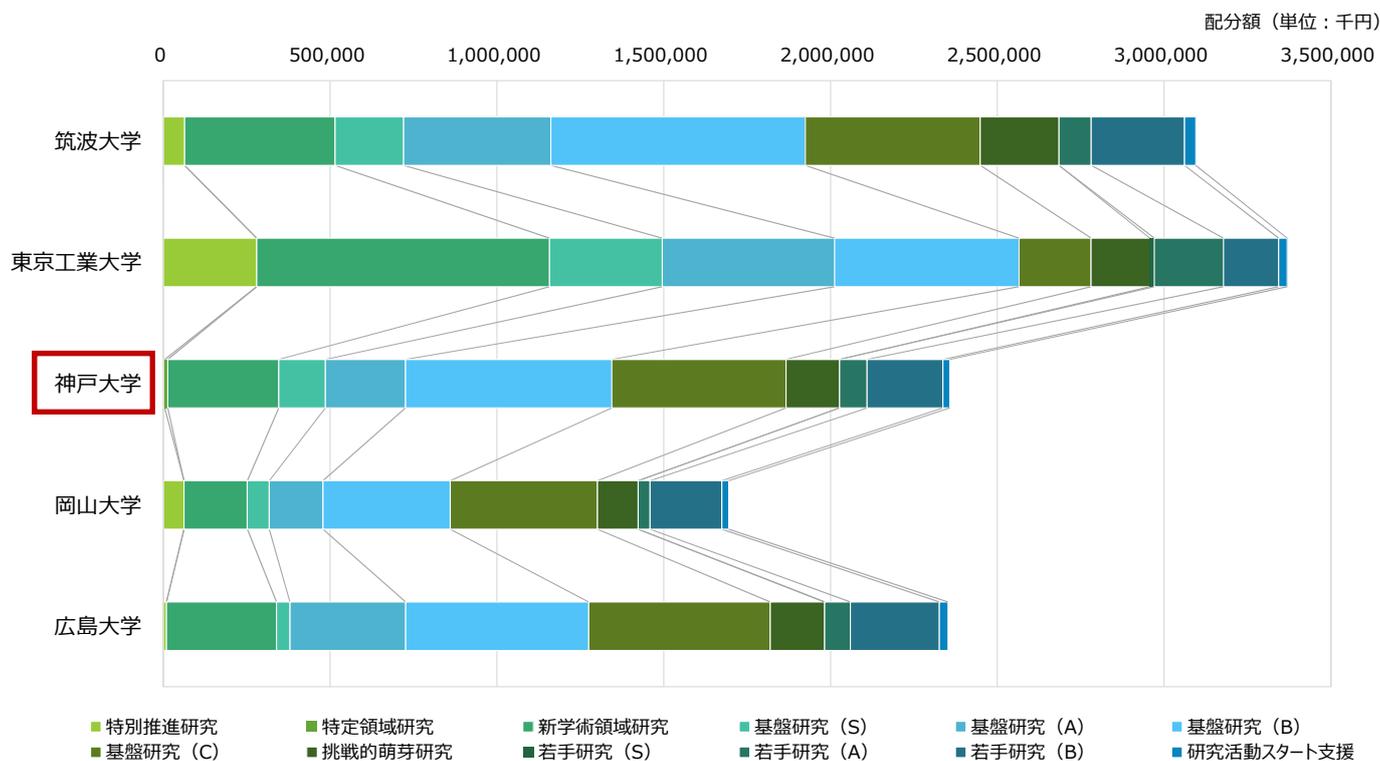
12. 科学研究費

12-1 平成27年度科学研究費助成事業獲得状況

種 目	新規申請件数	採択件数			新規採択率	配分額（新規+継続）		
		新規	継続	合計		直接経費（千円）	間接経費（千円）	合計（千円）
特別推進研究	0	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	-	0	0	0
新学術領域研究	79	11	22	33	13.9%	334,660	100,398	435,058
	106	17	28	45	16.0%	384,100	106,968	491,068
基盤研究(S)	6	1	4	5	16.7%	128,700	38,610	167,310
	6	1	3	4	16.7%	111,400	33,420	144,820
基盤研究 (A)	40	5	19	24	12.5%	178,900	53,670	232,570
	36	7	22	29	19.4%	235,790	69,800	305,590
基盤研究 (B)	204	46	115	161	22.5%	580,300	174,090	754,390
	173	41	121	162	23.7%	597,486	173,490	770,976
基盤研究 (C)	387	154	315	469	39.8%	515,160	154,548	669,708
	365	138	324	462	37.8%	521,252	156,376	677,628
挑戦の萌芽研究	237	73	67	140	30.8%	162,300	48,690	210,990
	190	50	77	127	26.3%	147,950	1,860	149,810
若手研究 (A)	18	5	9	14	27.8%	61,700	18,510	80,210
	11	1	12	13	9.1%	65,963	19,050	85,013
若手研究 (B)	237	79	125	204	33.3%	206,800	62,040	268,840
	249	83	123	206	33.3%	223,746	66,488	290,234
研究活動スタート支援	-	-	12	12	-	10,000	3,000	13,000
	49	11	11	22	22.4%	19,098	5,628	24,726
合 計	1,208	374	688	1,062	31.0%	2,178,520	653,556	2,832,076
	1,185	349	721	1,070	29.5%	2,306,785	633,080	2,939,865

上段：平成27年度採択状況（平成27年7月1日現在）
下段：平成26年度採択状況（最終版）

12-2 平成25年度科学研究費助成事業獲得状況

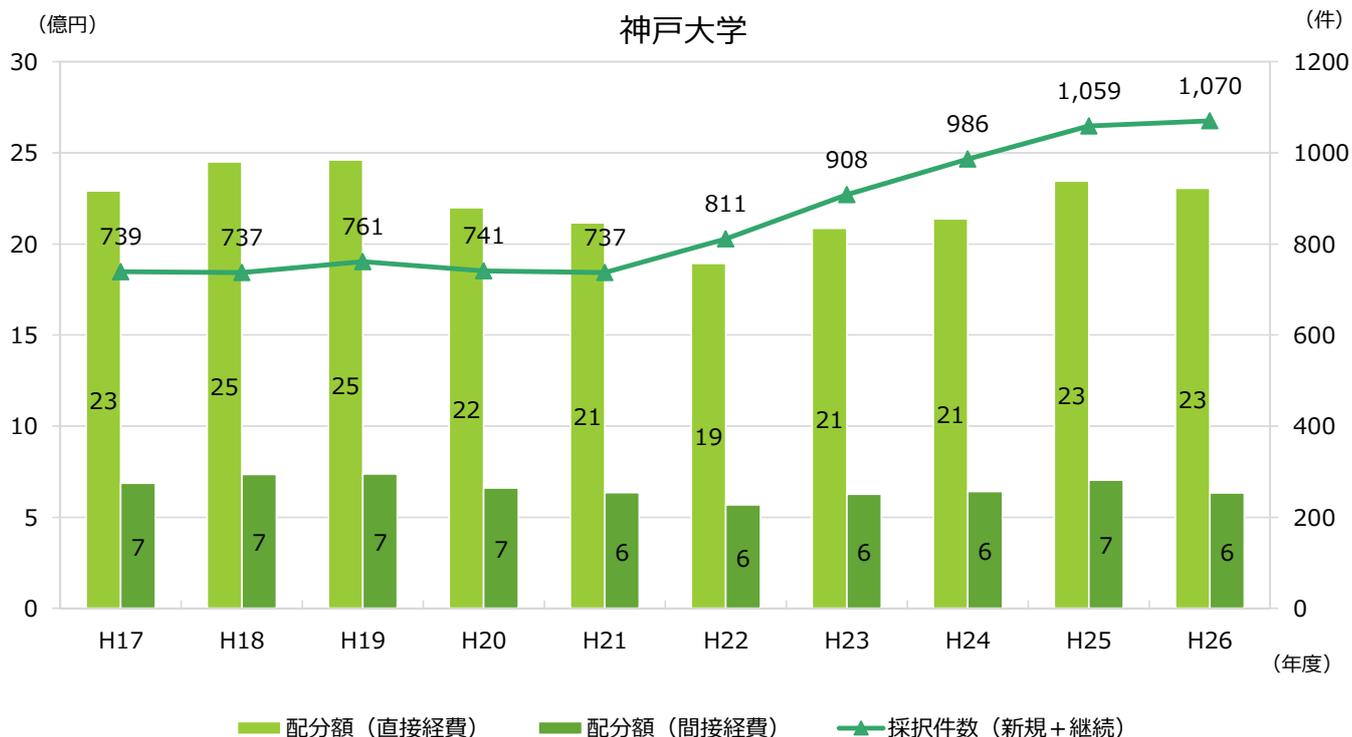


注：配分額は直接経費相当額のみ。
出典：各大学財務諸表（平成25年度版）より作成

12-3 科学研究費助成事業採択状況 — 推移 —

研究

○ 本学の科研費の採択件数は近年著しく増加しているが、配分額は直接経費は緩やかに増加、間接経費はほぼ横ばいとなっている。これは、科学研究費助成事業全体の傾向と類似している。



※H22までは予算額=助成額、H23以降は助成額を記載。
採択件数(新規+継続)はH26年度は未発表。
出典：日本学術振興会ホームページから作成

12-4 科研費の研究者当たりの配分額・採択数 — 推移 —

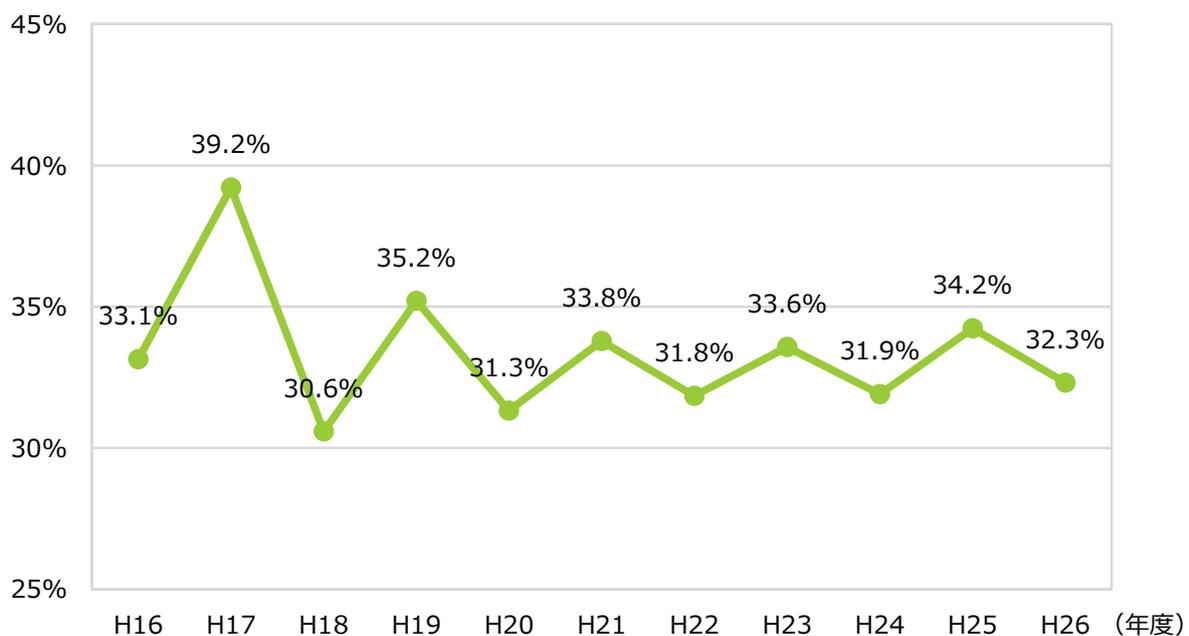
○ 減少を続けていた本学の科研費の研究者当たりの配分額及び採択数は平成21～22年度に底を打ち、近年は緩やかではあるが**増加傾向**にある。



※科研費の研究者当たりの配分額 = 採択額（直接経費）／科研費応募資格者
 ※科研費の研究者当たりの採択数 = 科研費採択件数（新規＋継続）／科研費応募資格者

12-5 科研費の若手種目の新規採択率 — 推移 —

○ 科研費の若手種目の新規採択率は、ここ数年ほぼ横ばいの状態が続いている。

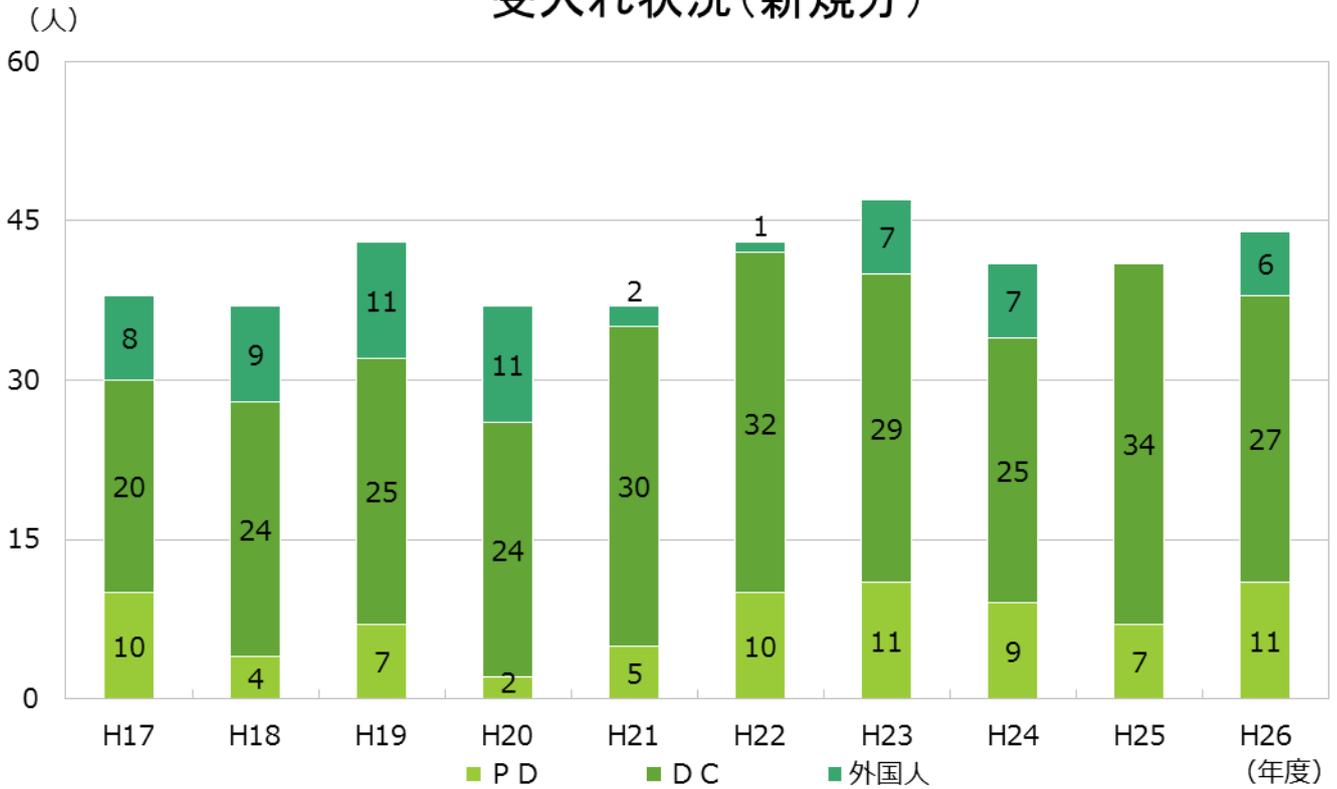


※科研費の若手種目の新規採択率 = 新規採択件数（若手研究(A)+若手研究(B)）／応募件数（若手研究(A)+若手研究(B)）

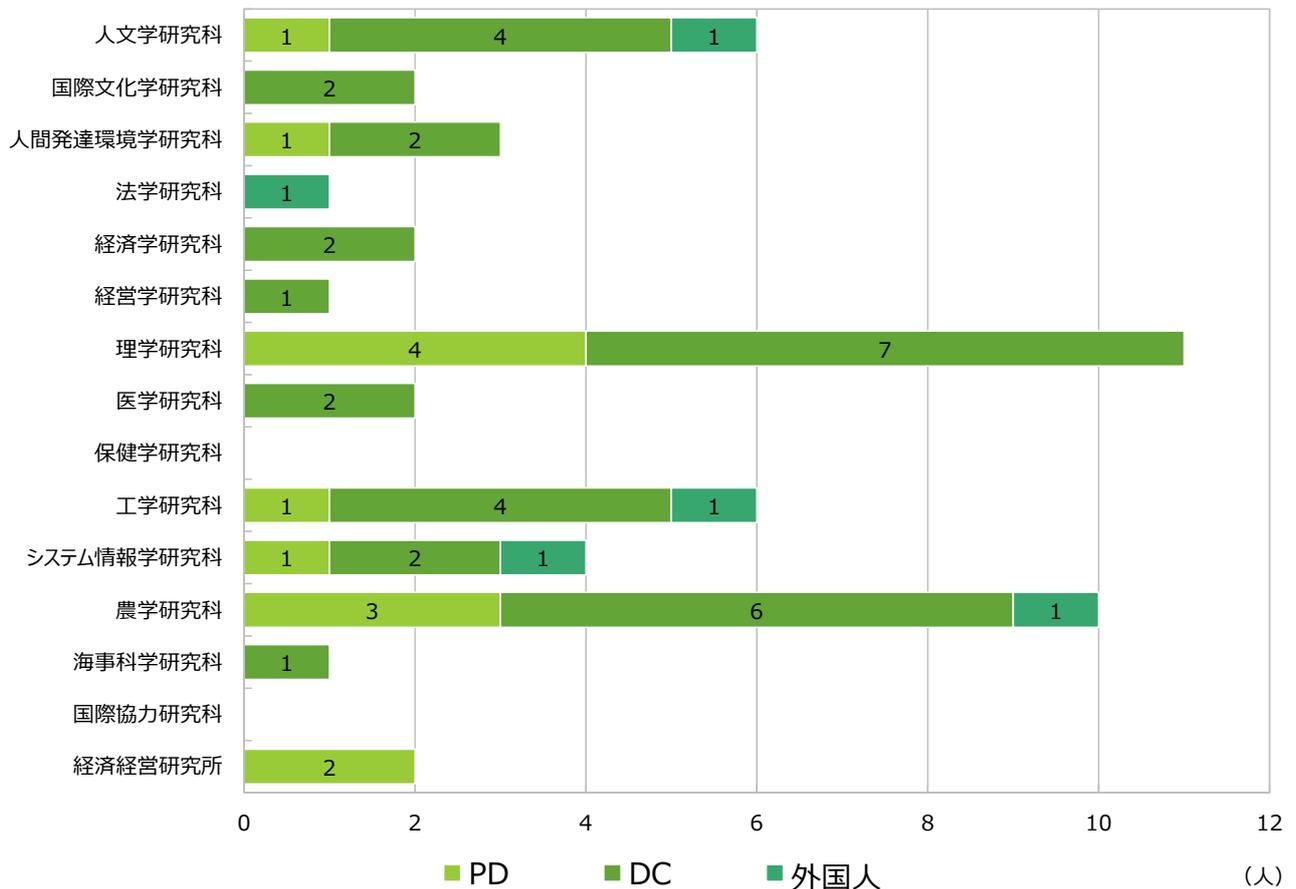
13. 日本学術振興会特別研究員

13-1 全学の受入れ状況 - 新規 -

受入れ状況(新規分)



13-2 研究科別受入れ状況 - 在籍者 -

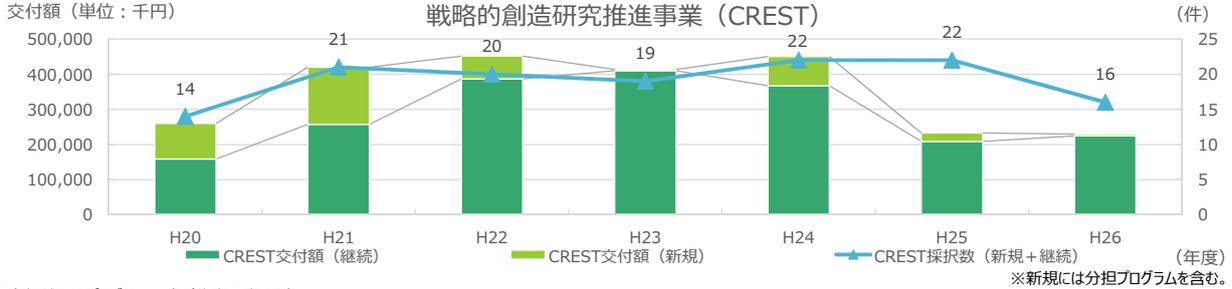


※平成27年3月31日時点での在籍者を集計。

14. 研究プログラムの採択状況

14-1 戦略的創造研究推進事業 – CREST –

○ 本学のCRESTの採択数は、近年20件前後を推移していたが、平成26年度には16件と落ち込んだ。一方、本学代表プログラムが4年ぶりに新規採択された。
「CREST」とは？ ……国が定める戦略目標の達成に向けて、課題型基礎研究を推進し、科学技術イノベーションを生み出す革新的技術シーズを創出するためのチーム型研究プログラム。



◆現在継続中のプログラム一覧 (代表研究のみ)

【平成21年度新規採択分】 (単位: 千円)

プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
戦略的創造研究推進事業 チーム型研究CREST				
合成生物工学による海洋性微細藻からのバイオエタノール生産	工学研究科	189,473	H21~ H27	ラン藻グリコーゲンの分解に最適な酵素を選出し、当該酵素を酵母細胞表面に提示発現させることにより、糖化同時発酵によるバイオエタノール生産システムの確立を目指す。

【平成22年度新規採択分】 (単位: 千円)

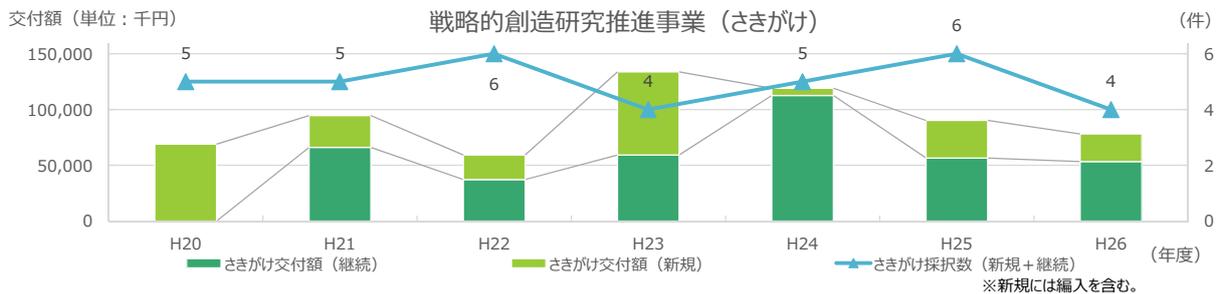
プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
戦略的創造研究推進事業 チーム型研究CREST				
ネクチンとアフアデンによる海馬神経回路形成と可塑性の機構	医学研究科	238,290	H22~ H27	研究全般の統括。本研究計画における中心的な役割を果たし、生化学、分子生物学、細胞生物学や電気生理学およびライブイメージング技術などを用いた研究全般を行う。海馬神経回路形成と機能発現における、ネクチンとアフアデンおよびその関連分子による神経細胞の標的細胞認識や、シナプスの形態形成と機能制御およびシナプス可塑性に着目して研究を行う。また、ノックアウトマウスの作成と維持・管理を行い、動物個体を用いた研究全般を行う。分子・細胞レベルで明らかにされた結果をもとに変異マウスの作成および解析を行い、海馬における神経回路の形成と機能発現の分子機構を個体レベルで明らかにする。

【平成26年度新規採択分】 (単位: 千円)

プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
戦略的創造研究推進事業 チーム型研究CREST				
包括的メタボロミクスによるバイオマーカー探索、ならびに、医療質量分析システム開発	医学研究科	4,823	H26~ H31	各種検体採取条件を揃えた質の高い臨床検体を、標準作業手順(Standard Operating Procedure)に基づいて収集し、その臨床検体を用いて、がん診断、抗がん剤効果・毒性予測マーカー候補のメタボロミクスによる探索を開始する。さらに、神戸大学、熊本大学、島津製作所との間で協議を行い、安定定量測定技術の開発、および、測定技術の自動化促進に向けて、問題点の洗い出しを行うとともに、技術開発に向けた方向性を決定する。

14-2 戦略的創造研究推進事業 – さきがけ –

○ 本学のさきがけの採択件数は平成20年度以降ほぼ横ばいであり、伸び悩んでいる状況といえる。
「さきがけ」とは？ ……戦略目標に基づいて未来のイノベーションの芽を育む個人型研究プログラム。



◆現在継続中のプログラム一覧 (編入は含まない)

【平成22年度新規採択分】 (単位: 千円)

プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
戦略的創造研究推進事業 個人型研究さきがけ				
実世界指向ユーザーインタフェース表現のための動作認識基盤の確立	工学研究科	82,485	H22~ H27	実世界における人とコンピュータとの自然なインタラクションを実現するために、ユーザの状況や動作を高度に理解し、それをユーザーインタフェースに応用するための基盤技術を確認する。人間の複合動作の分解や、即時性を高めた動作認識などの要素技術により、実世界において認識技術をインタフェースに適用する場合に生じる問題を解決したシステムプラットフォームを構築する。

【平成24年度新規採択分】 (単位: 千円)

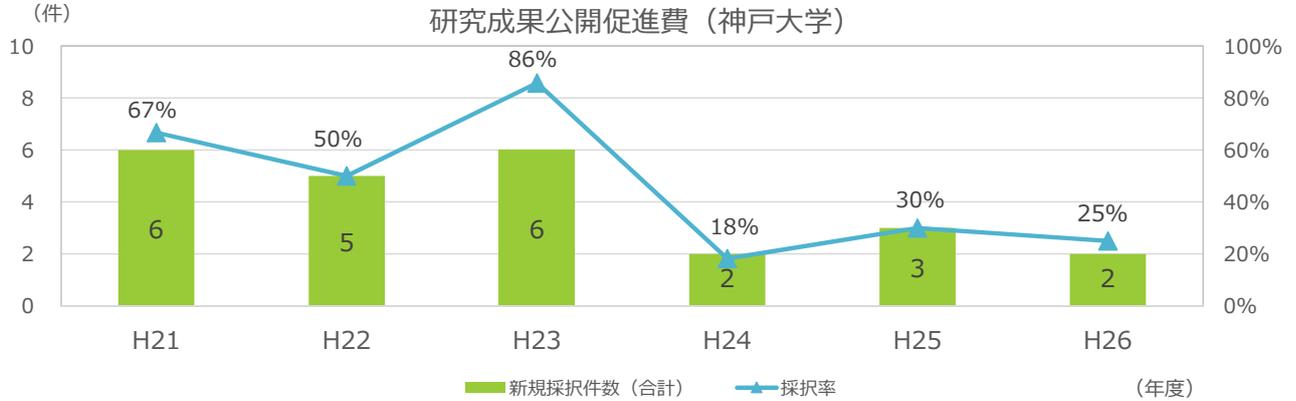
プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
戦略的創造研究推進事業 個人型研究さきがけ				
骨を要とする多臓器恒常性維持機構の解明	附属病院	47,687	H24~ H27	脳・神経による骨代謝制御を介した骨髄造血システムコントロールという多臓器間ネットワークを解明し、これまでの脳の制御機能とは違った角度から体中を俯瞰する末梢臓器「骨」の新たな制御機能の知見を創出することにより、臓器間ネットワークを利用し、既存の薬剤による本来の薬効と違った利用法による新たな治療や効果的に予防する先制医療へ応用する。

14-3 研究成果公開促進費 — 採択率 —

○ 本学における研究成果公開促進費の採択率は、平成23年度までは5割を超えていたが、近年は低迷している。

研究成果公開促進費とは？

科学研究費助成金の種目で、研究成果の公开发表、重要な学術研究成果の発信及び、データベースの作成・公開について助成することによって、我が国の学術の振興と普及に資するとともに、学術の国際交流に寄与することを目的とするものであり、優れた研究成果の公的流通の促進を図るもの。

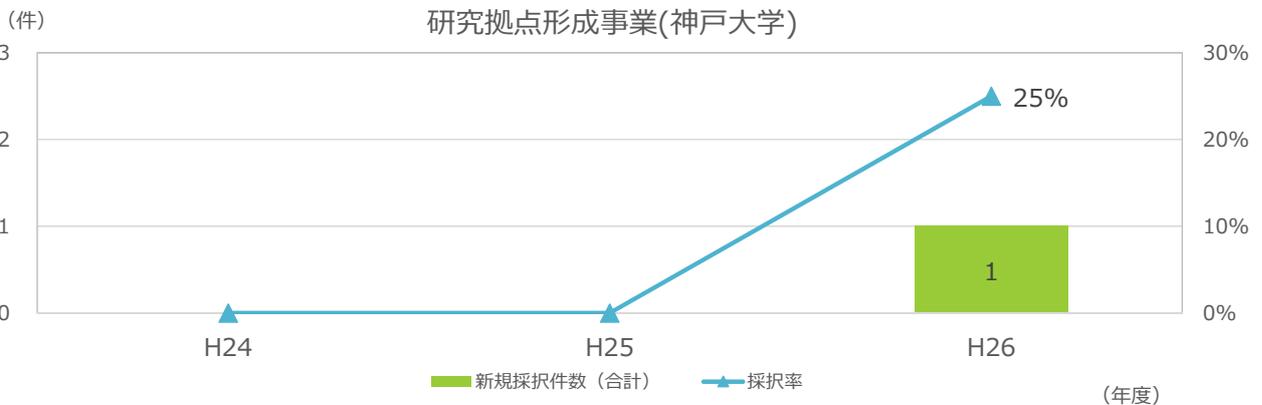


14-4 研究拠点形成事業 — 採択率 —

○ 平成24年度から研究拠点形成事業は開始され、本学においては平成26年度初めて採択された。

研究拠点形成事業とは？

我が国において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、我が国と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野において世界的水準または地域における中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とした事業。



14-5 その他の主な研究プログラム

【平成20年度新規採択分】					(単位：千円)
プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金交付済総額	採択期間	概要	
イノベーションシステム整備事業・先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム					
バイオプロダクション次世代農工連携拠点	自然科学系先端融合研究拠点研究部	2,121,989	H20～H30（予定）	バイオテクノロジーは、従来、日本が世界にリードしてきた技術分野である。本拠点では、バイオテクノロジーの基礎を固める生物資源（＝バイオマス）や遺伝子資源の開発・利用を担う農工と、実証的な化学物質生産に必須な発酵・反応・分離技術を培う工学を融合的に発展させ、すべての生物資源を可能な限り有効活用する物質生産（バイオプロダクション）の実学確立を目指し、バイオプロダクションの基礎から製品化までを一環したプロセスの体系化を行う。具体的には、バイオマスを原料とした「次世代燃料・化成品原料」、「バイオプラスチック・バイオ繊維」及び「バイオファインケミカル」の物質生産に関する研究拠点化を目指す。	
【平成24年度新規採択分】					
地域イノベーション戦略支援プログラム（国際競争力強化地域）					
「関西ライフイノベーション戦略推進地域」	連携創造本部/医学研究科	234,102	H24～H28	生命医学系研究領域の専門性に加え、国内外の医薬品、医療機器ならびに健康科学関連産業の現状や最先端の研究開発動向、将来展望等について幅広い知識・情報を有し、産業界およびアカデミアにおいて医薬品、医療機器および健康製品の研究開発や事業開発の第一線に立ち、イノベーション創出を自ら実践・リードする真のグローバルリーダーを育成する。ポर्टアイランドの神戸医療機器開発センター(MEDDEC)に設置している、消化器内視鏡システム、超音波内視鏡下穿刺吸引システムの共有化を図る。	
「ひょうご環境・エネルギーイノベーション・クラスター戦略推進地域」	工学研究科	229,159	H24～H28	21世紀は“水”の世紀と言われ水需要は爆発的に拡大すると予想される。我が国が得意とする分離膜水処理システムはこの水需要を満たす上で中心的役割を果たすと期待されている。本提案では、神戸大学の膜工学センターを母体として国内外の研究者を集積し、革新的な高機能分離膜（スマート・メンブレン）の開発を推進する研究拠点を形成する。同時に産業界と密接に連携し、水ビジネスにおけるグリーンイノベーションの創出を図る。	

15. 文化勲章受章者等一覧

○所属教員

賞名等	氏名	決定年	旧所属	官職
【文化勲章】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【文化功労者】	西塚 泰美	昭和62年	医学部	教授・学長
	五百旗頭 真	平成23年	法学研究科	名誉教授
	中井 久夫	平成25年	医学部	名誉教授
	岩井 誠三	平成元年	医学部	教授
【紫綬褒章】	三嶋 豊	平成6年	医学部	教授
	天野 明弘	平成12年	経営学部	教授
	岡村 均	平成19年	医学系研究科	教授
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	清野 進	平成23年	医学研究科	教授
	【ウルフ賞】	西塚 泰美	平成6年	医学部
【アルバート・ラスカー医学研究賞】 基礎医学研究賞	西塚 泰美	平成元年	医学部	教授・学長
【ガードナー国際賞】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【朝日賞】	西塚 泰美	昭和61年	医学部	教授・学長
	戸田 達史	平成20年	医学研究科	教授
【京都賞】基礎科学部門	西塚 泰美	平成4年	医学部	教授・学長
【女性化学賞】	相馬 芳枝	平成23年	自然科学研究科	客員教授・特別顧問
【武田医学賞】	西塚 泰美	昭和57年	医学部	教授・学長
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	高井 義美	平成26年	医学研究科	教授

※本学在籍時の受章等のみ掲載

○神戸大学出身者の主な受賞一覧

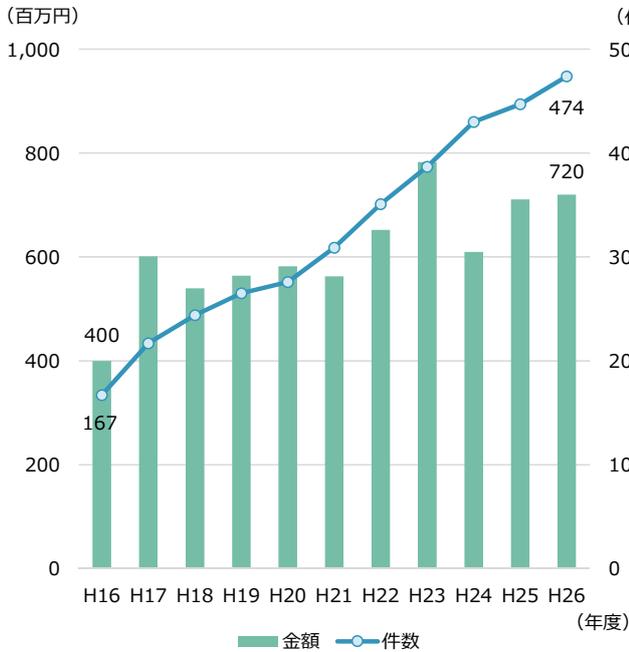
氏名	賞名等	受賞部門	決定年	卒業校等
河合 隼雄	【朝日賞】		平成9年	神戸工業専門学校卒 (神戸大学工学部の前身)
山中 伸弥	【ノーベル賞】	生理学・医学賞	平成24年	神戸大学医学部卒
	【文化勲章】		平成24年	
	【ウルフ賞】	医学部門	平成23年	
	【アルバート・ラスカー医学研究賞】	基礎医学研究賞	平成21年	
	【ガードナー国際賞】		平成21年	
	【ミレニアム技術賞】		平成24年	
	【京都賞】	先端技術部門	平成22年	
	【武田医学賞】		平成20年	
脇田 晴子	【朝日賞】		平成19年	神戸大学文学部史学科卒
佐川 真人	【文化勲章】		平成22年	神戸大学文学部史学科卒
	【朝日賞】		平成2年	神戸大学工学部電気工学科卒
江崎 玲於奈	【日本国際賞】		平成24年	神戸大学大学院工学研究科電気工学専攻修了
	【ノーベル賞】	物理学賞	昭和48年	兵庫県師範学校附属小学校高等科 (神戸大学附属中等教育学校の前身)
	【文化勲章】		昭和49年	
野依 良治	【日本国際賞】		平成10年	兵庫県師範学校男子部附属小学校卒 (神戸大学附属小学校の前身)
	【ノーベル賞】	化学賞	平成13年	
	【文化勲章】		平成12年	
	【ウルフ賞】	化学部門	平成13年	
	【朝日賞】		平成4年	

16. 産学官連携状況

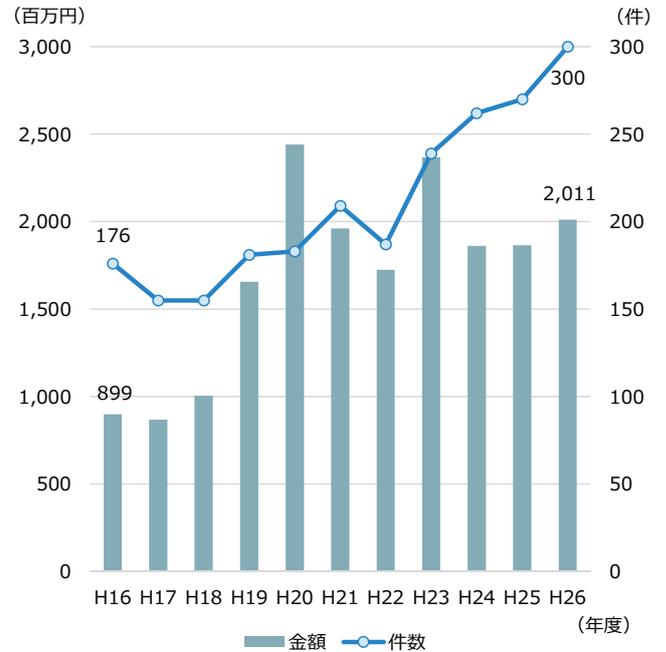
16-1 共同研究・受託研究の状況

- 本学の共同研究・受託研究については、いずれも順調に件数を伸ばしていることがわかる。
- 法人化時と比べて受託研究は約2倍、共同研究については、3倍近くの件数となっている。

共同研究の実績の推移（神戸大学）



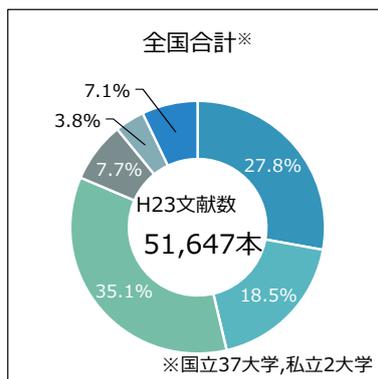
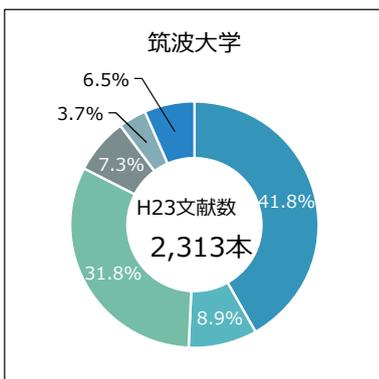
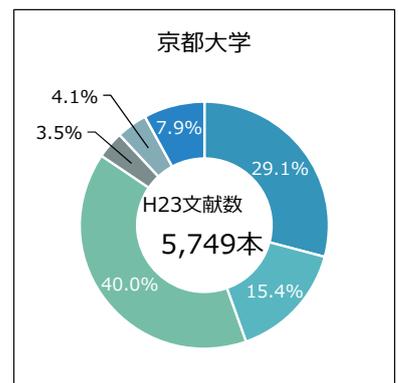
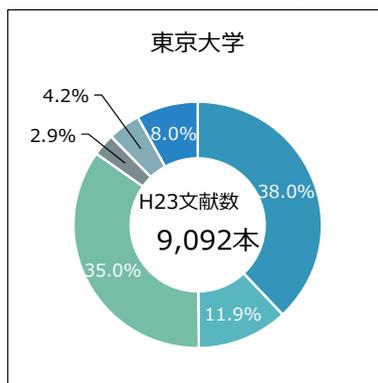
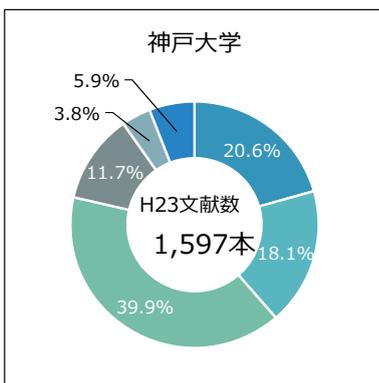
受託研究の実績の推移（神戸大学）



16-2 共著関係から見る産学官連携パターン

- JSTが収集しデータベース化している予稿集・会議録記事の書誌データを用いて、神戸大学と他大学との共著関係を比較してみると、学官連携の比率が低く、学病連携の比率が高いことがわかる。（全国平均の約1.5倍）

■学官 ■学産 ■学学 ■学病 ■学産官 ■その他



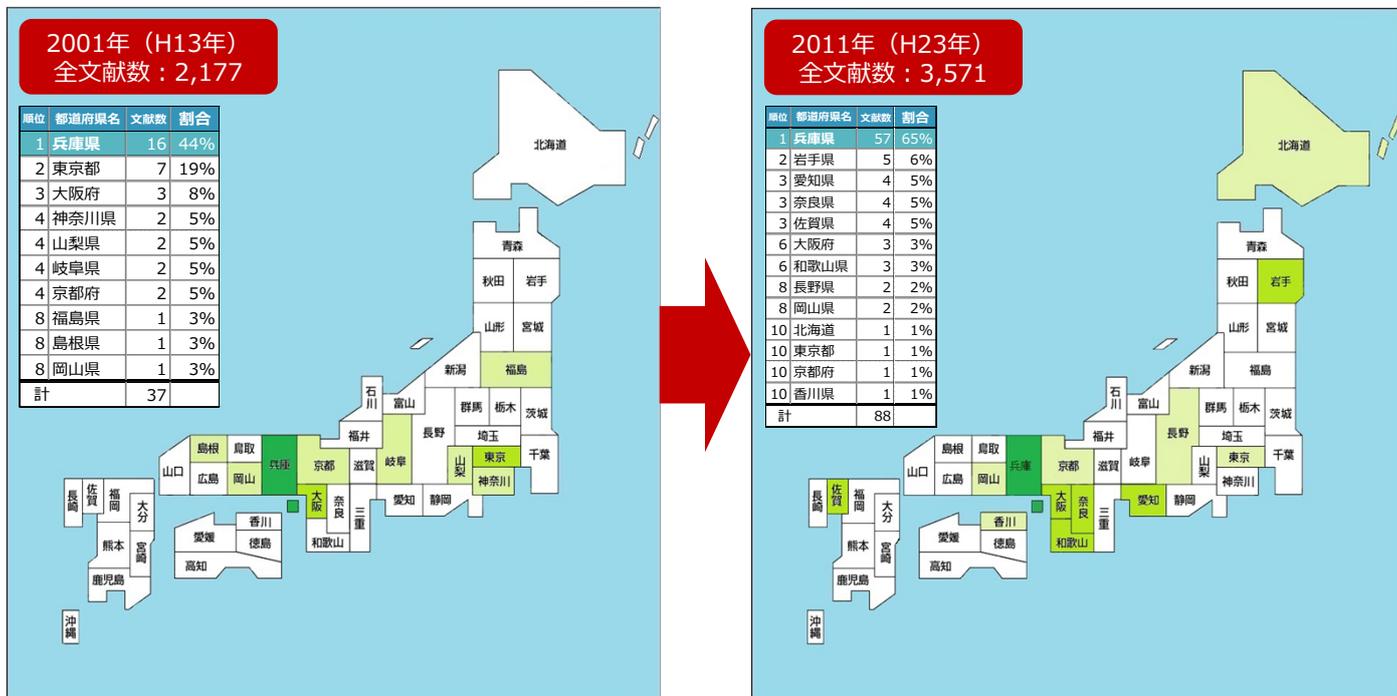
※出典：科学技術振興機構（JST）「共著関係からみる産学官連携パターン」より作成

機関区分	対象の機関
学	大学（短大を含む） ^{注1)}
	大学共同利用機関
	国立高等専門学校
	国の機関
官	特殊法人・独立行政法人
	地方公共団体の機関
	民間企業
病	医療機関

注1) 附属病院を含む

16-3 地方公共団体関係機関との共著文献数

- 神戸大学と公設試験研究機関などの地方公共団体の機関との共著関係に着目し、その連携度合いを色の濃さで判別することができるよう日本地図上に表したもの。大学が「地域のハブ」とどのくらい連携しているかを捉えている。
- 10年間で共著文献数は37件から88件へと約2.5倍に増えており、地方公共団体との連携が確実に進んでいることがわかる。



出典：科学技術振興機構（JST）「地域との連携（各県の共著関係）」、「地域との連携（対象文献数）」より作成

16-4 平成26年度A-STEP（研究成果最適展開支援プログラム）採択率ランキング

探索タイプ

順位	研究機関	採択数
1	神戸大学	16
2	九州大学	12
3	名古屋工業大学	11
4	金沢大学	10
	山形大学	10
	名古屋大学	10
7	筑波大学	9
	(独)産業技術総合研究所	9
	熊本大学	9
	東北大学	9
	東北大学	9
11	大阪大学	8
	広島大学	8
	大阪府立大学	8
	新潟大学	8
	千葉大学	8
	京都大学	8
	京都大学	8
17	京都府立医科大学	7
	東京大学	7
	埼玉大学	7
	岡山大学	7

以下省略（全145機関）

- 神戸大学は探索タイプで**1位**、シーズ顕在化タイプで**4位**であり、科学技術イノベーション研究を重視する本学の特徴が現れているといえる。

シーズ顕在化タイプ

順位	研究機関	採択数
1	(独)産業技術総合研究所	4
	山形大学	4
3	東京農工大学	3
4	神戸大学	2
	東北大学	2
	東京工業大学	2
	京都大学	2
	九州大学	2

以下省略(すべて1件)

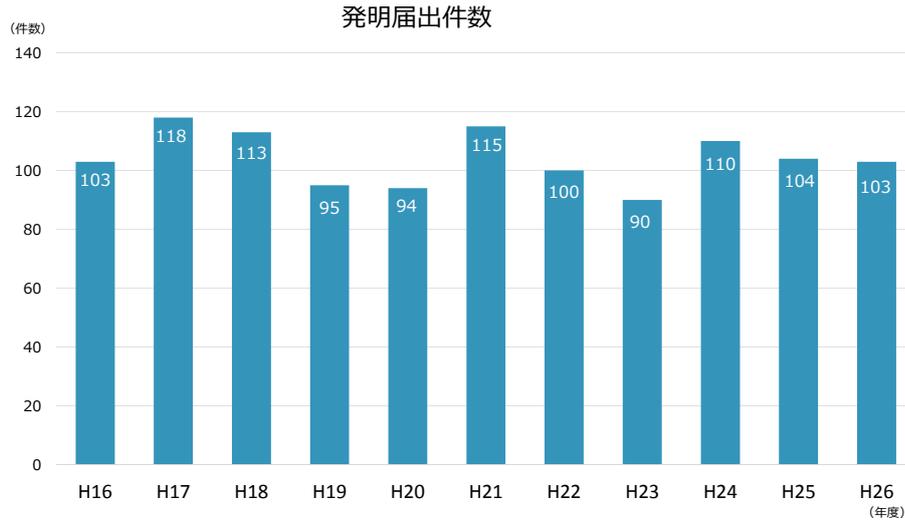
A-STEPとは・・・？

JSTによる研究成果最適展開支援プログラム。社会経済や科学技術の発展、国民の生活向上に寄与するため、大学や公的研究機関等の優れた研究成果の実用化を通じた、イノベーションの効率的効果的創出を目的とした技術移転事業のこと。
(JSTホームページより)

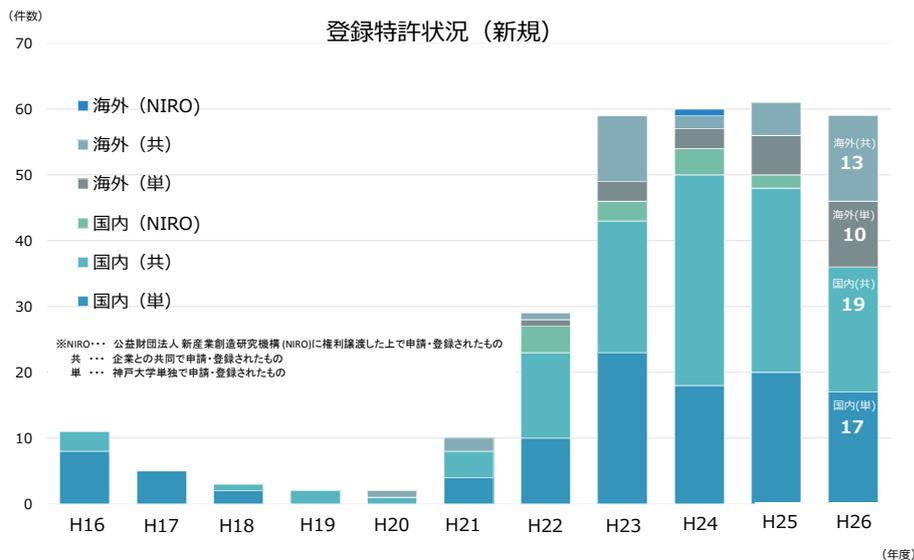
ランキング出典：JSTホームページ A-STEP採択課題掲載ページから作成

16-5 神戸大学の知的財産部門

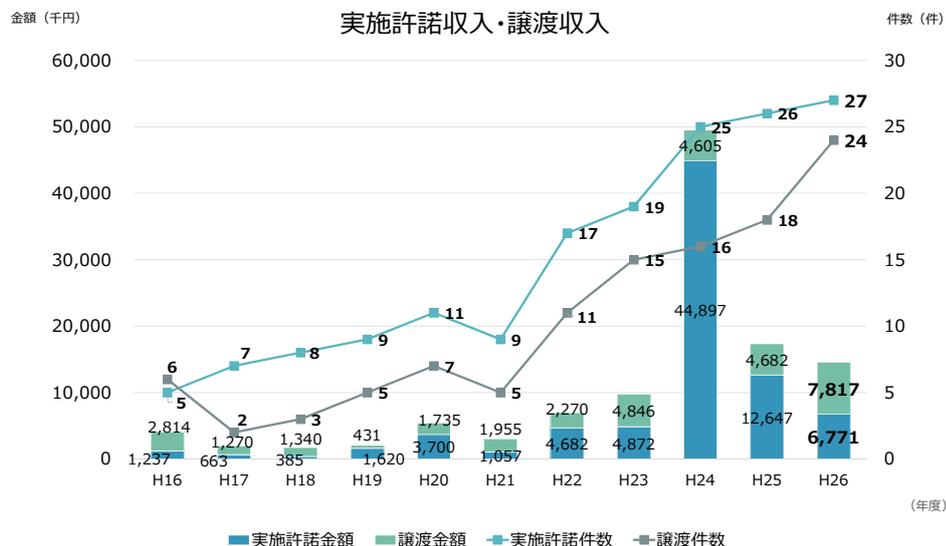
○ 発明届出件数は、直近10年間 **100件程度/年** を推移。



- 登録特許は、平成21年度以降**増加傾向**。特許の登録には、通常申請から5～6年の審査期間を要するため、法人化後に特許申請に力を注いできたことが、この時期から結果として現れている。
- 近年は**60件/年**程度を推移しており、海外への登録件数も増えてきたことがわかる。



○ 実施許諾件数、譲渡件数は**増加傾向**であり、平成16年度と比較すると、**約4～5倍**になっている。



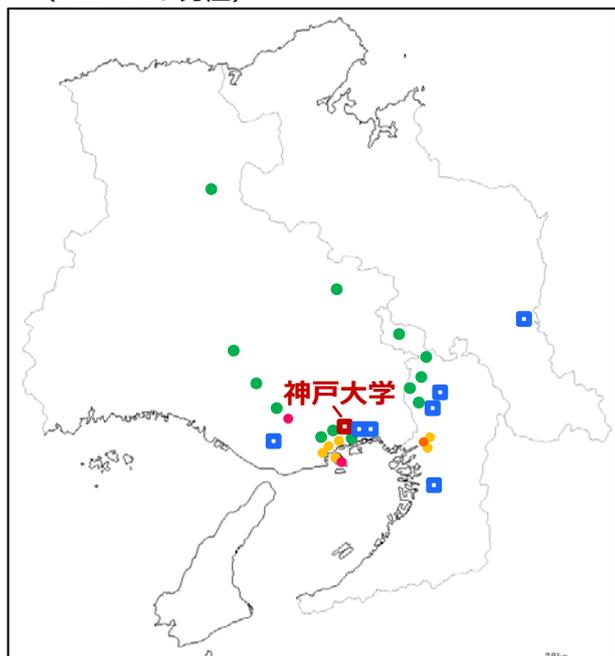
17. 国内の大学等との連携協定

○ 神戸大学は、国内の数多くの機関や企業と連携協定を結び、研究・教育・医療の各分野において、充実した社会発展への寄与に取り組んでいる。

◆ 大学間連携協定等締結状況 (H27.7.8現在)



◆ 近畿地方の大学間連携協定等締結先 (H27.7.8現在)



- = 大学（本部所在地）
- = 自治体等（庁舎等所在地）
- = 民間企業（本社所在地）
- = 独立行政法人等（所在地）
- = 省庁（庁舎）

（注）このページにて記されている連携協定は神戸大学が締結した「大学間連携協定等」であり、部局において締結された連携協定については記載していない。

○ 東北地方

協定名称	協定締結機関	締結日
国立大学法人神戸大学と国立大学法人東北大学との災害科学分野における連携協力に関する協定	東北大学	H23.10.23

○ 関東地方（一部近畿地方の連携先含む）

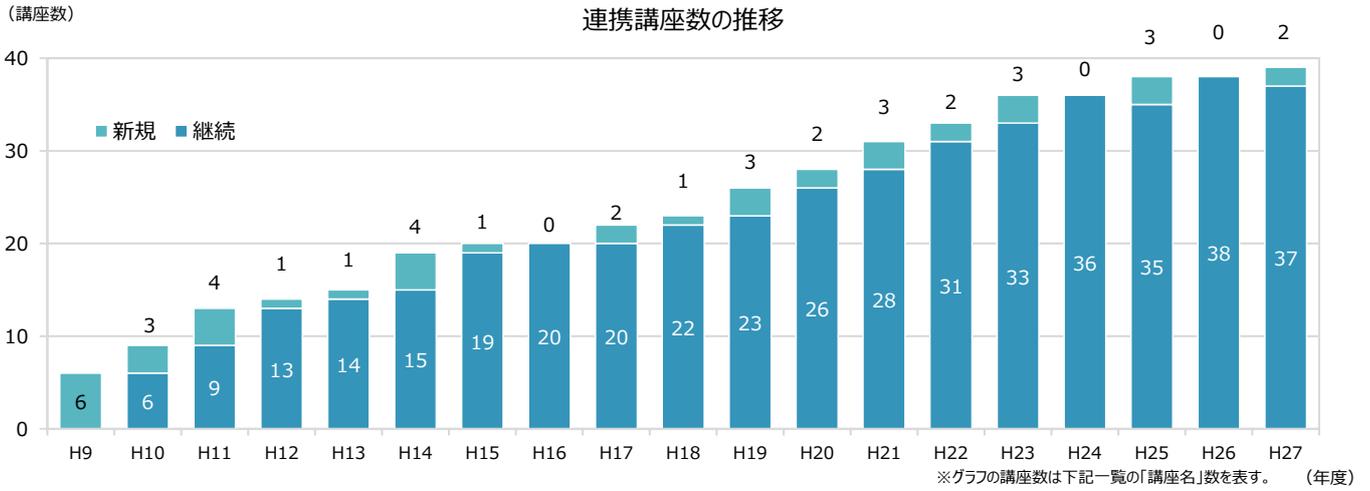
協定名称	協定締結機関	締結日
国立大学法人神戸大学、兵庫県立大学及び独立行政法人海洋研究開発機構の教育研究に関する包括協定	兵庫県立大学 国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	H19.8.6
〔旧三商大〕一橋大学、神戸大学及び大阪市立大学における教育交流に関する協定	一橋大学 大阪市立大学	H22.2.1
国立大学法人神戸大学と独立行政法人国際協力機構との連携協定	(独) 国際協力機構 (JICA)	H23.3.1
国立大学法人神戸大学と独立行政法人海洋研究開発機構との包括連携協定	国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	H24.12.20
国立大学法人神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会との連携協力に関する協定	一般社団法人日本プロジェクト産業協議会	H26.4.1

○ 近畿地方（大学・自治体等・民間企業・独立行政法人等の順に記載）

協定名称	協定締結機関	締結日
国立大学法人神戸大学と学校法人神戸薬科大学との連携に関する協定	神戸薬科大学	H19.7.17
国立大学法人神戸大学と国立大学法人京都大学との計算科学分野における連携協力に関する協定	京都大学	H22.4.1
大阪大学・神戸大学・関西大学・関西学院大学国際化推進に向けたネットワーク形成に関する協定	大阪大学 関西大学 関西学院大学	H23.7.27
京都大学・大阪大学との三大学における相互の協力に関する協定	京都大学 大阪大学	H25.12.21
国立大学法人神戸大学と神戸市灘区との連携協力に関する協定	神戸市灘区	H16.12.2
国立大学法人神戸大学と小野市との連携協力に関する協定	小野市	H17.1.26
国立大学法人神戸大学と兵庫県朝来郡生野町（現・朝来市）との連携協力に関する協定	朝来市	H17.3.23
国立大学法人神戸大学と加西市との連携協力に関する協定	加西市	H21.5.19
国立大学法人神戸大学と兵庫県との連携に関する協定	兵庫県	H22.8.2
国立大学法人神戸大学と篠山市との連携協力に関する協定	篠山市	H22.8.30
教員養成のための連携協力に関する協定	大阪府豊能地区（豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町）教育委員会	H24.12.18
国立大学法人神戸大学と神戸市との連携に関する協定	神戸市	H25.5.24
三木市と国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	三木市	H25.6.27
兵庫県教育委員会との包括連携協定	兵庫県教育委員会	H26.1.30
国立大学法人神戸大学と川崎重工工業株式会社との産学連携の推進に関する協定	川崎重工工業株式会社	H18.10.23
連携協力協定	本州四国連絡高速道路株式会社	H21.7.1
神戸大学と池田銀行（現・池田泉州銀行）の連携協力に関する協定	池田泉州銀行	H21.8.6
国立大学法人神戸大学と株式会社カネカとの包括的な産学連携推進に関する協定	株式会社カネカ	H22.12.14
神戸新聞社との包括連携協定	神戸新聞社	H26.7.7
国立大学法人神戸大学とバンドー化学株式会社との包括的な産学連携推進に関する協定	バンドー化学株式会社	H26.9.24
国立大学法人神戸大学と独立行政法人理化学研究所計算科学研究機構との計算科学、計算機科学及びこれらに関連する分野における連携・協力に関する協定	国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究機構 (AICS)	H24.5.15
国立大学法人神戸大学と独立行政法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センターの連携協定	国立研究開発法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター	H26.9.29
国土交通省近畿地方整備局との包括連携協定	国土交通省近畿地方整備局	H27.7.8

18. 連携大学院実施状況

○ 連携講座数は、統計開始時から件数が着実に伸びており、連携先との良好な実施体制が伺える。



◎連携講座一覧

平成27年5月1日現在

研究科名	専攻名	講座名	連携先	開始年度
人文学研究科	社会動態専攻	文化資源論	(財)大和文華館 (独)国立文化財機構 奈良国立博物館	平成19年度
国際化学研究科	グローバル文化専攻	先端コミュニケーション論	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
人間発達環境学研究科	人間環境学専攻	環境先端科学	国立研究開発法人国立環境研究所 国立研究開発法人産業技術総合研究所	平成19年度
経営学研究科	経営学専攻・現代経営学専攻	マネジメント・システム設計	(株)野村総合研究所	平成10年度
		事業価値評価	GCAサヴィアングループ(株)	平成18年度
		経営戦略システム設計	アクセンチュア(株)	平成11年度
理学研究科	化学専攻	構造解析化学	(財)高輝度光科学研究センター	平成19年度
	生物学専攻	理論生物化学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	平成23年度
		発生生物学	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	平成19年度
	惑星学専攻	生物制御科学	住友化学(株) 健康・農業関連事業研究所	平成27年度
医学研究科	医科学専攻	惑星地球変動史	国立研究開発法人海洋研究開発機構 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台	平成25年度
		大気海洋環境科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	平成19年度
		生理学・細胞生物学	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	平成14年度
			(株)カン研究所	平成22年度
		生化学・分子生物学	アスピオファーマ(株)	平成23年度
			(財)高輝度光科学研究センター	平成12年度
		微生物感染症学	(株)カン研究所	平成22年度
			国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	平成19年度
		地域社会医学・健康科学	兵庫県立健康生活科学研究所	平成20年度
			(独)医薬品医療機器総合機構	平成23年度
		内科学	(株)カン研究所	平成22年度
			兵庫県立姫路循環器病センター	平成27年度
		内科系	兵庫県立粒子線医療センター	平成13年度
			(財)先端医療振興財団 先端医療センター	平成13年度
外科系	(財)先端医療振興財団 先端医療センター	平成20年度		
	兵庫県立こども病院	平成25年度		
外科学	兵庫県立総合リハビリテーションセンター	平成19年度		
	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター 兵庫県立こども病院	平成25年度		
保健学研究科	保健学専攻	兵庫県立姫路循環器病センター	平成27年度	
	リハビリテーション科学	国立研究開発法人情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター	平成25年度	
工学研究科	建築学専攻	地域減災計画	総務省消防庁消防大学校消防研究センター	平成19年度
	電気電子工学専攻	機能性薄膜学	パナソニック(株) 先端技術研究所	平成19年度
		知的製造システム	(株)神戸製鋼所技術開発本部 神戸総合技術研究所	平成19年度
	機械工学専攻	機能適応モデル	国立研究開発法人情報通信研究機構	平成19年度
		開智型ものづくり	川崎重工(株) 技術開発本部	平成21年度
		局所場反応・物性解析学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	平成19年度
	応用化学専攻	化学エネルギー変換プロセス学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	平成19年度
		生物機能工学	(財)サントリー生物有機科学研究所	平成21年度
		製剤設計生産工学	アステラス製薬(株)	平成22年度
		ケミカル・バイオセンシング	国立研究開発法人産業技術総合研究所	平成23年度
システム情報学研究科	システム科学専攻	応用システム	三菱電機(株)	平成19年度
	情報科学専攻	感性アートメディア	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
	計算科学専攻	先端計算科学	国立研究開発法人理化学研究所	平成22年度
		応用計算科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	平成22年度
農学研究科	資源生命科学専攻	大規模計算科学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	平成25年度
		食料生産フィールド科学	兵庫県立農林水産技術総合センター	平成19年度
海事科学研究科	海事科学専攻	海洋環境計測科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	平成19年度
		地域環境科学	(財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター	平成21年度

19. 教育関係共同利用拠点

自然科学系先端融合研究環内海域環境教育研究センター マリンサイト

拠点名：都市域沿岸の海洋生物・生態系と環境管理に
関わる教育共同利用拠点
認定期間：平成26年7月31日～平成31年3月31日

平成26年度共同利用状況（学内を除く）

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	17	69	236
公立大学	3	14	39
私立大学	7	10	39
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	15	38	72
外国の研究機関	1	3	5
計	43	134	391

平成26年度実施プログラム（抜粋）

課題	概要
全国公開臨海実習Aコース	沿岸域生態系の主要な構成要素の1つである海藻類を対象に、その生物多様性を、分類・生態・形態・生理・進化・遺伝子などの多様な側面から学んだ。（履修学生：7大学13名）
全国公開臨海実習Bコース	ため池と河川の生物群集が陸域からの資源供給に支えられていることを実測するとともに、それら陸域－淡水域間の相互作用が河口付近に形成される干潟の生物群集とどのように関係しているか検証した。（履修学生：6大学12名）
全国公開臨海実習Cコース	調査実習船「おのころ」、練習船「深江丸」による海上実習を行い、海水の水温・塩分・溶存酸素濃度・光量・流速などの観測、海水・プランクトン・海底堆積物の採取・分析を通して、内湾環境の多様性とその原因を考察した。（履修学生：3大学3名）
奈良女子大学臨海実習 I	藻類の多様性と進化・沿岸環境との関わりについての講義、船舶を用いた沿岸環境の観察、淡路島の沿岸における海藻類・海産底生動物の生態観察・採集、実験室における海藻類・海産底生動物の同定、標本作製、組織観察などを行った。（履修学生：1大学20名）
中国海洋大学	学部特別研究の一環として、マリンサイトを利用した海藻類の採集と生態の観察を実施した。

大学院農学研究科附属食資源教育研究センター

拠点名：農場と食卓をつなぐフィールド教育拠点
認定期間：平成26年7月31日～平成31年3月31日

平成26年度共同利用状況（学内を除く）

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	0	0	0
公立大学	3	70	128
私立大学	8	174	252
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	1	23	46
外国の研究機関	0	0	0
計	12	267	426

平成26年度実施プログラム（抜粋）

課題	概要
農場と食卓をつなぐフィールド演習	神戸大学開講科目。2泊3日の日程で、ウシの管理と個体識別、鶏卵の鮮度測定、ナシの収穫、キャベツの定植、農作業機器の取り扱いなどを実習した。（5大学24人）
食料生産実習（大阪府立大学）	利用大学開講科目「食料生産実習」を本学で実施。「食料生産実習」2泊3日の日程で、ウシの扱い、給餌作業、去勢、除角、妊娠鑑定、農作業機械の操作などを実習した。（1大学19人）
農場から食卓まで（兵庫県立大学）	利用大学開講科目「環境と人間」の一環として実施。日帰りで、但馬牛と神戸ビーフの違いと牛肉の流通について学び、生産者が牛肉の安全を守る取り組みについて実習した。（1大学35人）
農場から食卓まで（神戸女学院大学）	利用大学開講科目「演習 I・II」の一環として実施。2泊3日の日程で、ウシの管理と個体識別、ナシの収穫、野菜畑の管理、イネの手刈り収穫と機械収穫などを実習した。（1大学16人）
農場から食卓まで（吉備国際大学）	利用大学開講科目「フィールド演習 II」の一環として実施。日帰りで、ウシの繁殖・肥育管理と体型の測定、カキの収穫と脱渋などについて実習した。（1大学47人）

大学院海事科学研究科附属練習船深江丸

拠点名：グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋
環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用
拠点
認定期間：平成26年7月31日～平成31年3月31日

平成26年度共同利用状況（学内を除く）

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	3	78	129
公立大学	2	45	90
私立大学	8	168	310
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	1	8	8
外国の研究機関	0	0	0
計	14	299	537

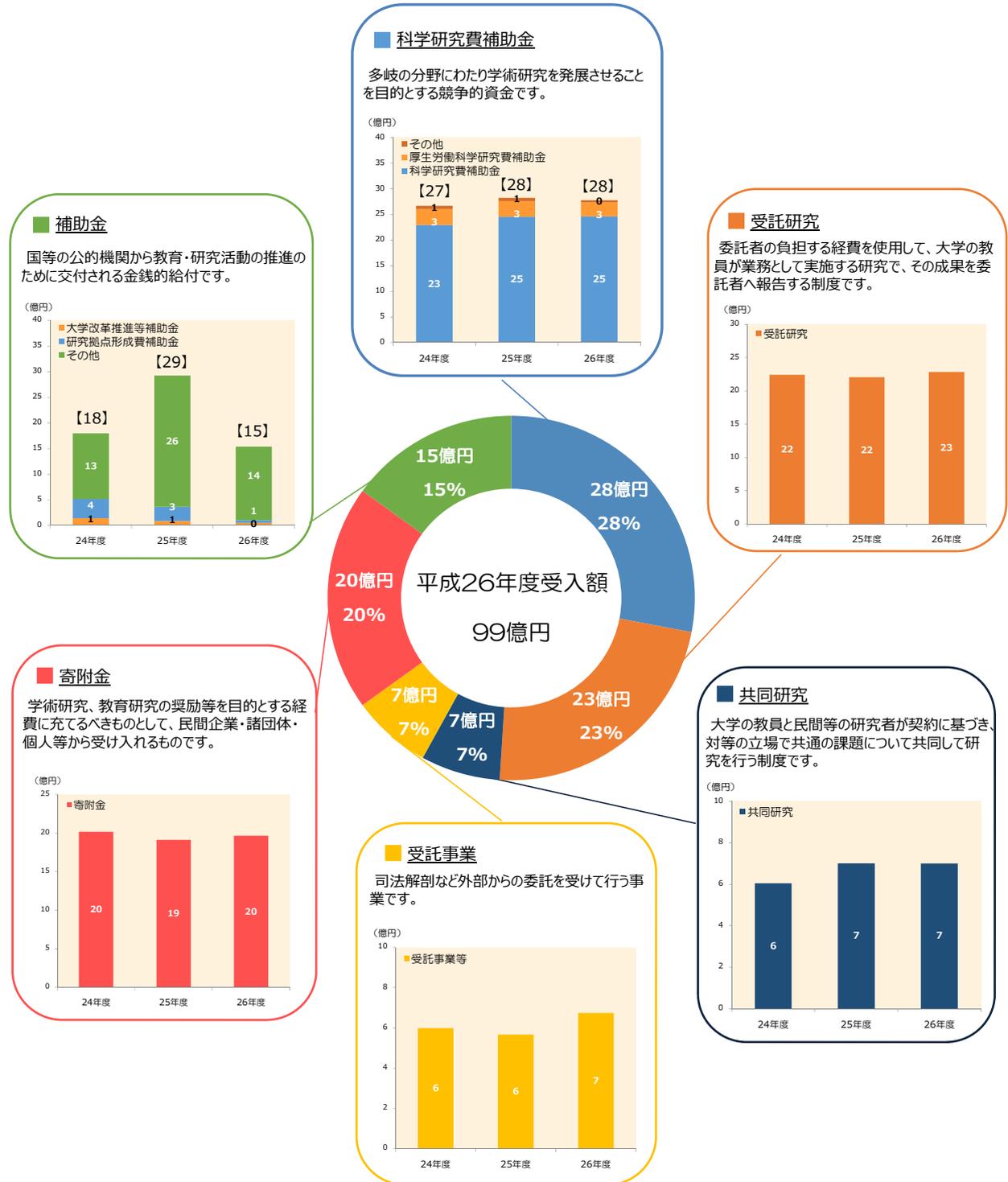
平成26年度実施プログラム（抜粋）

課題	概要
中京大学 応用心理学実習	実習や見学を通して、応用心理学的知見の実践的理解を目指すため、学外実習（船舶研修）では、海事科学研究科所有の練習船「深江丸」にて、神戸・深江港から高松港までの2泊3日の船舶研修を実施した。航海中に、機関当直、船橋当直、結索実習プログラムに参加し、また、船舶における職階とその任務、海上交通と安全などの講義を通して実習となった。（利用学生数：39名）
大阪大学 構造設計特論	船体構造設計への有限要素法の適用について基礎を学ぶとともに、演習を通じて解析手順、構造モデル化及び結果の評価について理解し、また剛性相似船体模型について計算と実験を行い、計算精度を調べるため、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸に乗船し、実船の構造様式と構造設計について理解を深めた。（利用学生数：4名）
神戸学院大学 人間環境実習IV	様々な図表の読み方とEXCELによる図表の作成方法により、データを解析しながら、データの意味と限界などを実習するため、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸による瀬戸内海で流速、水温・水質の観測を行った。（利用学生数：4名）
明石工業高等専門学校 専攻科特別講義	種々の開発や研究のプロセスを学ぶことにより、技術分野を超えて普遍的な考え方と柔軟な開発対応力を養成するため、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸に乗船し船内演習を通して、造船・航海・通信・港湾・都市計画等、幅広い最新の科学技術について学んだ。（利用学生数：7名）

20. 外部資金

20-1 外部資金の受入額

○ 国立大学の法人化以降、運営費交付金は大学改革促進係数により毎年減額されているため、受託研究や共同研究、寄附金などの外部資金の重要性がより高まっています。



20-2 神戸大学基金

- 平成18年12月に設置された「神戸大学基金」は多くの皆様のご支援を賜り、様々な分野において活用させていただいております。

□ 使途指定基金

寄附講座の設置、冠奨学金の設立、課外活動団体OBからの使途指定寄附など、寄附者のご意志による使途指定事業へのご寄附です。

平成26年度 使途指定基金	
寄附受入額	5億6,929万円
支援実績額	5億6,470万円
基金残高増減額	459万円

活用事業例

■ 髙の葉奨学金

兵庫県下公立高等学校を卒業した学部新1年生への奨学金

■ 寄附講座

ご寄附いただいた目的に応じて、客員教授や客員准教授によって教育研究が行われます。給与や研究費などは、ご寄附いただいた寄附金により賄われます。

※この他にも、寄附目的に応じて、様々な事業に活用させていただいております。

□ 一般（基盤事業）基金

学生支援を中心とした多彩な活動を継続的に支援していく基盤事業へのご寄附です。

基盤事業の残高は年々減少しており厳しい状況です。今後もこの基盤事業を継続・発展させていくため、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成26年度 一般（基盤事業）基金	
寄附受入額	3,153万円
支援実績額	7,880万円
基金残高増減額	▲4,427万円

活用事業例

(億円) 一般（基盤事業）基金残高の推移



国際化対応 25百万円

- 海外留学・研修への派遣支援
【利用者数 146名/年間】
- 協定校等への海外派遣助成
- 部局企画プログラム
(留学・研修・海外ボランティア等)
- 大学院学生国際学会等派遣事業
- アカデミック・ランゲージ& コミュニケーションサポートへの助成
(英語論文校正・学会発表指導等)
【利用者数 延べ905名/年間】
- 海外からの優秀な留学生の受入
【支給者数 延べ10名/年間】



▲アカデミック・ランゲージ& コミュニケーションサポート指導風景

神戸大学基金奨学金 26百万円

- 「神戸大学基金」緊急奨学金 【支給者数 12名/年間】
- 「神戸大学基金」奨学金 【支給者数 63名/年間】
(学部新1年次生)

東京地区におけるプレゼンス向上活動支援 5百万円

- 神戸大学東京オフィスの運営
- シンポジウム
「神戸大学のミロク」開催



▲神戸大学東京オフィス

課外活動の支援 6百万円 (ボランティア活動含む)

- 課外活動支援 団体/個人
【35件支援/年間】
- 東日本大震災関連ボランティア活動支援
【被災地派遣学生数 111名/年間】
- 被災地へのボランティアバス派遣



▲ボランティア活動

施設・環境整備

- グラウンドの人工芝化
平成27年4月、エレコム株式会社からの物納によるご寄附により鶴甲第1キャンパスに「神戸大学エレコムグラウンド」が完成しました。人工芝化のためにいただいたご寄附は、今後の環境整備及び更新に備えた資金等として活用させていただきます。



▲神戸大学エレコムグラウンド

※各分野への拠出金額は概算です。

出典：FINANCIAL REPORT 2015(神戸大学財務部発行)

20-3 外部資金等の獲得状況

(単位：百万円)

区 分	平成24年度 受入額	平成25年度 受入額	平成26年度 受入額	前年比較 受入額
受託研究等	3,445	3,474	3,660	185
受託研究	2,241	2,207	2,285	78
共同研究	605	701	701	△ 1
受託事業	599	566	674	108
寄附金	2,016	1,910	1,964	54
科学研究費補助金等(直接経費相当額)	2,671	2,827	2,780	△ 46
科学研究費補助金(文部科学省)	2,297	2,459	2,467	9
厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)	308	302	275	△ 27
先導的産業技術創出事業費補助金(NEDO)	14	12	10	△ 1
環境研究総合推進費補助金(環境省)	6	6	18	12
建設技術研究開発費補助金(国土交通省)	5	11	10	△ 2
その他	40	37	-	△ 37
補助金等	1,796	2,922	1,537	△ 1,385
研究拠点形成費等補助金	375	278	53	△ 225
卓越した大学院拠点形成支援補助金(研究拠点形成費)	72	215	-	△ 215
グローバルCOEプログラム(研究拠点形成費)	303	-	-	-
先進的医療イノベーション人材養成事業	-	63	53	△ 10
大学改革推進等補助金	140	85	50	△ 35
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	30	-	-	-
大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成	23	-	-	-
大学病院における医師等の勤務環境改善のための人員の雇用	33	33	-	△ 33
大学病院人材養成機能強化事業	21	19	15	△ 4
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成	15	16	16	0
情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業	18	17	18	2
その他の補助金	1,281	2,560	1,434	△ 1,125
国立大学法人設備整備費補助金	4	385	21	△ 364
国際化拠点整備事業費補助金	140	151	131	△ 21
科学技術戦略推進費補助金	87	-	-	-
科学技術人材育成費補助金	107	100	194	94
国宝重要文化財等保存整備費補助金	76	58	-	△ 58
感染症予防事業費等国庫負担(補助)金	14	10	12	2
政府開発援助国際化拠点整備事業費補助金	50	48	41	△ 7
先導的創造科学技術開発費補助金	-	87	34	△ 53
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	731	673	573	△ 100
若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金	27	7	-	△ 7
研究者海外派遣基金助成金	17	-	-	-
地域医療活性化センター整備支援事業補助金	-	800	-	△ 800
研究大学強化促進費補助金	-	200	200	-
災害拠点病院設備整備事業補助金	-	12	-	△ 12
戦略的国際研究交流推進事業費補助金	-	-	43	43
DMATカー整備事業	-	-	19	19
国立大学改革強化推進補助金	-	-	59	59
シミュレーション実習機器等整備事業補助金	-	-	15	15
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金	-	-	30	30
その他	28	28	63	35
合 計	9,928	11,133	9,941	△ 1,192

21. 留学

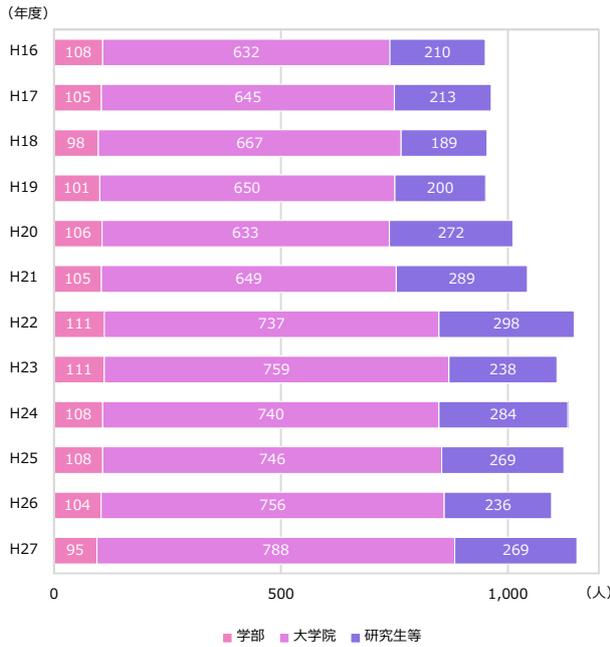
- 留学生の受入れについて、平成23年度から26年度にかけて横ばい傾向となっていたものの、平成27年度には、平成22年度の1,146名を上回り、**過去最多**となる**1,152名**の留学生を受け入れた。
- 留学生比率を見ると、大学院留学生比率については高水準を維持しているものの、伸び悩んでいることが分かる。

21-1 外国人留学生受入れ状況 – 在籍段階別 –

◆神戸大学◆

※各年度5月1日現在

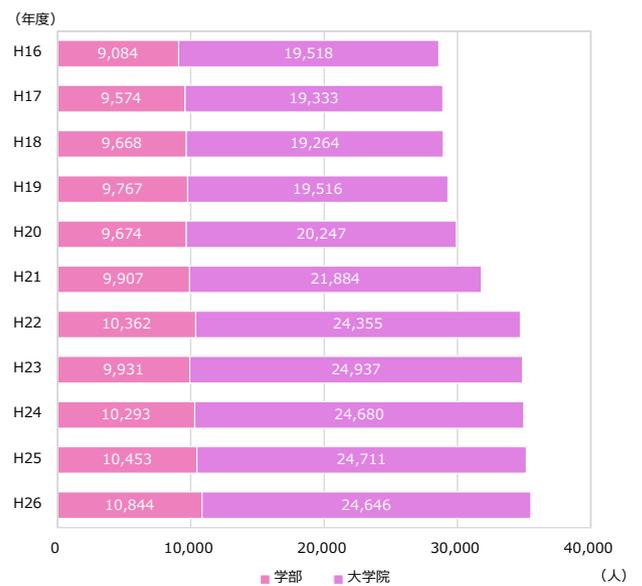
留学生の受入れ人数の推移



◆全国◆

※各年度5月1日現在

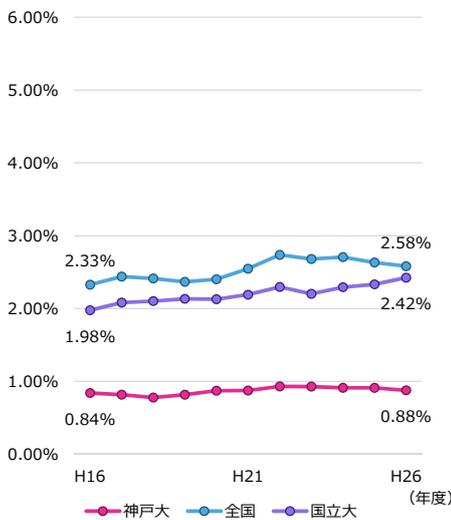
留学生の受入れ人数の推移



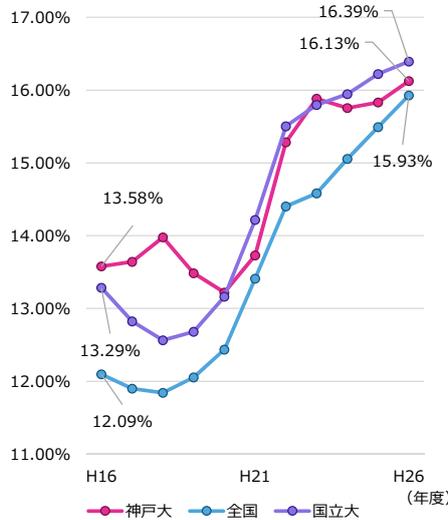
出典(全国)：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

21-2 在籍学生に占める外国人留学生の比率

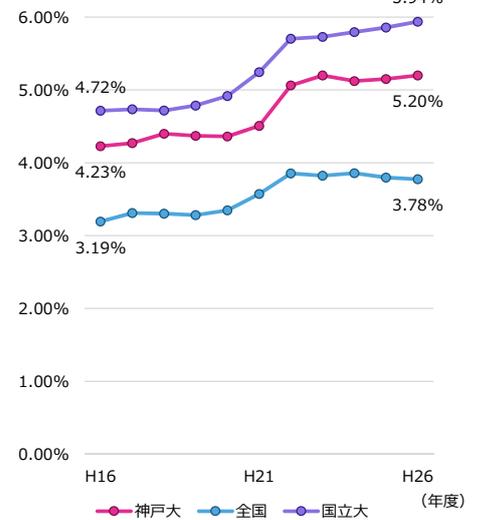
学部留学生比率



大学院留学生比率



学部・大学院留学生比率

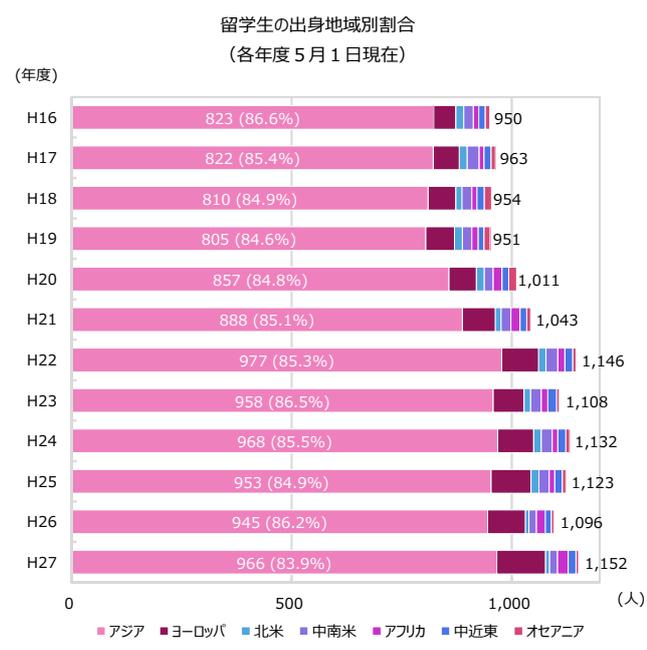


注) 留学生比率(学部・大学院留学生比率) = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100
 ※本学の数字には、研究生・聴講生・科目等履修生等は含まない。

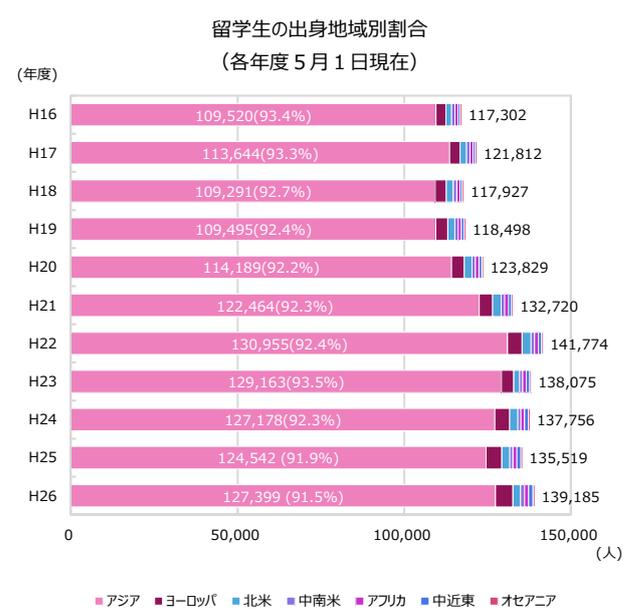
出典(国立大、全国)：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」(留学生数)、文部科学省「学校基本調査」(学生数)

21-3 外国人留学生受入状況 — 地域別 —

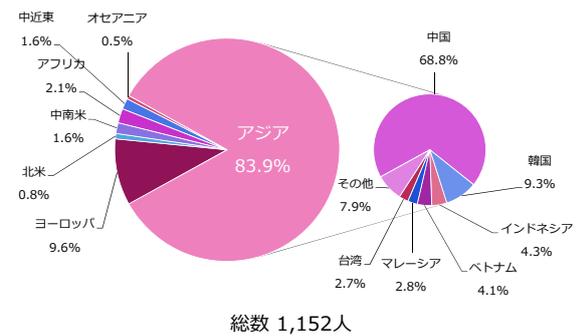
◆神戸大学◆



◆全国◆



受入れ留学生数の地域別割合 (平成27年5月1日現在)

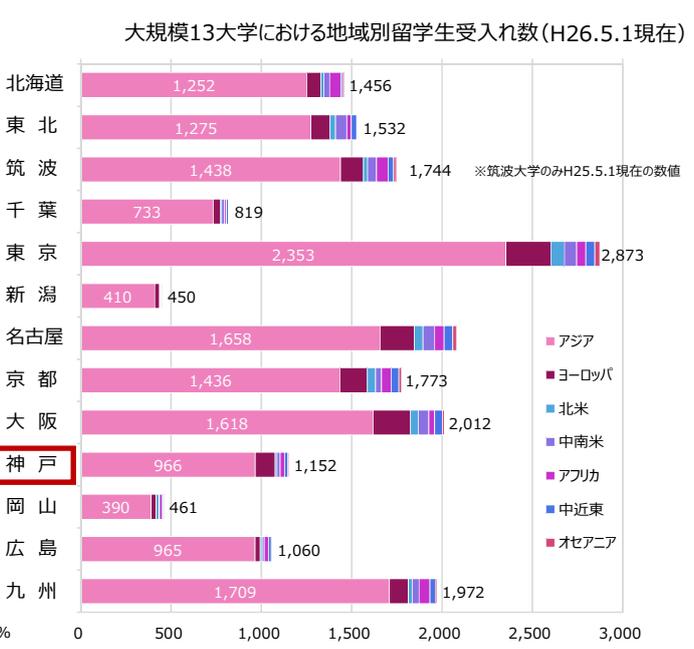
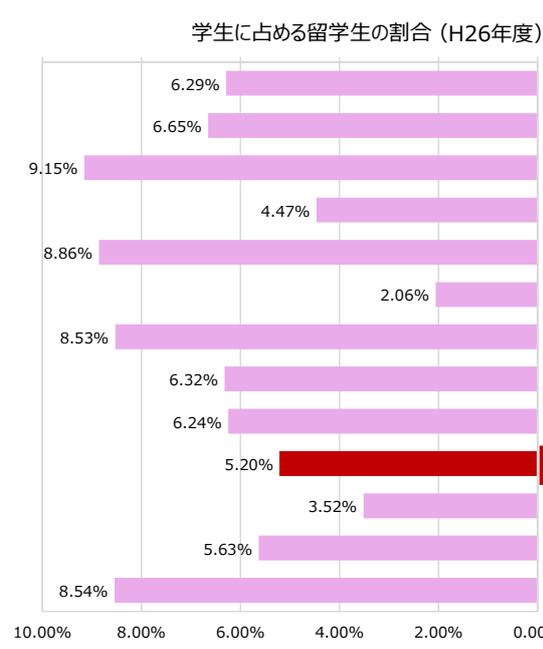


出典 (全国) : JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

注1) () 内は各年度における全体に対するアジア出身留学生の割合。

注2) 全国の留学生には、短期大学、高等専門学校、専修学校 (専門課程)、準備教育課程の留学生を含む。

21-4 大規模13大学の外国人留学生受入れ状況



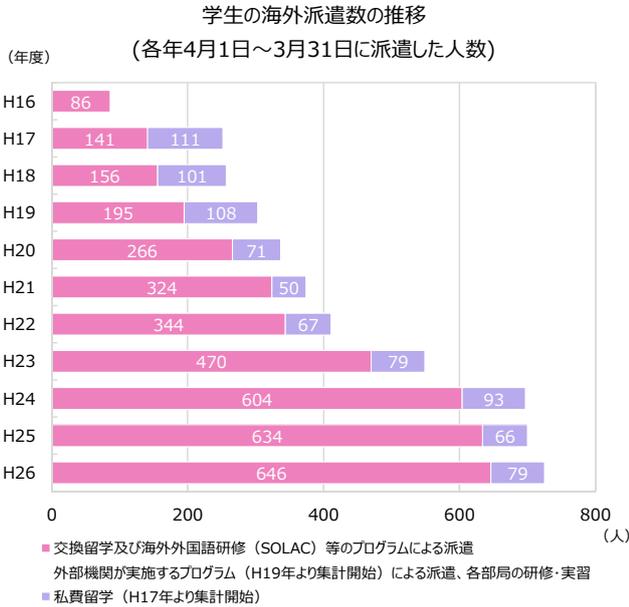
注) 留学生の割合 = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100 ※研究生・聴講生・科目等履修生等は含まない。

出典 (左) : 「朝日大学ランキング2016」(留学生数)、各大学HP公表資料 (学生数) 出典 (右) : 各大学HP公表資料 (研究生等を含む)

○ 日本人学生の海外派遣数について、神戸大学は年々増加傾向にある。その内訳を見ると、ヨーロッパへの学生派遣比率が他大学と比して高く、EUの中心地であるブリュッセルにオフィスを構え、ヨーロッパ諸国との国際連携活動を展開している本学の特徴と言える。一方、北米地域への派遣比率は低い。

21-5 日本人学生の海外派遣数の推移

◆神戸大学◆

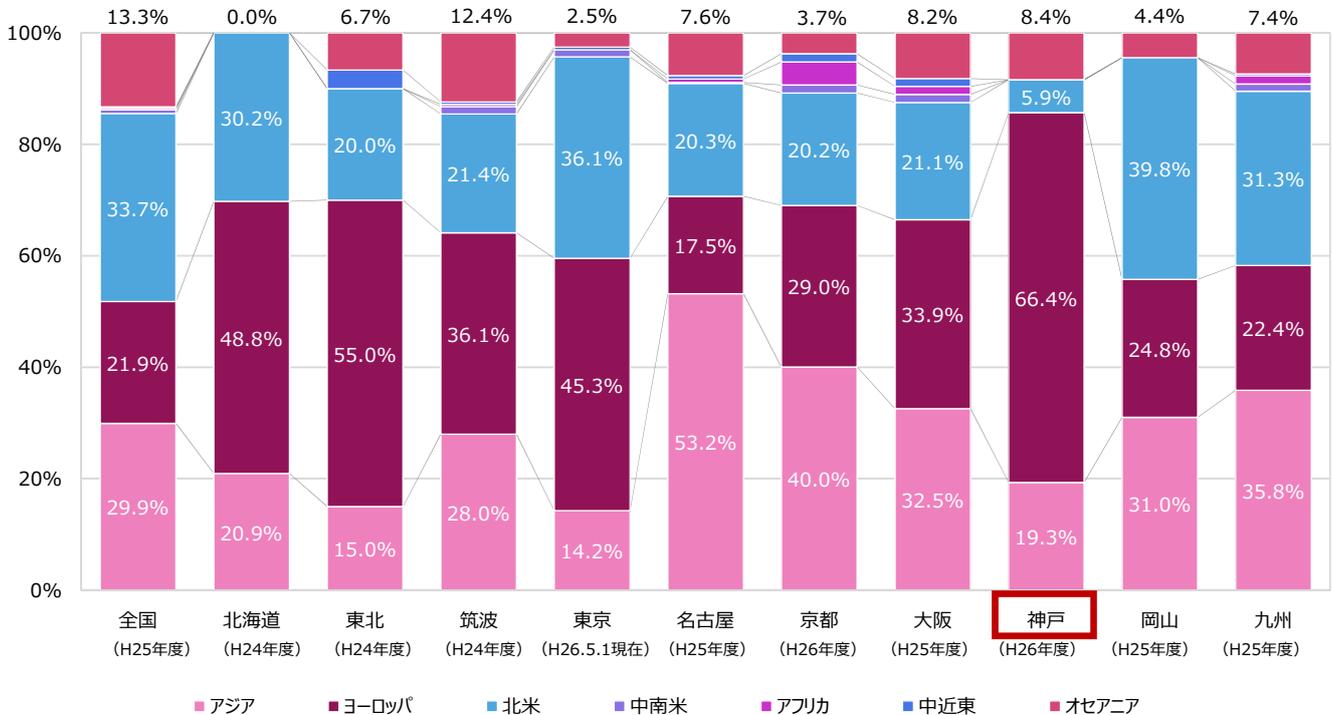


◆全国◆



21-6 各大学における日本人学生の海外派遣状況

各大学における日本人学生派遣状況 (地域別割合)



注) 全国については、JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」より作成した。各大学については、各大学のHP等により確認した。
なお、グラフ内には、比較的割合の大きいアジア、ヨーロッパ、北米、オセアニアの割合のみ記載している。

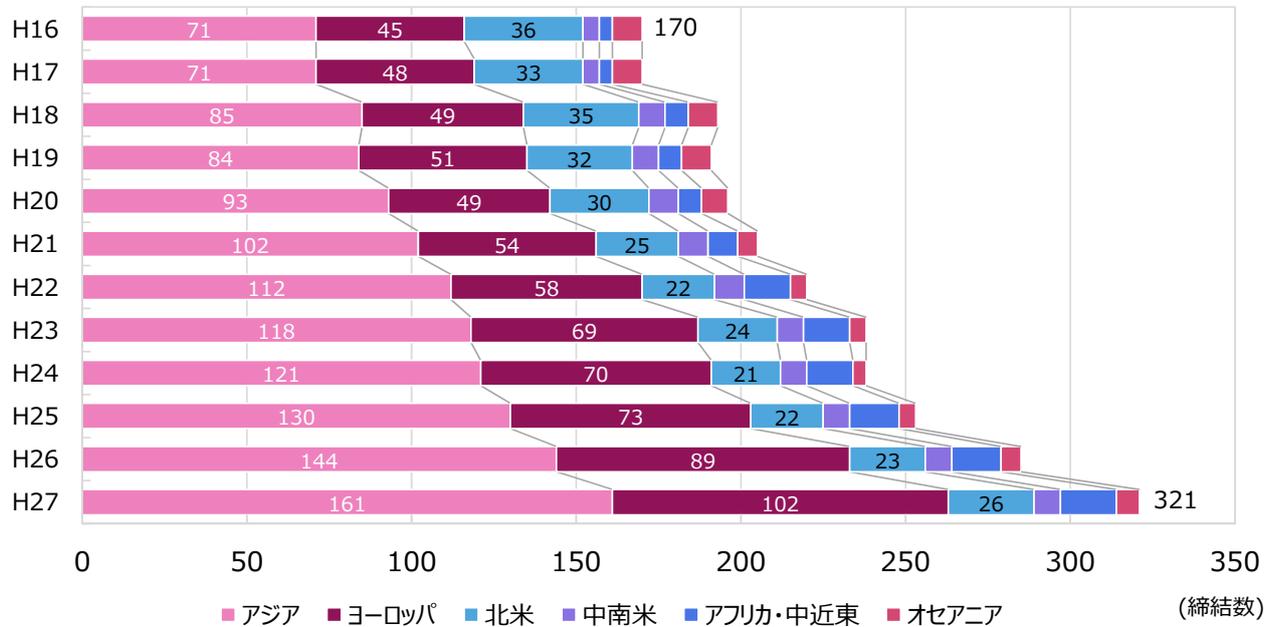
※下記のとおり、大学によって定義が異なるので、単純比較はできない。
北海道大学、東北大学…協定等に基づく交換留学生
筑波大学、東京大学、大阪大学…定義の記載なし
名古屋大学…海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等
京都大学…外国へ渡航した学生数
神戸大学…大学間学術交流協定に基づく留学者数
岡山大学…「留学願」受付数より算出
九州大学…過年度に留学を開始した者を含む

22. 海外大学との交流状況

22-1 外国の大学等との学術交流協定の締結状況

○ 大学間学術交流協定締結数について、平成19年度に一度減少したものの、その後は着実に増加しており、最近の2年間に至っては、アジア、ヨーロッパを中心に締結数が著しく増加している。

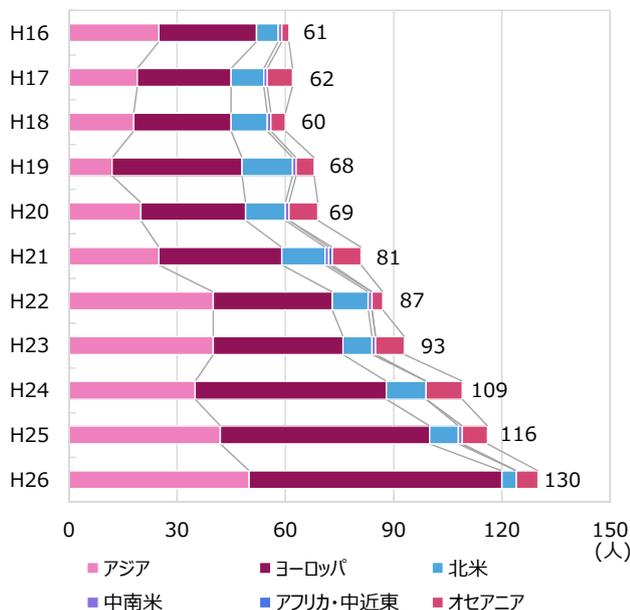
(年) 大学間学術交流協定締結数の推移（各年度5月1日現在）



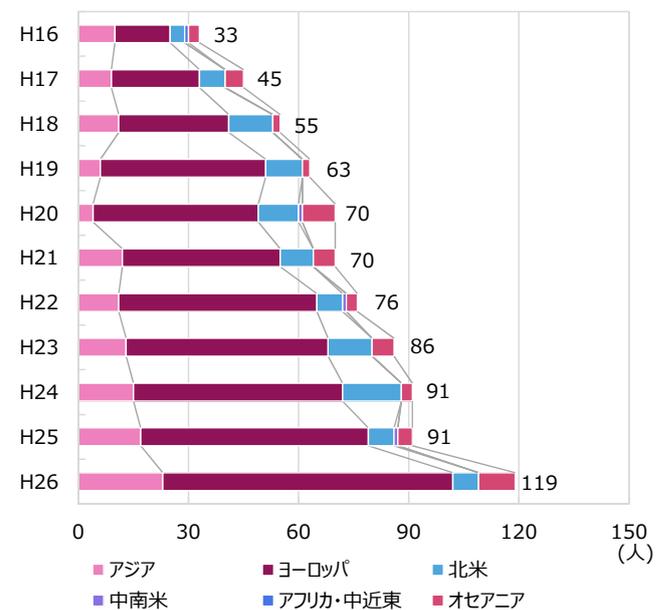
22-2 大学間学術交流協定に基づく留学生受入れ・学生派遣状況

○ 留学生の受入れでは、近年ヨーロッパからの留学生の増加が目立つ。一方、日本人留学生の派遣についてもヨーロッパの大学への派遣が大幅に増加している。

(年度) 留学生受入れ人数



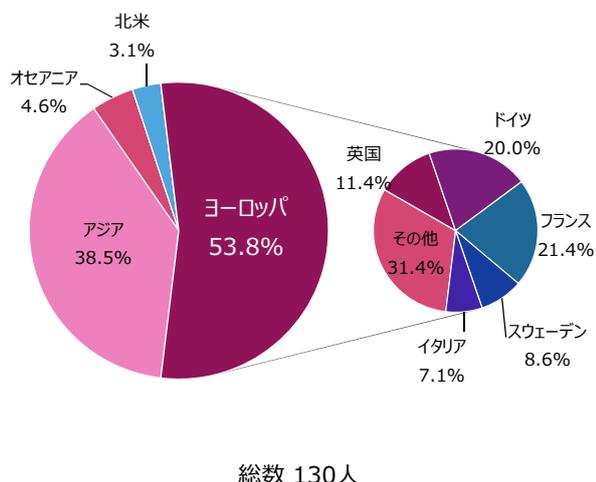
(年度) 学生派遣人数



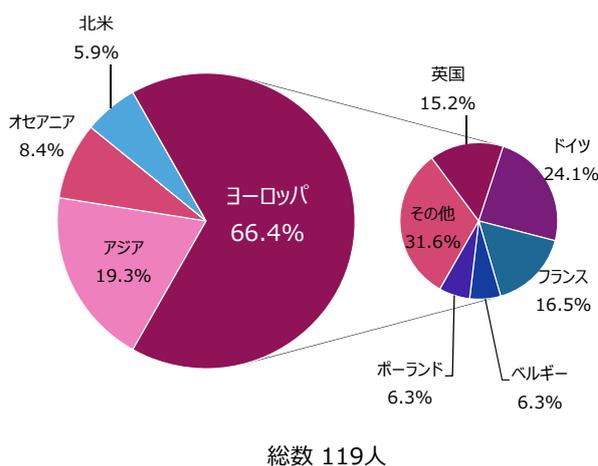
22-3 大学間学術交流協定に基づく 外国人留学生の出身地域・日本人留学生の派遣先地域

- 外国人留学生の出身地域、日本人留学生の派遣地域ともに、ヨーロッパが多く、神戸大学の特徴となっている。
- その国別内訳を見ると、英国・ドイツ・フランスが約半数を占めているが、その他の国も30%を超えるなど、多様な国で交流が行われていることがわかる。

交換留学生の出身地域別割合（平成26年度）



交換留学生の派遣先地域別割合（平成26年度）



22-4 ダブルディグリープログラムによる交流学生数

○神戸大学におけるダブルディグリー設置状況

平成27年7月1日現在

部局	課程	共同設置機関国	共同設置機関校	先方における関係部局	プログラム発書締結日	派遣/受入れ開始日	派遣							受入れ												
							H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27				
人文学研究科	修士	中国	北京外国語大学	北京日本学研究中心	2014/9/30	2015年9月(派遣) 2016年4月(受入)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際文化学研究科	修士	ベルギー	ルーヴン大学※1	人文学研究科	2012/3/28	2012年秋以降	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	
		中国	浙江大學※1	人文学院	2011/9/28	2012年4月	-	-	-	1	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	
法学研究科	修士	イタリア	ナポリ東洋大学		2014/5/19	2015年4月	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
		英国	エセックス大学※1	政治学部	2013/9/19	2014年秋以降	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
	修士	ポーランド	ヨーロッパ大学※1	ヨーロッパ研究研究科	2014/3/11	2014年秋以降	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
		ベルギー	ルーヴン大学※2	人文学部	2010/1/18	2012年春(受入)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	0	
経済学研究科	修士	ベルギー	ルーヴン大学※1	ユーロピアンスタディーズセンター	2013/5/8	2014年4月	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	
		中国	北京外国語大学※2	北京日本学研究中心	2010/5/18	2011年春	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	2	3	5	
	学士	中国	武漢大学※2	外国語文学学院日本語学部	2012/12/10	2013年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5	4		
		ベトナム	貿易大学※4	日本語学部	2015/2/24	未定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	修士	中国	武漢大学※4	外国語文学学院	2015/3/16	未定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		インドネシア	インドネシア大学※3	経済学研究科	2014/11/26	2007年秋(受入)	-	1	0	0	0	-	0	1	3	2	2	2	1	1	-	3				
	修士	インドネシア	ガジャマダ大学※3	経済経営研究科	2014/12/1	2010年8月(派遣)	-	0	0	0	0	-	0	1	2	3	2	3	3	4	-	2				
		インドネシア	バンドン工科大学※3	都市工学系研究科	締結準備中	2010年8月(派遣)	-	0	0	0	0	-	0	2	2	1	1	2	1	1	-	1				
	修士	韓国	ソウル国立大学校※1	国際関係学院	2011/11/25	調整中	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
		中国	復旦大学※1	国際研究大学院	2012/3/26	2012年秋	-	-	-	2	2	0	-	-	-	-	-	-	-	1	3	2	3			
	修士	中国	復旦大学※1	国際関係・公共事務学院	2012/6/12	2012年秋	-	-	-	2	2	4	0	-	-	-	-	-	-	-	3	2	3	0		
		英国	イーストアングリア大学	開発学部	2008/7/16	2009年秋	1	0	1	0	0	2	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0		
	修士	英国	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院	全部局	2009/9/7	2010年秋	-	0	1	1	0	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0		
		英国	サセックス大学	教育社会福祉学部	2010/2/25	2010年秋	-	2	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0		
	修士	米国	ピッツバーグ大学	公共国際関係学研究科	2009/9/24	2013年秋	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0		
		エジプト	カイロ大学	経済政治学研究科	2009/7/16	調整中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
計							1	3	2	6	4	9	4	7	7	6	6	11	15	19	15	26				

※1 授業料相互不徴収によるダブルディグリープログラム。

※2 受入のみのダブルディグリープログラムであり、日本語学科の修士課程に在籍の学生を対象として、最短2年間で共同設置大学と神戸大学経済学研究科の修士号取得を目指すもの。

※3 インドネシア大学経済学研究科、ガジャマダ大学経済経営研究科及び都市工学系研究科、バンドン工科大学とは、2006年に日本の国際協力銀行(当時)の円借款による支援を受けてダブルディグリー取得を目指す学生を受入れのために覚書を交わし、2007年秋学期から、7名を受入れ。2014年度は一旦受入を中断し、同年に覚書を更新(1件は現在締結準備中)、2015年度より再開している。なおこれらの大学とは、別途私費でダブルディグリー取得を目指す学生の相互派遣・受入れを目指した覚書も締結している。

※4 受入れのみの3年次編入のダブルディグリープログラム。

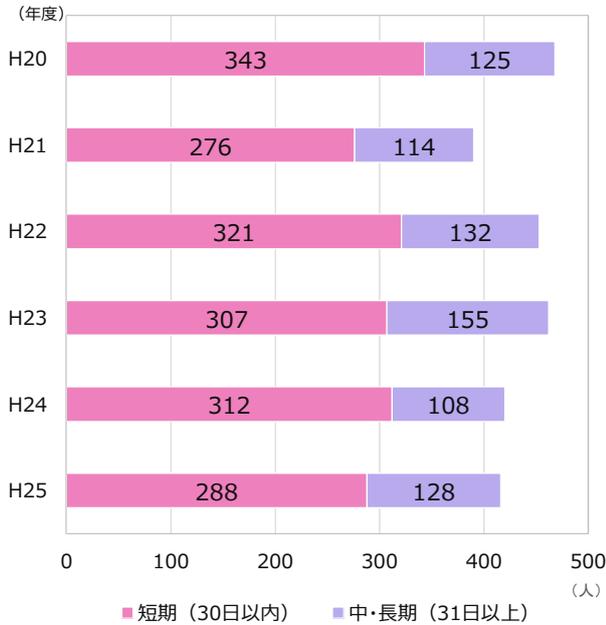
※ □ は、受入れ・派遣を開始していないことを示す。

23. 研究者等交流状況

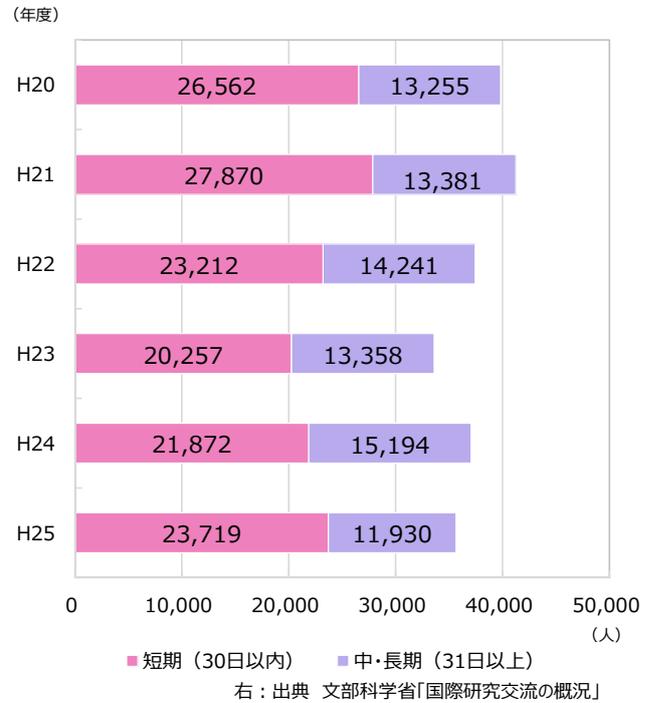
23-1 外国人研究者受入れ数の推移

○ 本学の外国人研究者受入れ数は、近年400～450名程度を推移。

神戸大学における外国人研究者受入れ数



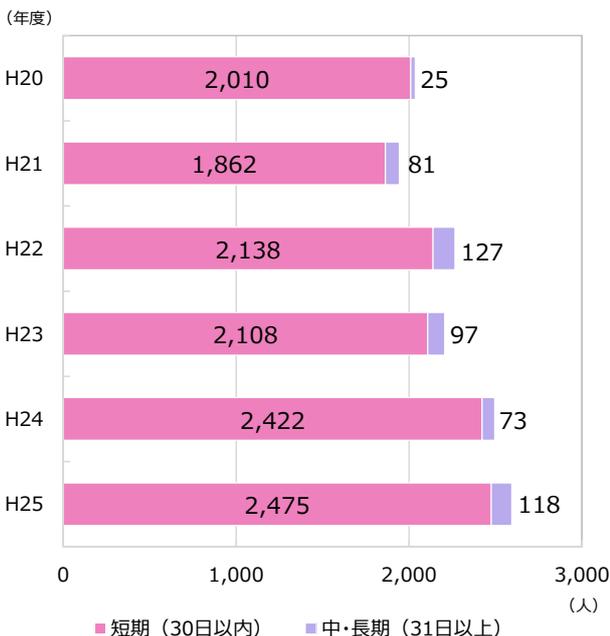
国公立大学・独立行政法人等の
期間別受入れ研究者数



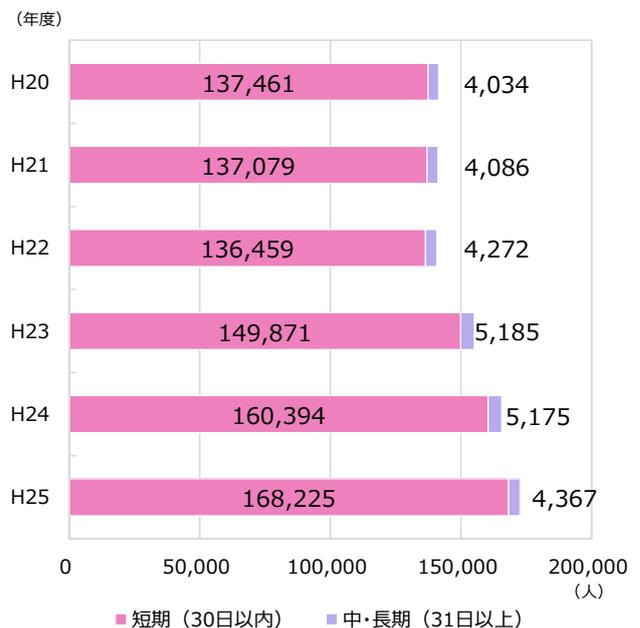
23-2 研究者海外派遣数の推移

○ 本学では、平成21年度に開始した **若手教員長期海外派遣制度** により、**中・長期派遣研究者数**を大幅に増加させている。

神戸大学における研究者派遣数



国公立大学・独立行政法人等の
期間別派遣研究者数



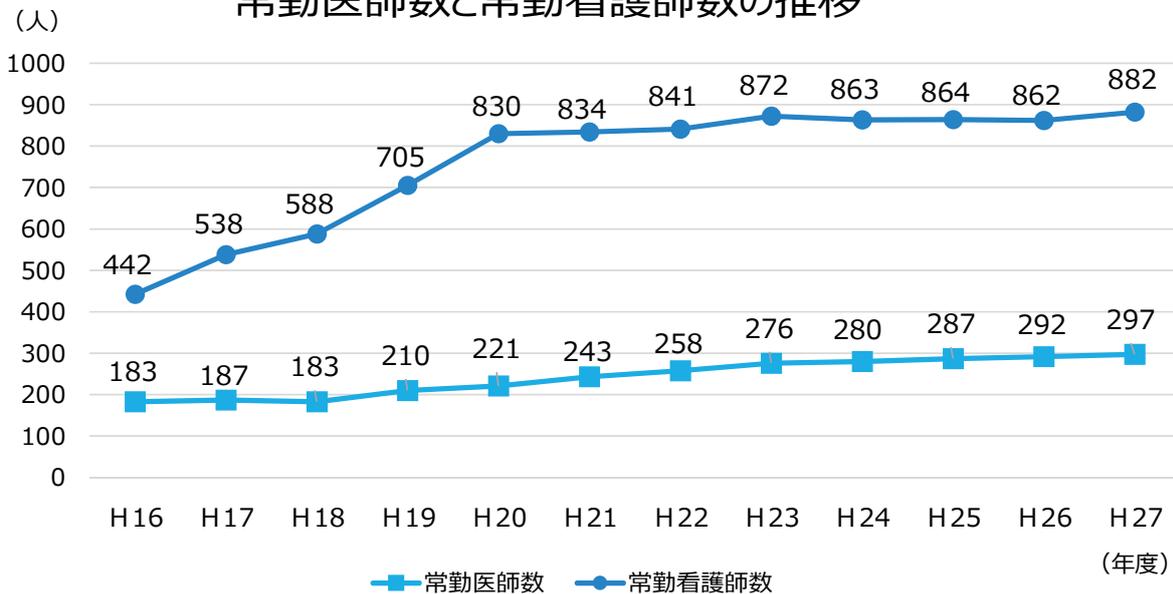
右：出典 文部科学省「国際研究交流の概況」

24. 附属病院

24-1 附属病院データー 病床数・常勤医師数・常勤看護師数

○ 平成16年度と比較すると、常勤医師数は約1.6倍、常勤看護師数は約2倍に増加。

常勤医師数と常勤看護師数の推移

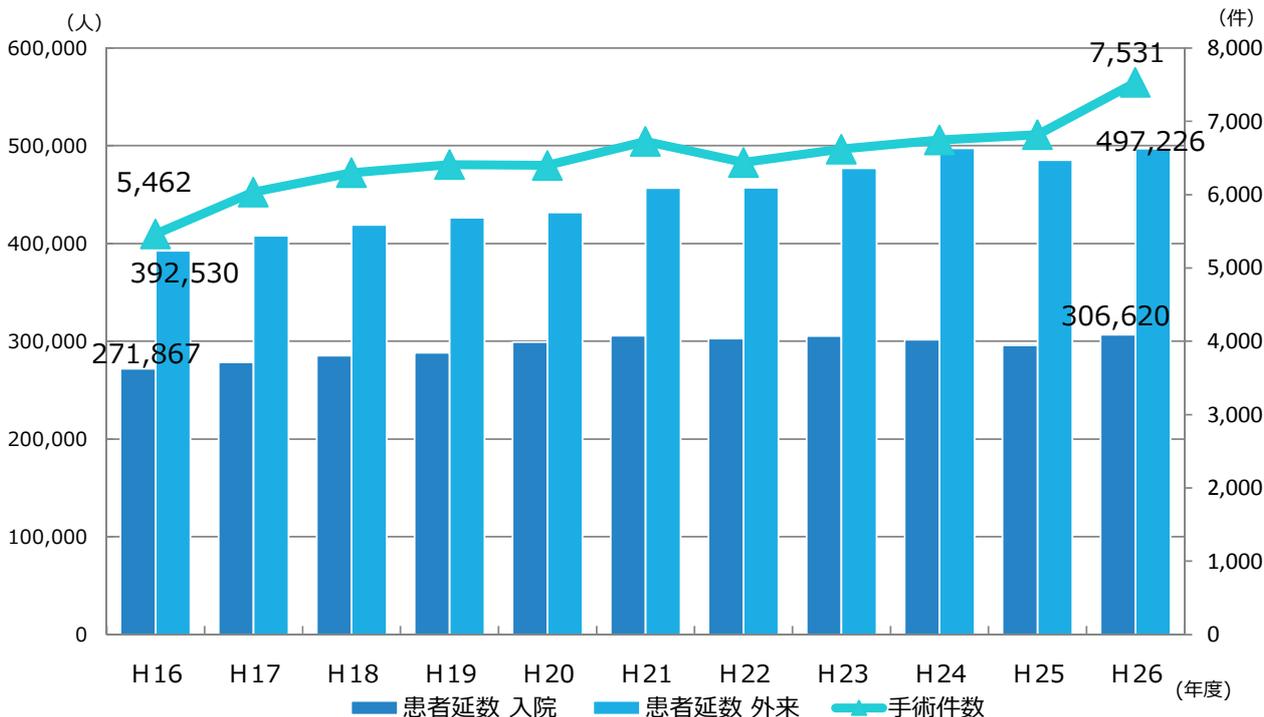


病床数		常勤医師数	常勤看護師数
一般病棟	精神病棟		
888床	46床	297名	882名

平成27年5月1日現在

24-2 附属病院データー 総手術件数と患者数の推移

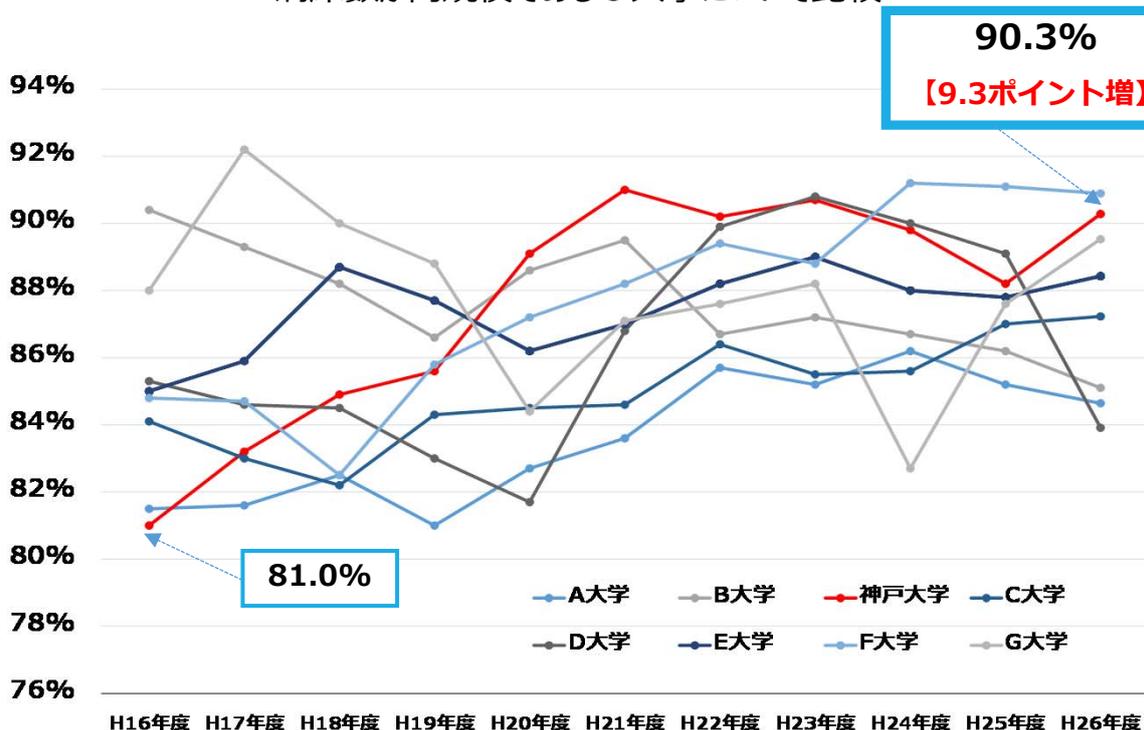
○ 総手術件数、患者延べ数ともに、増加傾向にある。平成16年度に比べて、総手術件数は約1.4倍、患者延べ数約1.2倍となっている。



24-3 国立大学法人病院診療報酬請求額等の推移

病床稼働率の推移（H16～H26年度）

病床数が同規模である8大学について比較



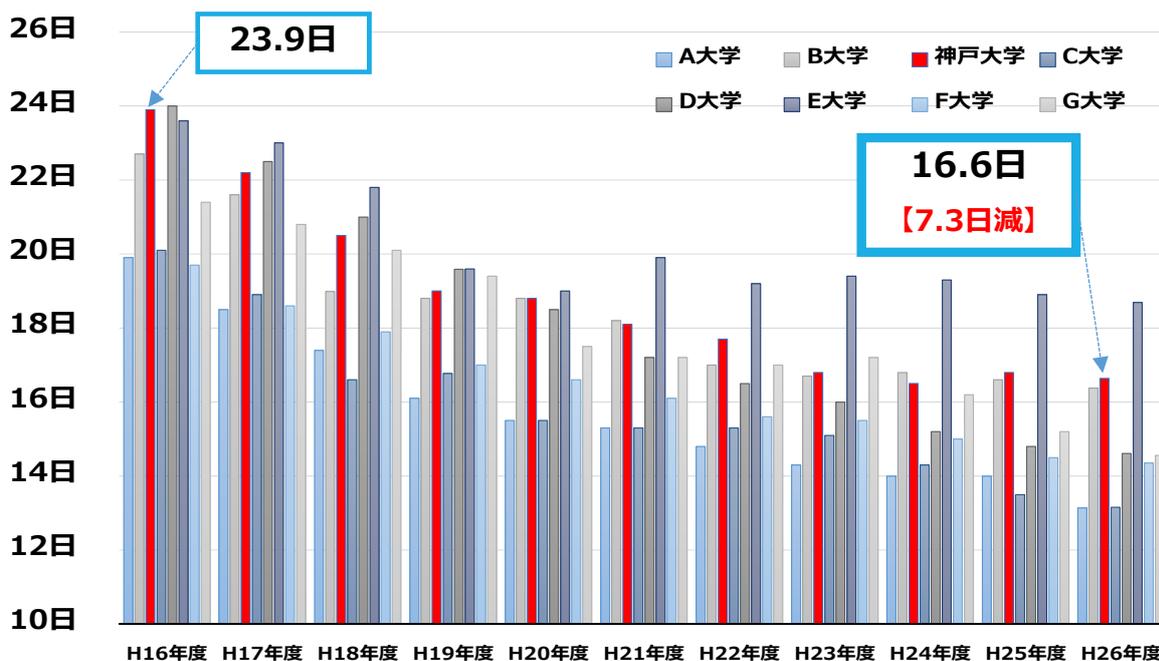
※病床数は本院のみの比較。

【出典】

・病床稼働率 … H16～H25:国立大学病院DBC病院資料、H26:UMINデータ

平均在院日数（一般病床）の推移（H16～H26年度）

病床数が同規模である8大学について比較

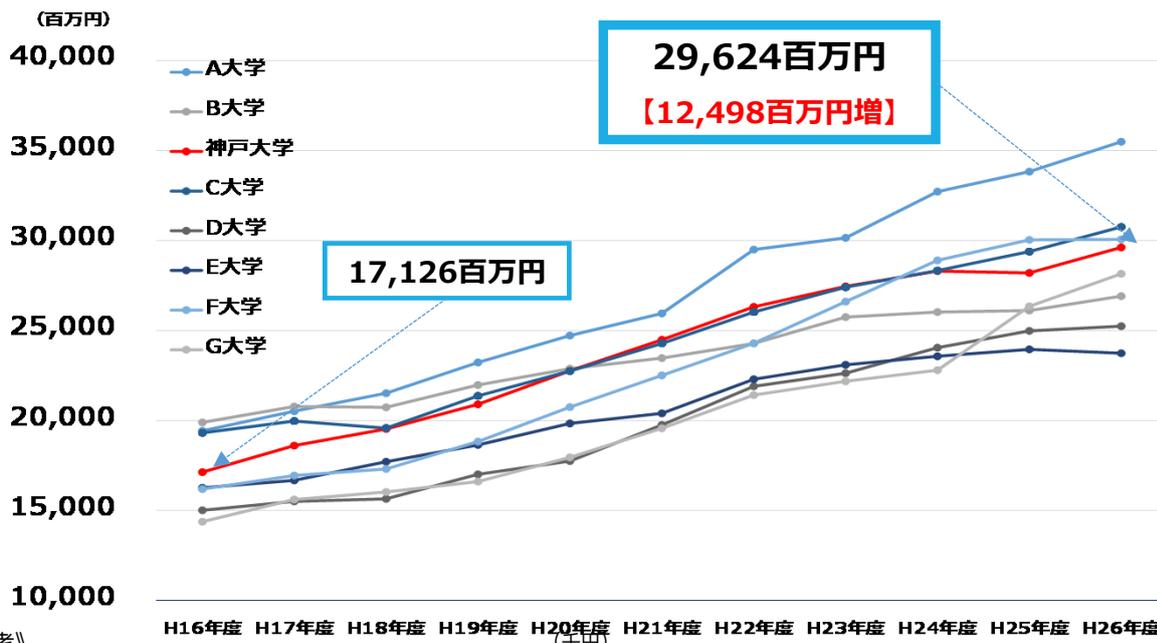


【出典】

・平均在院日数（一般病床） … H16～H25:国立大学病院DBC病院資料
H26:UMINデータ

診療報酬請求額の推移 (H16～H26年度)

病床数が同規模である8大学について比較



《参考》

大学名	病床数	運営費交付金 (H25年度)	大学名	病床数	運営費交付金 (H25年度)
A大学	1,035床	3,865,911	D大学	862床	2,314,177
B大学	946床	2,577,972	E大学	838床	3,302,960
神戸大学	934床	2,831,011	F大学	835床	2,899,809
C大学	909床	3,059,548	G大学	800床	3,278,304

【出典】

- ・診療報酬請求額 …… H16～H25：国立大学病院DBC病院資料
H26：国立大学病院DBC診療報酬稼働額Webページ
- ・病床数 …… 国立大学病院DBC病院資料
(H26.6.1現在※神戸大学のみH27.4.1)
- ・運営費交付金 …… 各大学の財務諸表

神戸大学医学部附属病院は 教育・研究・高度医療・地域医療 に貢献している

教育

- 将来の医療を担う医療従事者の育成
- ・医学生、看護学生等の教育
 - ・初期研修医(94名)の指導
 - ・専門医の養成(プログラム登録者476名)
 - ・エキスパートコメディカルの育成
(H27.5.1現在コース修了者110名)



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」

診療

- ・地域の中核病院として専門性を有した質の高い医療の提供
- ・小児科、産科、救急医療など地域医療の充実のための診療部門における医療の提供
- ・中央診療棟の増築により基盤強化した診療の提供



中央診療棟 (増築部分)

研究

- 臨床医学発展の推進と医療技術水準の向上への貢献
- ・新薬等開発のための臨床試験(治験)
 - ・先進医療の開発
ペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法
ロボット支援手術 ほか

社会貢献

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・災害拠点病院
- ・エイズ治療拠点病院
- ・2次救急医療機関 (3次的機能病院)
- ・兵庫県総合周産期母子医療センター指定
- ・医師が不足している地域に医師を派遣

25. 附属学校

基本データ

平成27年5月1日現在

附属学校園	教諭数	生徒数
附属幼稚園	7	139
附属小学校	21	444
附属中等教育学校	63	978
附属特別支援学校	29	50
計	120	1611

- 附属幼稚園・小学校
 - ・平成25年度～文部科学省 研究開発学校指定（継続中）
- 附属中等教育学校
 - ・平成27年度スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定（文部科学省事業）
 - ・平成25年度～文部科学省 研究開発学校指定（継続中）

神戸大学dayの開催

平成26年6月

中等教育学校において3・4年生の生徒を対象とした、神戸大学全体及び各学部のガイダンスや講義を実施する「神戸大学day」を開催した。本取組は平成24年度から開催しており、平成26年度は神戸大学全学部から12名の教員と29名の学生が協力した。

【内容】

- ◇教育担当理事による神戸大学の概要等説明
- ◇神戸大学混声合唱団エルデによるアトラクション
- ◇生徒代表挨拶・コーラス部発表
- ◇各学部ガイダンス・講義・質問対応



連携授業の実施

平成27年2月

法学研究科の協力の下、六甲台第1キャンパスにある法学部において、約90名の小学生・中等教育学校生及び保護者が大学の授業を受けた。

【授業内容・見学】

- 『「実験」と「言葉の科学的分析」で解き明かす国際政治』
- 『アニメで法学入門－魔法少女契約の有効性について－』
- 『法学部ってどんなところ？』



教育実習等の実施

附属学校園では、神戸大学の学生を中心に教育実習や介護等体験を実施している。

附属学校園	実習の種類	実習者数（人）
附属幼稚園	教育実習	7
附属小学校		37
附属中等教育学校		120
附属特別支援学校		31
	介護等体験	183

26. 公開講座等

《平成26年度実施の主な公開講座等》

部局名	講座名	受講対象者	時間数(時間)	募集人数(人)	受講者数(人)
全学	神戸大学研究最前線～活躍する女性研究者たち～	一般市民、学生	9	150	154
人文学研究科	「翻訳」の人文学	一般市民、学生	6	100	90
	まちづくり地域歴史遺産活用講座	一般市民	9	20	8
	まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラム「古文書解説初級講座」	一般市民	6	20	7
国際文化学研究科	歴史を読むということ：知る戦略（ストラテジー）としての国際文化学	一般社会人、学生（中学生以上）	6	200	183
	神戸大学大学院国際文化学研究科国際文化学研究推進センター開所記念講演会	教職員、学生、市民	2	-	111
人間発達環境学研究科	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト タウンミーティング	鶴甲地区住民、教員、学生、行政関係者	2	-	80
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト アカデミックサロン	鶴甲地区住民、教員、学生、行政関係者	各1.5 (全10回)	-	705 (延べ)
	シンポジウム 国民的素養としての放射線教育：高校・中学・市民へのアプローチの展開と課題	本研究科本学教員、院生、学生、高校中学教師	7 (2日間計)	50	32
	国際的学際的シンポジウム“Urban environment and Health：Interdisciplinary Approach”～高齢者の健康を促進するような外部的な環境は何かを学際的に考える～	研究者、学生	3	-	80
	「健康・運動・スポーツ科学の研究が生涯にわたるQOL向上に果たす役割－国際的視点から－ International seminar for the role of health, exercise and sports sciences on lifetime quality of life (QOL)	学生・院生・研究者・一般	8 (2日間計)	-	60 (2日間計)
法学研究科	現代社会における家族の意味と役割－法の視点から	一般社会人、学生等	12	100	183
経済学研究科	「Professor Cheng Hsiao Memorial Lecture: GMAP Kick-off Lecture」	学生、一般市民（計量分析の基礎知識がある方）	各1.5 (全3回)	-	約30
理学部	サイエンスセミナー 2 0 1 4「サイエンス最前線」	高校生・一般市民	40分×5	120人	90
医学部	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1	100	90
	平成26年度災害・救急医療コースフォーラム	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1.5	60	53
	地域医療シンポジウム2014 in ひょうご	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	7	100	80
医学部附属病院	神戸大学医学部附属病院市民公開講座 -がんに関する最新の放射線治療と緩和ケア- (地域がん診療連携拠点病院機能強化事業)	一般市民	2	300	230
医学研究科	がん研究と最新の治療	一般市民、学生	10	100	67
	第5回神戸医療イノベーションフォーラム	一般、学生、教員、企業（一般公開）	5	300	274
保健学研究科	平成26年度神戸大学大学院保健学研究科市民講座 「最新の研究から家庭の保健・医療へ」－高齢者の健康維持・増進－	一般市民、学生（高校生以上）	4	100	73
工学部	未来をあかるくする先端工学技術	一般社会人、学生・生徒	15	100	72
工学研究科・システム情報学研究科・連携創造本部	産⇄学フォーラム	教員、企業関係者、学生、一般	6	300	432
農学研究科	低負荷・減災型のルーラルデザイン研究	一般市民、学生等	3	100	49
海事科学研究科	船で巡る瀬戸内スケッチ旅行～美術と食を通じて物流を考える～	高校生以上一般の方	34 (最大)	40 (最大)	27
経済経営研究所	IISS/RIEBシンポジウム・ビデオ上映会 「神戸から未来へ～コンピューターの発展と社会」 (神戸大学社会科学系教育研究府主催、RIEBセミナー／経済経営研究所サービス・イノベーション研究会共催)	(指定無し)	4	500	133
社会科学系教育研究府	我が国の世界税関機構加入50周年記念講演「国際機関から見た世界と日本～世界税関機構(WCO)のトップとして～」	一般市民、学生	1.5	200	150
情報基盤センター	第9回神戸大学ICTフォーラム 「e-learningをどう使うのか？－全学的授業支援システムの導入に向けて－」	ICTを活用した教育や教務事務の将来に関心のある方	3	-	111
留学生センター	第34回神戸大学留学生センターコロンキアム「多文化共修の学びをデザインする」	教員、学生、一般市民	4	40	45
総務部広報課	第3回シンポジウム「神戸大学のミヨク」	中学生・高校生とその保護者	4	200	130

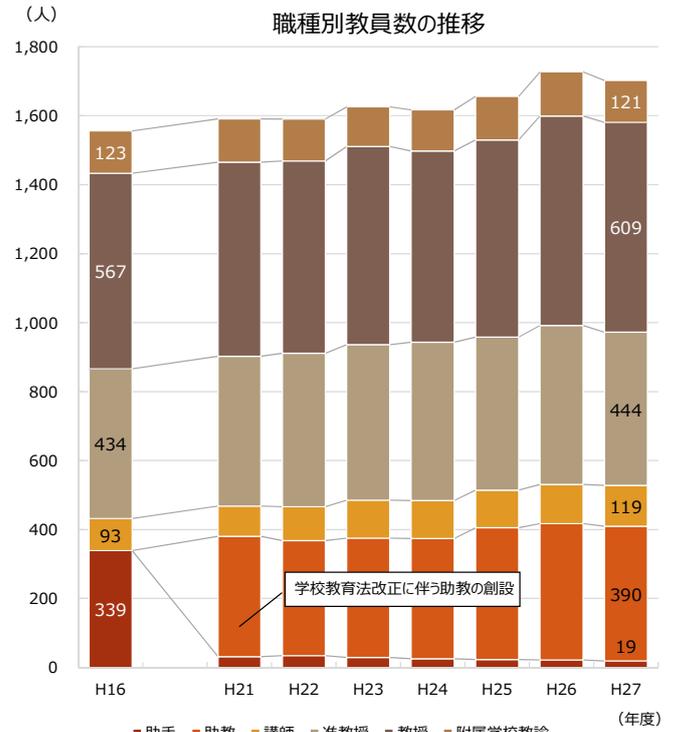
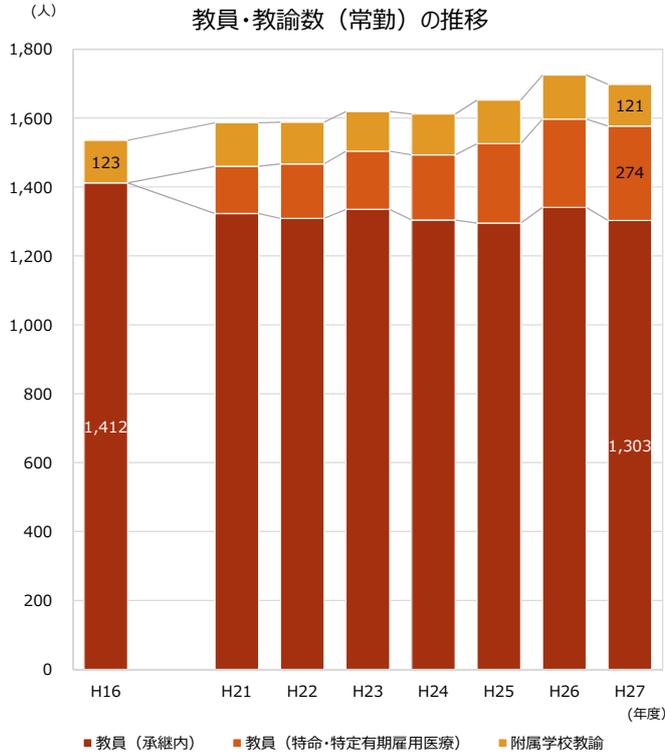
27. 教員

27-1 教員数の推移

○ 法人化時より常勤教員（定員内）が減少し、特命教員及び特定有期雇用医療教員が増加している。

◆教員◆（神戸大学）

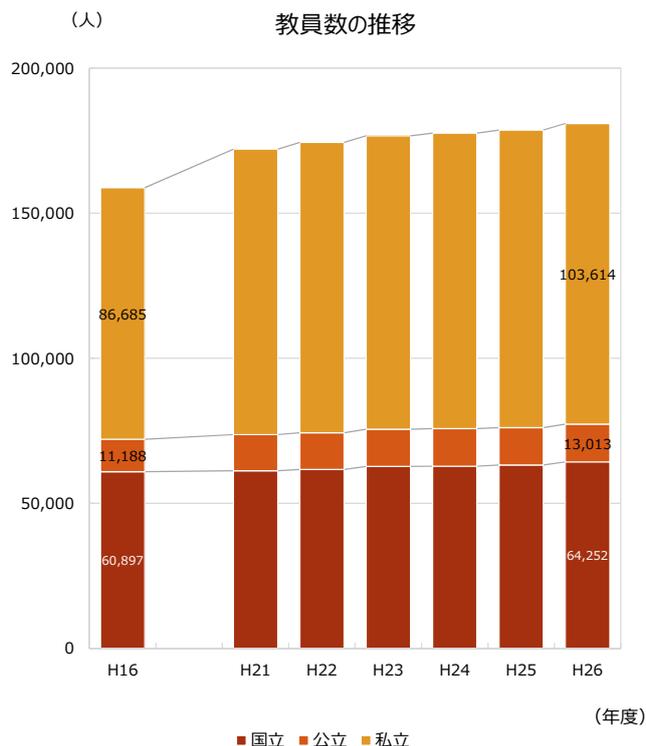
各年度5月1日現在



注）左図は休職者を含まない現員数を、右図は休職者を含む数値を記載しているため、左右のグラフで教員の合計数は一致しない。

◆教員◆（全国）

各年度5月1日現在

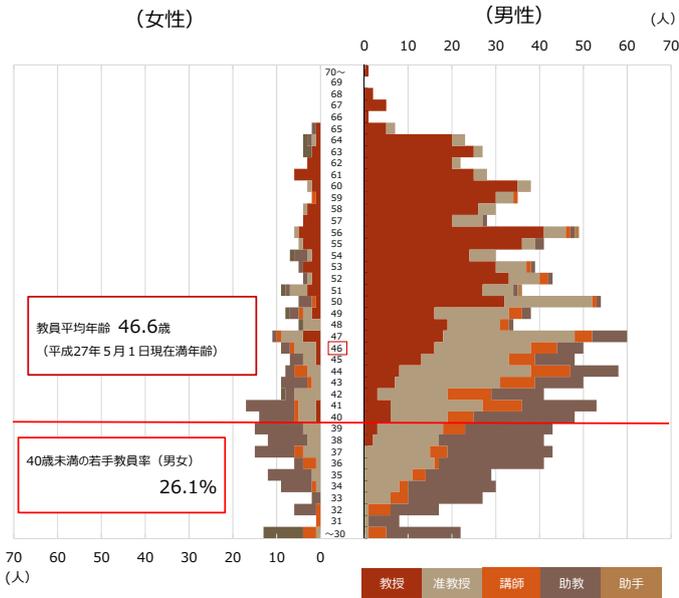


出典：文部科学省「学校基本調査」

27-2 外国人教員・女性教員等の推移等

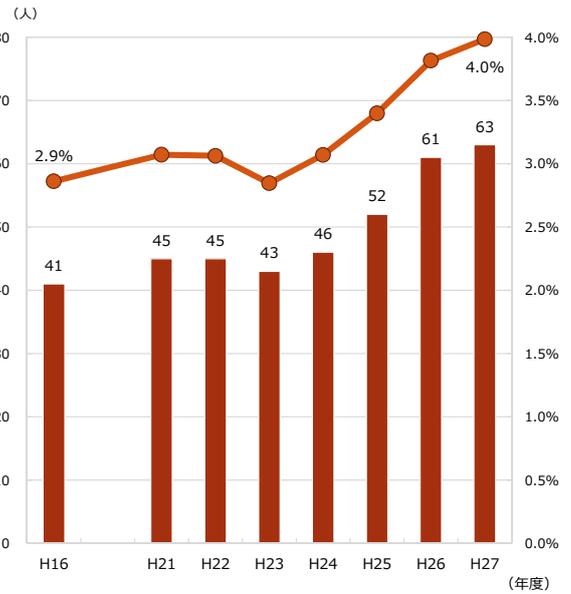
- 教員の平均年齢は昨年度の46.2歳から46.6歳へと上昇、若手教員率についても昨年度の27.3%から26.1%へと低下し、定年延長の影響が現れていることが分かる。
- 外国人教員については、人数・割合ともに増加傾向にある。
- 近年上昇傾向にあった女性教員比率だが、本年は昨年とほぼ同等の比率となっており、今後のさらなる多様な人材の採用が望まれる。

◆男女別・年齢別・職種別教員数◆
(神戸大学)



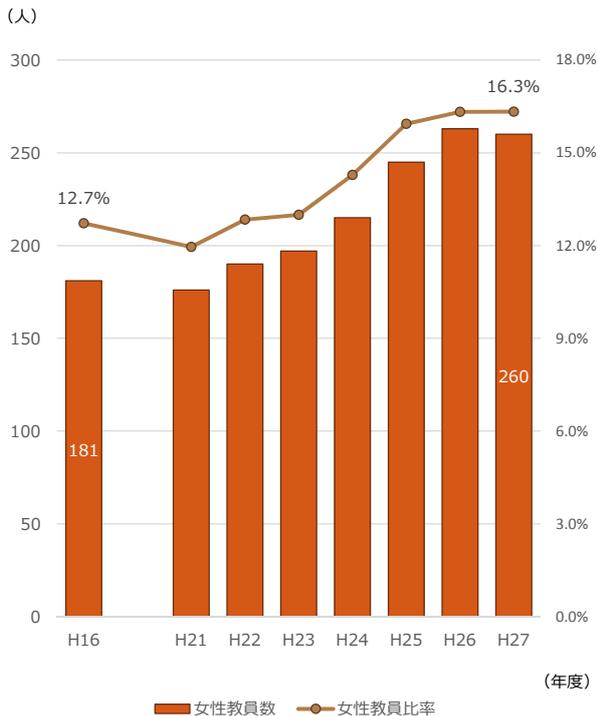
※教員平均年齢及び若手教員率算出には、役員・教諭の数を含まない。

◆外国人教員数・外国人教員比率◆
(神戸大学)

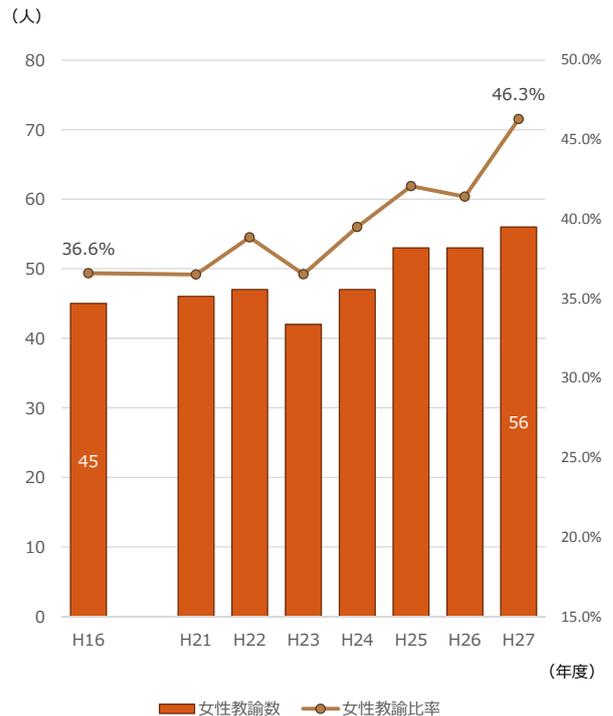


※平成27年5月1日現在の外国人教員の国籍は、中華人民共和国、アメリカ合衆国、大韓民国、ドイツ及びイギリス等20の国と地域となっている。

◆女性教員数・女性教員比率の推移◆
(神戸大学)



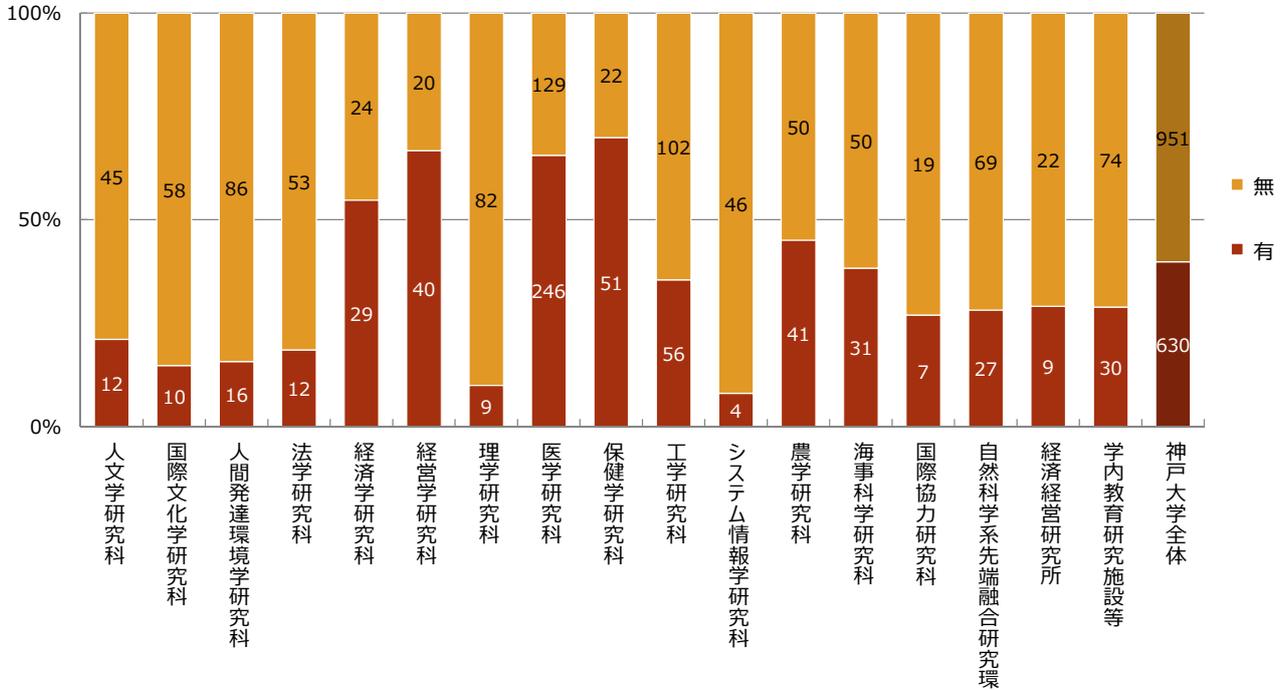
◆女性教諭数・女性教諭比率の推移◆
(神戸大学)



27-3 教員の神戸大学在学経験者

○ 教員の公募により幅広い人材の採用が進み、本学に在学経験のある教員は全体的に減少傾向にあるが、社会科学系及び生命・医学系の研究科においては、本学出身者が半数を超えている状況にある。

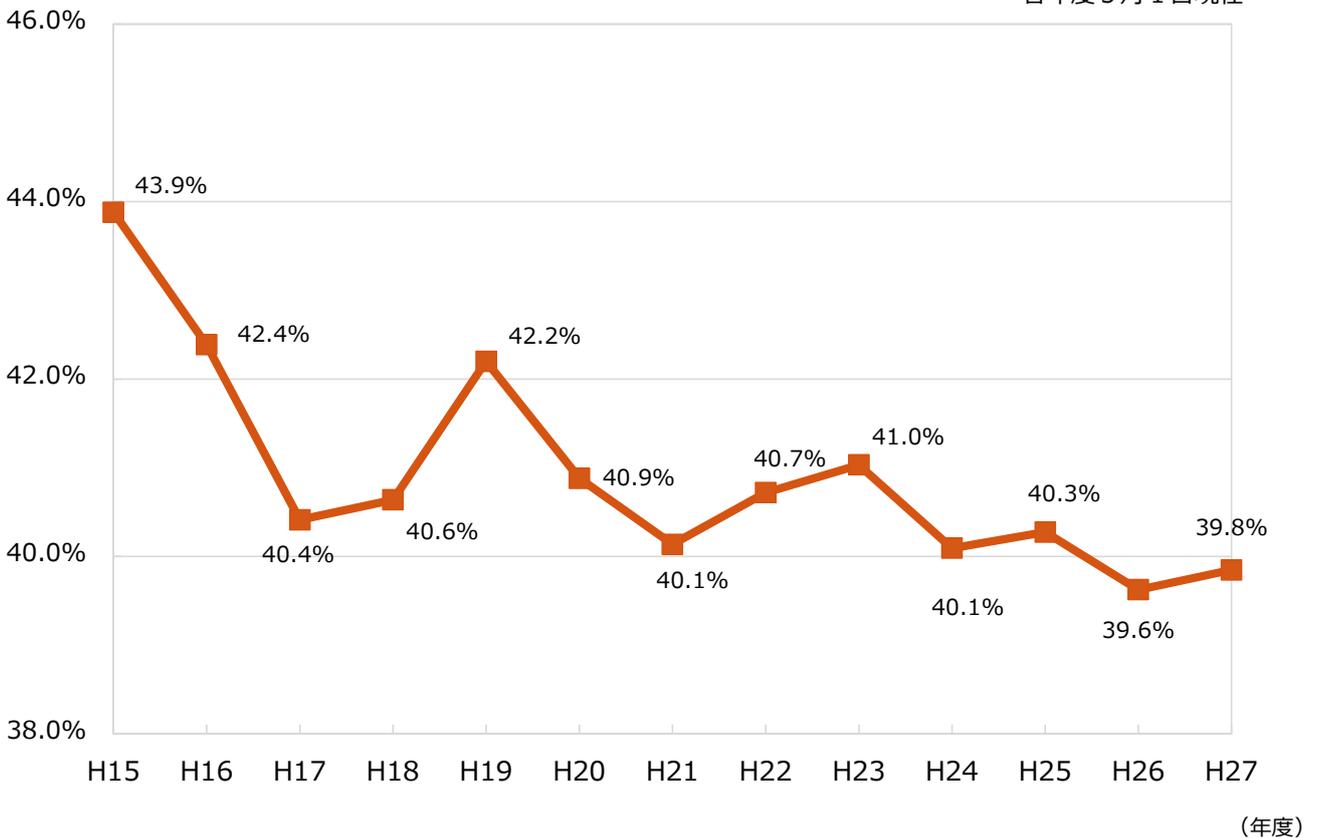
教員の神戸大学在学経験の有無（平成27年5月1日現在）



※グラフ内の数字は人数

教員の神戸大学在学経験者の推移

各年度5月1日現在

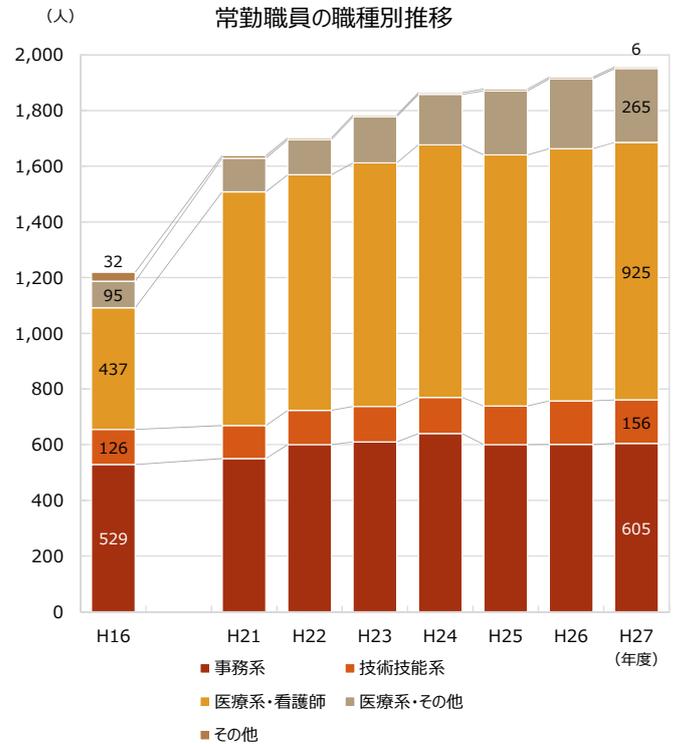
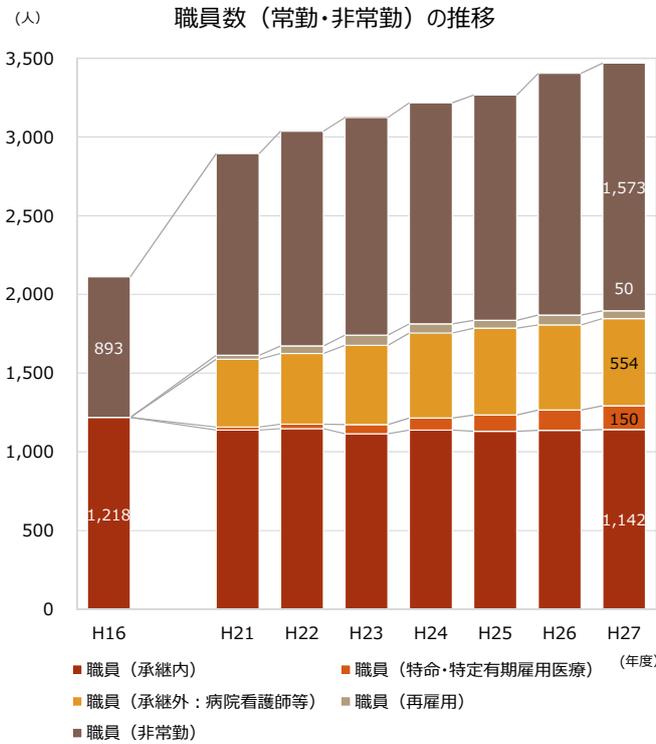


28. 職員

- 法人化時より常勤職員（承継内）が減少している一方、非常勤職員は大幅に増加している。職種別では、医療系職員が大幅に増加していることがわかる。
- 女性職員数の推移を見ると、法人化以降大幅に増加しているが、これは看護師等の医療系職員の増加によるものであることが伺える。

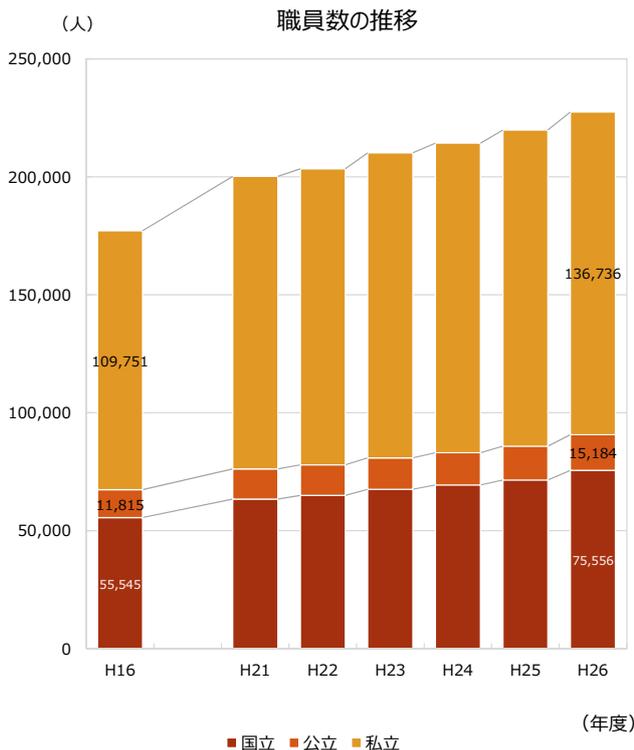
◆職員◆（神戸大学）

各年度5月1日現在

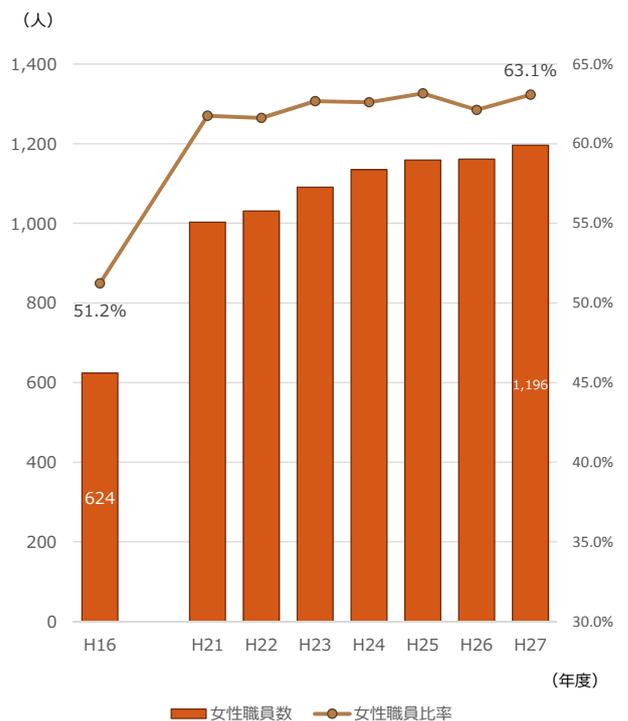


注）左図は休職者を含まない現員数を、右図は休職者を含む数値を記載しているため、左右のグラフで常勤職員の合計数は一致しない。

◆職員◆（全国）



◆女性職員数・比率の推移◆（神戸大学）



出典：文部科学省「学校基本調査」

29. 財務

29-1 貸借対照表の概要

■ 建物・構築物

□ 先端膜工学研究拠点棟

平成27年3月に先端膜工学研究拠点施設が設立されました。本研究拠点施設では、先端膜工学センターをはじめ、建築学系、市民工学系、電気電子工学系、機械工学系および応用化学系の「先端膜工学」に関する研究が、各方面から集中的に実施されます。

このような多角的研究の相乗効果により、日本に類を見ない「先端膜工学」に関する世界的研究拠点として、神戸の地において、世界先導型の教育と研究を推進します。



▲先端膜工学研究拠点棟

□ 海洋実習施設

平成26年11月に海洋実習施設の改修が完了しました。当施設は宿泊機能を備えており、教職員・学生の海事に関する教育・研究、実習および課外活動などに活用されています。



▲海洋実習施設

■ 図書

国立大学法人が教育・研究活動を行ううえで基礎となるものです。時の経過や使用により価値が減少するものではなく、永続的に教育・研究活動に資する重要な財産であるため、資産として計上しています。平成26年度の蔵書数は約374万冊となり、平成16年度末と比べると約37万冊増加しました。



▲社会科学系図書館 大閲覧室



▲社会科学系図書館 書架

(単位：億円)

資 産	
土地	835.2
建物	667.1
構築物	36.3
機械装置・工具器具備品	157.2
図書	220.4
建設仮勘定	11.3
投資有価証券	27.3
その他固定資産	11.8
現金及び預金	78.3
未収入金	64.4
有価証券	25.0
その他流動資産	6.0
資産合計	2,140.4

■ 建設仮勘定

建設仮勘定とは、建設中の建物などが完成するまでに支払った工事代などについて、いったん資産に仮計上しておくための仮の勘定科目です。工事が完了した時点で、建物などの勘定科目へ振り替えます。



<建設中> 建設仮勘定にて仮計上



<完成> 本来の勘定科目へ振替

■ 寄附金債務

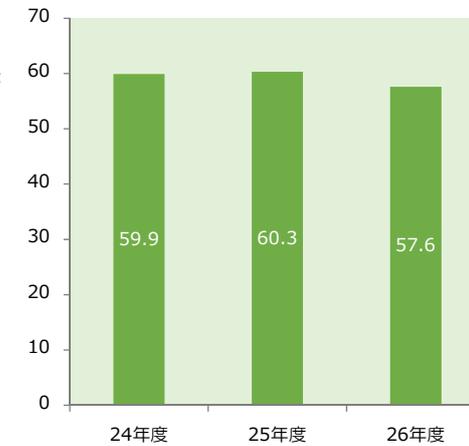
寄附金債務とは、次年度へ繰り越して使用する寄附金の残高です。寄附金は、受け入れたときに寄附金債務としていったん負債計上し、経費の使用に応じて収益へ振り替えます。平成26年度の寄附金債務の残高は57.6億円で、平成25年度と比べると約2.7億円の減少となりました。

平成26年度には、寄附金を使用して、フローサイトメーター（細胞分析装置）などの機器の購入や、附属中等教育学校の部室新営工事などを行いました。



▲フローサイトメーター

(億円) 寄附金債務の推移



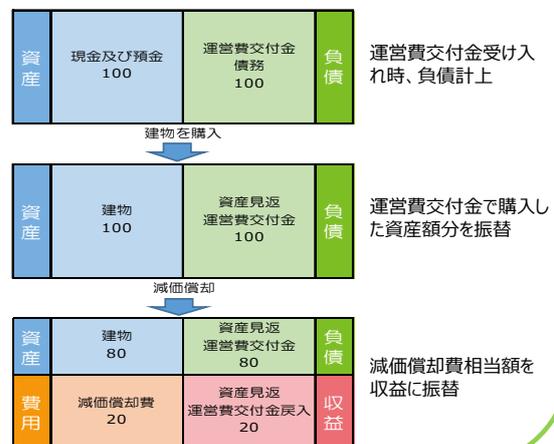
(単位：億円)

負債	
資産見返負債	332.2
寄附金債務	57.6
債務負担金・長期借入金	251.0
未払金	146.5
その他負債	42.5
負債合計	829.8
純資産	
資本金	1,217.7
資本剰余金	55.7
目的積立金	0.3
積立金	45.1
当期末処理損失	▲ 8.2
純資産合計	1,310.6
負債・純資産合計	2,140.4

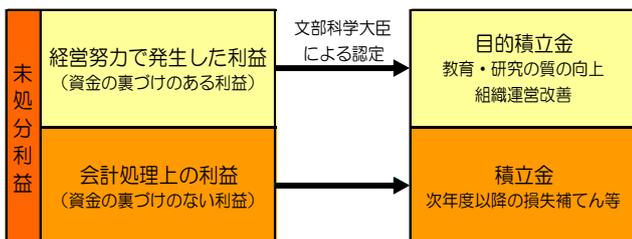
■ 資産見返負債

運営費交付金・授業料・寄附金・補助金等の財源で固定資産を取得した場合、負債に計上される勘定科目です。固定資産の減価償却に伴って資産見返負債は資産見返負債戻入という収益に振替えられ、これらの処理により資産・負債、収益・費用が均衡します。

例) 運営費交付金100を受け入れ、期中で建物100を購入した場合



■ 目的積立金と積立金について



未処分利益のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣の認定を受けたものについては、目的積立金として中期計画で定められた使途の範囲内において次年度以降、教育・研究の質の向上、組織運営改善のために使用することができます。平成26年度には目的積立金を使用して、弓道場の改修などを行いました。



▲弓道場

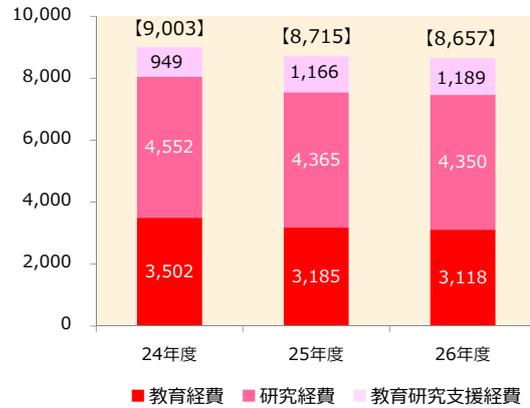
29-2 損益計算書の概要

■ 教育研究経費

教育と研究は大学の中心的活動です。平成24年度は大規模な改修工事に伴う修繕費等の支出があったため、教育研究経費が増加していましたが、平成26年度は改修工事が終了したため、平成24年度と比較し、約3億円の減少となりました。

(※) 教育研究支援経費とは、図書館、情報基盤センターなど特定学部等に所属せず大学全体の教育・研究双方を支援する施設で、学生や教員等が利用するための運営経費です。

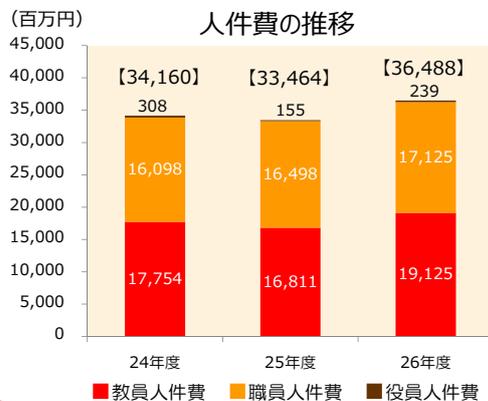
(百万円) 教育研究経費の推移



■ 人件費

国立大学法人において、人材は重要な資産であり、経常費用の大部分を占めています。平成26年度は、給与の臨時特例措置(※)等が終了したため、増加となりました。

(※) 厳しい国の財政事情及び東日本大震災に対処する必要性に鑑み、国家公務員の人件費を平成24年4月～平成26年3月まで2年間削減する特例措置。



(単位：億円)

費用	
教育研究経費	86.6
診療経費	206.6
受託研究費等	36.7
人件費	364.9
一般管理費	19.5
その他	3.9
経常費用合計	718.1
臨時損失	0.8
当期総損失	▲ 8.2
計	710.7

■ コスト削減活動

神戸大学は「ビジョン2015」に掲げる“卓越した大学経営”の一環として、全学的に「神戸大学コスト削減プロジェクト」を推進しています。

昨年度はコスト削減の活動をさらに広げるため、「第1回コスト削減取組プレゼン大会」を開催しました。各部署で行っているコスト削減活動を、神戸大学中が注目するプレゼン大会で紹介することで、良い取組を他の部署にも広げる機会となりました。

また、ステッカーを作成し、職員や学生に対して、コスト削減への啓発活動に努めております。今後も活動をさらに広げ、さらなるコスト削減に取り組んで参ります。



▲コスト削減取組プレゼン大会ポスター



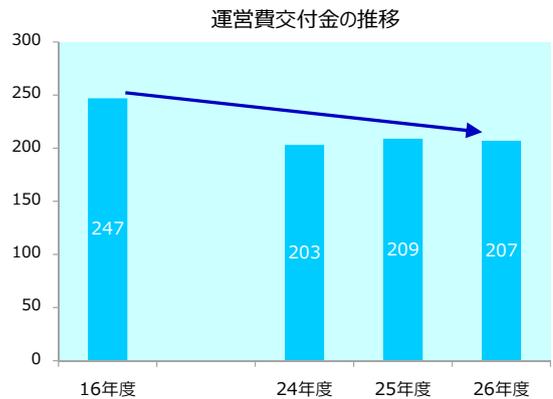
▲コスト削減ステッカー

■ 運営費交付金

大学の業務運営の基礎的財源として、国から運営費交付金が措置されています。現下の厳しい国の財政事情から、運営費交付金の交付額は年々減少しており、大学の財政は厳しい状況にあります。これを補うため、外部資金の獲得やコスト削減を強力に展開することで財源確保に努めています。

(※)25・26年度は復興関連事業等の特別運営費交付金が増えたこと等により、24年度より運営費交付金収入は増加しています。

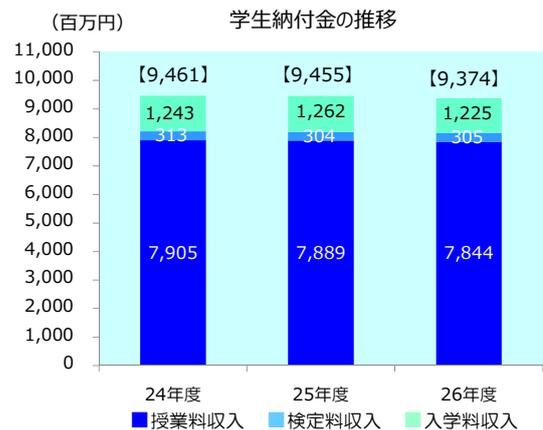
平成16年度比
運営費交付金 40億円減少(約16%)



(単位：億円)

収 益	
運営費交付金収益	209.6
学生納付金収益	99.5
附属病院収益	295.3
外部資金収益	72.8
資産見返負債戻入	17.7
その他	14.4
経常収益合計	709.2
臨時利益	1.1
目的積立金取崩額	0.3
計	710.7

■ 学生納付金の状況

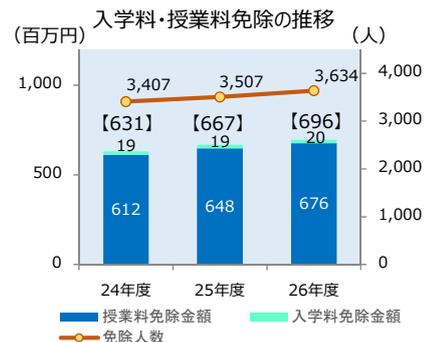


※学生納付金の推移は各年度の受入額を示しており、収益額とは異なります。

平成26年度の授業料・入学科・検定料といった学生納付金の収入額は約94億円となりました。学生納付金はやや減少の傾向にあり、平成24年度と比べると約9千万円の減少となりました。

□ 入学科・授業料の免除

教育格差を縮小させるため、経済的理由から入学科又は授業料の納付が困難で、かつ、学業優秀であると認められる学生に対して、入学科又は授業料の全額もしくは半額を免除する制度があります。



※免除人数には入学科免除者と授業料免除者を含んでおります。

■ その他収益

大学施設の開放による財産貸付料収益や「神戸大学ブランド」による農場収益、資金運用による財務収益など、自己収入の増加への取組も積極的に行っています。



▲神戸大学ビーフ

▲神戸大学の梨

29-3 貸借対照表

(単位：百万円)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年比較
資産の部				
I 固定資産	179,241	192,175	196,666	4,491
1 有形固定資産	176,932	189,569	193,569	4,000
土地	83,375	83,549	83,525	△ 25
減損損失累計額	△ 4	-	-	-
建物	94,279	102,613	111,135	8,522
減価償却累計額	△ 36,697	△ 40,243	△ 44,422	△ 4,179
減損損失累計額	△ 48	△ 1	△ 1	△ 0
構築物	5,251	5,596	5,898	302
減価償却累計額	△ 1,870	△ 2,063	△ 2,266	△ 203
機械装置	729	703	517	△ 187
減価償却累計額	△ 624	△ 595	△ 406	189
工具器具備品	32,127	40,425	44,740	4,315
減価償却累計額	△ 23,399	△ 25,453	△ 29,133	△ 3,680
図書	21,803	21,933	22,037	104
美術品・收藏品	725	725	754	28
船舶	405	439	445	6
減価償却累計額	△ 398	△ 402	△ 408	△ 6
車両運搬具	56	65	78	13
減価償却累計額	△ 51	△ 53	△ 50	2
建設仮勘定	1,274	2,329	1,126	△ 1,202
2 無形固定資産	289	358	350	△ 7
特許権	39	50	66	16
ソフトウェア	111	168	149	△ 19
著作権	51	51	51	0
電話加入権	1	1	1	-
産業財産権仮勘定	86	87	83	△ 5
3 投資その他の資産	2,020	2,249	2,747	498
投資有価証券	2,010	2,227	2,732	505
長期貸付金	5	5	4	△ 1
貸倒引当金	△ 1	△ 1	△ 0	1
長期前払費用	2	1	1	1
長期未収入金	69	78	66	△ 13
徴収不能引当金	△ 69	△ 78	△ 66	13
差入敷金・保証金	3	17	10	△ 7
出資金	0	0	0	-
預託金	0	0	0	0
II 流動資産	17,736	22,797	17,376	△ 5,421
現金及び預金	9,205	9,437	7,833	△ 1,604
未収学生納付金収入	109	93	119	26
徴収不能引当金(未収学生納付金収入)	△ 1	△ 1	△ 0	0
未収附属病院収入	5,207	5,502	5,655	153
徴収不能引当金(未収附属病院収入)	△ 14	△ 18	△ 10	8
その他未収入金	522	946	678	△ 268
未収還付消費税等	16	20	-	△ 20
有価証券	2,000	6,100	2,500	△ 3,600
たな卸資産	27	30	26	△ 4
医薬品及び診療材料	629	622	529	△ 93
前渡金	9	27	2	△ 25
前払費用	19	20	24	4
未収収益	5	13	11	△ 2
貸付金	1	1	1	0
立替金	2	5	8	3
その他流動資産	-	0	-	△ 0
資産合計	196,977	214,972	214,042	△ 930

※金額は端数を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合があります。
財務諸表の附属明細書等については、神戸大学のホームページをご覧ください。
(<http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/disclosure/law22/zaimu.html>)

(単位：百万円)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年比較
負債の部				
I 固定負債	44,002	54,868	59,758	4,890
資産見返負債	29,769	31,870	33,220	1,350
資産見返運営費交付金等	6,497	7,077	9,099	2,021
資産見返施設費	6	6	5	△ 0
資産見返補助金等	1,312	2,331	2,077	△ 254
資産見返寄附金	2,965	2,990	3,136	146
資産見返物品受贈額	18,574	18,442	18,309	△ 133
建設仮勘定見返運営費交付金等	94	349	235	△ 114
建設仮勘定見返施設費	228	636	269	△ 367
建設仮勘定見返補助金等	18	-	-	-
建設仮勘定見返寄附金	40	-	52	52
その他の資産見返負債	33	39	37	△ 2
長期寄附金債務	4	4	3	△ 0
国立大学財務・経営センター債務負担金	9,720	8,563	7,433	△ 1,130
長期借入金	3,278	11,540	15,513	3,974
退職給付引当金	268	303	343	39
資産除却債務	84	21	22	0
長期未払金	878	2,568	3,224	657
II 流動負債	20,567	27,511	23,222	△ 4,289
運営費交付金債務	1,821	3,499	858	△ 2,640
預り補助金等	10	-	0	0
寄附金債務	5,994	6,029	5,760	△ 269
前受受託研究費等	903	832	842	10
前受受託事業費等	141	56	55	△ 1
前受金	149	300	262	△ 39
預り科学研究費補助金等	323	472	413	△ 60
預り金	547	503	461	△ 42
一年以内返済予定国立大学財務・経営センター債務負担金	1,341	1,158	1,130	△ 28
一年以内返済予定長期借入金	230	475	1,024	549
未払金	8,268	13,290	11,423	△ 1,867
未払費用	571	602	623	21
未払消費税等	-	-	65	65
賞与引当金	271	295	305	11
その他流動負債	-	-	0	0
負債合計	64,569	82,379	82,980	600
純資産の部				
I 資本金	121,839	121,770	121,770	-
政府出資金	121,839	121,770	121,770	-
II 資本剰余金	5,260	6,174	5,575	△ 599
資本剰余金	32,670	36,297	38,509	2,212
損益外減価償却累計額 (△)	△ 27,399	△ 30,118	△ 32,929	△ 2,811
損益外減損損失累計額 (△)	△ 5	△ 1	△ 1	△ 0
損益外利息費用累計額 (△)	△ 6	△ 4	△ 5	△ 0
III 利益剰余金(繰越欠損金)	5,309	4,649	3,718	△ 931
前中期目標期間繰越積立金	1,451	1,451	1,451	△ 0
大学運営改善積立金	732	133	34	△ 98
積立金(前期繰越欠損金)	2,408	3,057	3,057	0
当期末処分利益(又は当期末処理損失)	718	8	△ 825	△ 833
(うち当期総利益又は当期総損失)	(718)	(8)	(△ 825)	(△ 833)
純資産合計	132,408	132,593	131,063	△ 1,530
負債・純資産合計	196,977	214,972	214,042	△ 930

出典：FINANCIAL REPORT 2015(神戸大学財務部発行)

29-4 損益計算書

(単位：百万円)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年比較
経常費用				
業務費	64,480	64,226	69,472	5,247
教育経費	3,502	3,185	3,118	△ 66
研究経費	4,552	4,365	4,350	△ 15
診療経費	17,673	18,476	20,656	2,180
材料費	10,561	10,583	11,509	926
委託費	1,702	1,820	1,842	22
設備関係費	3,623	3,793	5,387	1,594
研修費	3	2	1	△ 1
経費	1,784	2,278	1,917	△ 361
教育研究支援経費	949	1,166	1,189	24
受託研究費	3,112	2,919	2,973	54
受託事業費	532	651	699	48
役員人件費	308	155	239	83
教員人件費	17,754	16,811	19,125	2,314
常勤教員給与	16,852	15,960	18,264	2,304
非常勤教員給与	902	850	861	10
職員人件費	16,098	16,498	17,125	626
常勤職員給与	11,949	12,185	12,570	385
非常勤職員給与	4,149	4,313	4,555	242
一般管理費	1,584	1,812	1,950	138
財務費用	310	298	370	72
支払利息	307	298	370	72
その他財務費用	3	-	-	-
雑損	11	9	20	11
経常費用計	66,384	66,345	71,813	5,468
経常収益				
運営費交付金収益	19,073	18,090	20,962	2,872
授業料収益	8,371	8,319	8,376	57
入学金収益	1,276	1,265	1,271	7
検定料収益	313	304	305	1
附属病院収益	28,165	28,024	29,526	1,502
受託研究等収益	3,086	2,978	2,975	△ 3
国及び地方公共団体からの受託研究等収益	589	684	590	△ 94
国及び地方公共団体以外からの受託研究等収益	2,498	2,295	2,385	91
受託事業等収益	545	652	675	23
国及び地方公共団体からの受託事業等収益	240	246	318	72
国及び地方公共団体以外からの受託事業等収益	305	406	357	△ 49
補助金等収益	1,456	1,528	1,321	△ 207
施設費収益	319	229	33	△ 196
寄附金収益	1,801	1,944	2,271	327
資産見返負債戻入	1,455	1,630	1,765	135
資産見返運営費交付金等戻入	494	560	626	66
資産見返施設費戻入	0	0	0	△ 0
資産見返補助金等戻入	337	393	470	77
資産見返寄附金戻入	546	544	535	△ 9
資産見返物品受贈額戻入	77	132	133	0
財務収益	15	24	29	5
受取利息	6	10	13	4
有価証券利息	10	11	15	5
その他の財務収益	-	4	0	△ 3
雑益	1,234	1,186	1,413	227
研究関連収入	721	664	811	147
財産貸付料収益	83	87	108	20
宿舍貸付料収益	77	75	82	8
寄宿料収益	58	96	124	29
その他雑益	295	264	288	23
経常収益計	67,109	66,174	70,924	4,750
経常利益（又は経常損失）	725	△ 171	△ 888	△ 718

(単位：百万円)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年比較
臨時損失	132	128	79	△ 50
固定資産除却損	85	107	65	△ 42
固定資産売却損	-	12	-	△ 12
損害賠償金及び和解金	-	9	14	5
過年度返還費用	46	-	-	-
臨時利益	36	58	107	49
資産見返運営費交付金等戻入	3	2	14	13
資産見返補助金戻入	2	0	0	0
資産見返寄附金戻入	17	29	32	3
資産見返物品受贈額戻入	0	0	0	0
施設費収益	7	4	15	11
徴収不能引当金戻入	6	-	9	9
受取保険金	-	23	37	14
当期純利益（当期純損失）	629	△ 241	△ 859	△ 619
目的積立金取崩額	89	249	35	△ 214
当期総利益（当期総損失）	718	8	△ 825	△ 833

29-5 キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年比較
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	6,098	6,862	4,513	△ 2,349
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 23,252	△ 23,874	△ 25,058	△ 1,184
人件費支出	△ 35,053	△ 35,137	△ 36,682	△ 1,545
その他の業務支出	△ 1,879	△ 1,765	△ 1,810	△ 45
運営費交付金収入	20,264	20,947	20,720	△ 227
授業料収入	7,905	7,889	7,844	△ 46
入学金収入	1,243	1,262	1,225	△ 36
検定料収入	313	304	305	1
附属病院収入	28,008	27,680	29,335	1,655
受託研究等収入	2,725	2,816	3,147	331
受託事業等収入	574	520	602	83
補助金等収入	1,841	2,802	1,421	△ 1,381
寄附金収入	2,016	1,910	1,970	60
その他の業務収入	1,393	1,296	1,493	197
預り科学研究費補助金等の増減額	-	213	△ 1	△ 213
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,180	△ 13,621	△ 6,775	6,846
定期預金等の預入による支出	△ 24,450	△ 25,100	△ 30,300	△ 5,200
定期預金等の払戻による収入	24,300	24,400	31,700	7,300
有価証券の取得による支出	△ 20,400	△ 35,021	△ 28,011	7,010
有価証券の償還による収入	19,900	30,700	31,100	400
有形固定資産の取得による支出	△ 5,807	△ 12,272	△ 13,182	△ 909
無形固定資産の取得による支出	△ 66	△ 151	△ 123	28
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	0	104	-	△ 104
施設費による収入	2,323	3,749	2,004	△ 1,745
利息及び配当金の受取額	20	17	37	20
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 704	6,593	2,059	△ 4,535
リース債務の返済による支出	△ 992	△ 572	△ 930	△ 358
国立大学財務・経営センター債務負担金の返済による支出	△ 1,597	△ 1,341	△ 1,158	183
長期借入金の返済による支出	△ 165	△ 232	△ 475	△ 243
長期借入金の借入による収入	2,362	8,738	4,998	△ 3,741
利息の支払額	△ 312	△ 303	△ 376	△ 73
IV 資金増加額（又は減少額）	1,214	△ 469	△ 204	265
V 資金期首残高	1,091	2,305	1,837	△ 469
VI 資金期末残高	2,305	1,837	1,633	△ 204

出典：FINANCIAL REPORT 2015(神戸大学財務部発行)

29-6 国立大学法人等業務実施コスト計算書

(単位：百万円)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年比較
I 業務費用	21,714	21,704	25,084	3,381
(1) 損益計算書上の費用	66,516	66,473	71,891	5,418
業務費	64,480	64,226	69,472	5,247
一般管理費	1,584	1,812	1,950	138
財務費用	310	298	370	72
雑損	11	9	20	11
臨時損失	132	128	79	△ 50
(2) (控除) 自己収入等	△ 44,802	△ 44,769	△ 46,807	△ 2,038
授業料収益	△ 8,371	△ 8,319	△ 8,376	△ 57
入学金収益	△ 1,276	△ 1,265	△ 1,271	△ 7
検定料収益	△ 313	△ 304	△ 305	△ 1
附属病院収益	△ 28,165	△ 28,024	△ 29,526	△ 1,502
受託研究等収益	△ 3,086	△ 2,978	△ 2,975	3
受託事業等収益	△ 545	△ 652	△ 675	△ 23
寄附金収益	△ 1,801	△ 1,944	△ 2,271	△ 327
資産見返運営費交付金等戻入	△ 144	△ 141	△ 150	△ 9
資産見返寄附金戻入	△ 546	△ 544	△ 535	9
財務収益	△ 15	△ 24	△ 29	△ 5
財産貸付料収益	△ 83	△ 87	△ 108	△ 20
宿舍貸付料収益	△ 77	△ 75	△ 82	△ 8
寄宿料収益	△ 58	△ 96	△ 124	△ 29
その他の雑益	△ 295	△ 264	△ 288	△ 23
臨時利益	△ 26	△ 52	△ 90	△ 38
II 損益外減価償却等相当額	2,799	2,786	2,866	80
III 損益外減損損失相当額	0	-	-	-
IV 損益外利息費用相当額	2	2	0	△ 1
V 損益外除売却差額相当額	1	△ 19	1	20
VI 引当外賞与増加見積額	△ 134	132	75	△ 56
VII 引当外退職給付増加見積額	△ 731	△ 776	△ 1,396	△ 619
VIII 機会費用	769	885	545	△ 340
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	66	60	48	△ 12
政府出資の機会費用	703	804	497	△ 308
無利子又は通常よりも有利な条件による融資取引の機会費用	-	20	-	△ 20
IX 国立大学法人等業務実施コスト	24,420	24,713	27,176	2,463

※国立大学法人等の業務運営に関して最終的に国民（納税者）が負担するコストを示したものです。
国民の皆様が国立大学法人等の業務を評価、判断しやすくするために作成しています。

29-7 決算報告書

【平成26年度】

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額
収入			
運営費交付金	21,636	23,498	1,862
施設整備費補助金	1,940	1,919	△ 21
補助金等収入	1,769	1,537	△ 231
国立大学財務・経営センター施設費交付金	78	78	-
自己収入	41,113	39,330	△ 1,784
授業料、入学料及び検定料収入	9,548	9,374	△ 174
附属病院収入	31,096	29,335	△ 1,762
雑収入	469	620	151
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	6,266	8,486	2,219
引当金取崩	-	322	322
長期借入金収入	4,998	4,998	-
貸付回収金	5	3	△ 2
目的積立金取崩	55	107	52
計	77,860	80,276	2,416
支出			
業務費	60,900	61,152	252
教育研究経費	30,151	31,706	1,555
診療経費	30,749	29,446	△ 1,303
施設整備費	7,015	6,994	△ 21
補助金等	1,769	1,537	△ 231
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	6,267	6,806	539
貸付金	4	3	△ 1
長期借入金償還金	1,905	1,899	△ 5
計	77,860	78,392	531
収入－支出	-	1,885	1,885

※決算報告書は、予算の執行状況を明らかにするために作成が義務付けられている書類です。基本的には現金主義のもと作成されるため、発生主義のもと作成される損益計算書とは数値が一致しません。

30. 学内施設等

附属図書館

(平成26年度蔵書数 : 3,743,852冊)

(平成26年度貸出冊数 : 292,143冊)

(平成26年度入館者数 : 948,026人)

地域・社会との連携協力の一環として、平成16年度より毎年資料展を実施。

平成26年度は資料展「つたえる・つながる ～阪神・淡路大震災20年～」を開催。



海事博物館

(平成26年度来館者数 : 2,329人)

海事に関する資料を幅広く収集展示して教育研究の資に供し、あわせて海事の啓発に寄与することを目的とする施設で、和船模型と和船の部分実物や航路図、近代から現代の船舶模型や近代の航海用具、進水式絵葉書、寄贈コレクションや書籍など約3万点を収蔵する。

毎週、月・水・金の午後に開館

附属図書館大学文書史料室

(平成26年度来場者数 : 2,273人)

(常設展のみ)

特定歴史公文書等その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することを目的とする施設。

神戸大学の110年を超える伝統ある歴史を、貴重な歴史資料や写真等で振り返ることができる展示を実施。

常設の展示会だけでなく、年1回の特別展や東京等での巡回展も開催。



山口誓子記念館

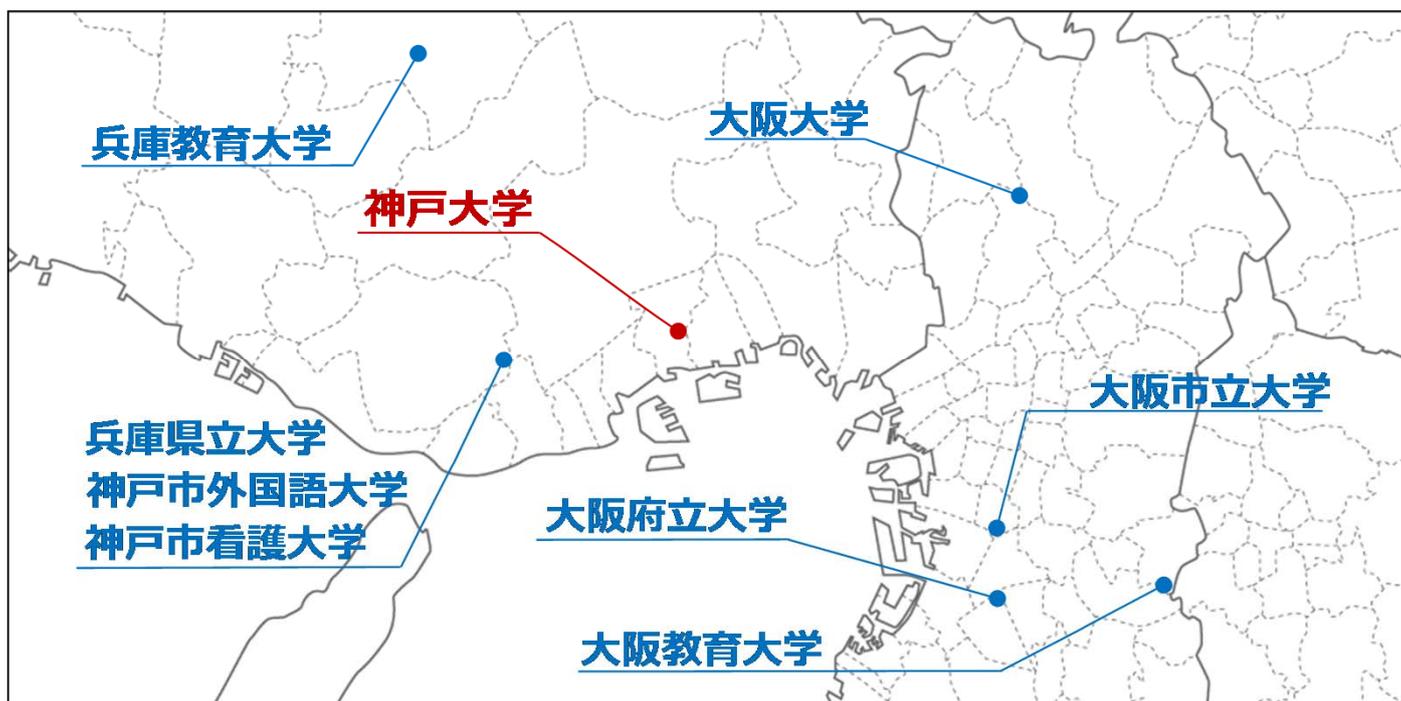
(平成26年度利用者数 : 620人)

近代俳句に大きな足跡を残した山口誓子氏の居宅の母屋を、ほぼ忠実に復元した施設。俳句俳諧文学を中心とする国文学研究の振興や海外との学術交流等に広く寄与することを目的とし、句会や茶会などにも利用できる。

近隣国公立大学のデータ・地図

大学名	神戸大学	大阪大学	大阪府立大学	大阪市立大学	兵庫県立大学
学部	文学部 国際文化学部 発達科学部 法学部 経済学部 経営学部 理学部 医学部 工学部 農学部 海事科学部	文学部 人間科学部 外国語学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 基礎工学部	現代システム科学域 工学域 生命環境科学域 地域保健学域	商学部 経済学部 法学部 文学部 理学部 工学部 医学部 生活科学部	経済学部 経営学部 工学部 理学部 環境人間学部 看護学部
大学院	人文学研究科 国際文化学研究科 人間発達環境学研究科 法学研究科 (法科大学院) 経済学研究科 経営学研究科 (経営専門職大学院) 理学研究科 医学研究科 保健学研究科 工学研究科 システム情報学研究科 農学研究科 海事科学研究科 国際協力研究科	文学研究科 人間科学研究科 法学研究科 経済学研究科 理学研究科 医学系研究科 歯学研究科 薬学研究科 工学研究科 基礎工学研究科 言語文化研究科 国際公共政策研究科 情報科学研究科 生命機能研究科 高等司法研究科(専門職) 大阪大学・金沢大学・浜松 医科大学・千葉大学・福井 大学連合小児発達学研究科	工学研究科 生命環境科学研究科 理学系研究科 経済学研究科 人間社会学研究科 看護学研究科 総合リハビリテーション学研究科	経営学研究科 経済学研究科 法学研究科 (法科大学院) 文学研究科 理学研究科 工学研究科 医学研究科 生活科学研究科 創造都市研究科 看護学研究科	経済学研究科 経営学研究科 工学研究科 物質理学研究科 生命理学研究科 環境人間学研究科 看護学研究科 応用情報科学研究科 シミュレーション学研究科 地域資源マネジメント研究科 会計研究科(専門職) 経営研究科(専門職) 緑環境景観マネジメント 研究科(専門職)
附属学校	附属幼稚園 附属小学校 附属中等教育学校 附属特別支援学校				附属中学校 附属高等学校

出典：各大学ホームページ



※図中の丸は本部所在地を示す。



神戸大学企画部企画課

平成27年9月作成

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL (078) 803-5031